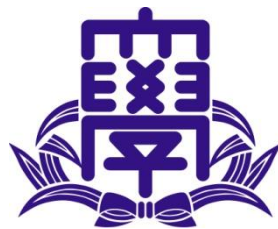


F D活動報告書

第 12 号 (2016 年度)

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2017 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法.....	2
(5) 対象科目リスト.....	3
II 2016 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 2016 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要.....	7
(2) 2016 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要.....	47
(3) 2016 年度授業評価アンケート（系平均）結果概要.....	85
III 2016 年度授業評価アンケートフォーム	101
IV 講演会	105

はじめに

関西大学大学院会計研究科は、創設からこれまで10年間を超える会計専門職教育を行ってきた。この10年以上の期間において、教育体制、カリキュラムおよび教育内容・方法など常に研究科として見直し、改善を試みてきた。また、個々の教員においても、それぞれが自己研鑽を繰り返し、最善の教育を目指して取り組んできた。このような取り組みを組織的に行っているのが、FD(Faculty Development)活動である。そして、このFD活動を推進してきたのが教務・FD委員会およびその下部組織としての専攻分野別教務・FD委員会である。このFD活動報告書は、FD活動の一環として作成しており、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしている。

本研究科では、このFD活動によって、教員の教育能力および教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っている。教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されない。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

FD活動報告書は、上記の学生による授業評価アンケートの結果とそれに対する教員の認識と今後の改善案を中心にして、本研究科が行ったFD活動をまとめたものである。FD活動報告書は、これまで第1号から第11号まで作成され、本書は2016年度のFD活動をまとめた第12号である。本研究科はこれまで2度の分野別認証評価を受けたが、評価基準のすべてを満たしていると評価され、「認定会計大学院」の称号を得ている。このFD活動報告書は、本研究科の自己点検・評価報告書と合わせて、評価を受けるにあたっての資料として提出されている。

我々は、今後もこのFD活動を通じて、「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計専門職業人」を養成すべく、会計専門職教育を継続的に充実・発展させていかなければならない。

今後も、FD活動を継続して行い、FD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育が向上していくであろうと確信している。

2017年3月

会計研究科長 三島 徹也

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2016年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。最終講義日の前回である第14回目の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務へ提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5)対象科目リスト(索引)

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
導入科目群	理論科目	選択科目	中級商業簿記	1	1	財務会計 春・秋 7・47
	理論科目	選択科目	中級工業簿記	1	1	管理会計 春・秋 8・48
基本科目群	横断科目	必修科目	会計専門職業倫理	1	2	横断科目 春 9
		必修科目	企業法	1	1	法 律 春前・秋 10・11・49
	理論科目	選択必修科目	上級簿記	1	1	財務会計 春前・秋 12・13・50
		選択必修科目	上級財務会計論	1	1	財務会計 春後・秋 14・15・51
		選択必修科目	上級原価計算論	1	1	管理会計 春前・秋 16・17・52
		選択必修科目	上級管理会計論	1	1	管理会計 春後・秋 18・19・53
		選択必修科目	監査制度論	1	1	監 査 春後 20
		選択必修科目	監査基準	1	1	監 査 春・秋 21・54
		選択必修科目	会計専門職業数学	2	1	横断科目 春
		選択必修科目	会計基準論	2	1	財務会計 春 22
		選択必修科目	会計制度論	2	1	財務会計 秋 55
		選択必修科目	財表作成簿記	2	1	財務会計 秋 56
発展科目群	理論科目	選択必修科目	戦略管理会計論	2	1	管理会計 秋 57
			上級税務会計論	2	1	税務会計 春 23
			租税法会計論	2	1	税務会計 秋 58
			公会計理論	2	1	行 政 不開講
			監査実施論	2	1	監 査 秋
			監査報告論	2	1	監 査 秋
			商法	2	1	法 律 春 24
			会社法	2	1	法 律 秋 59
			民法(総則・物権)	2	1	法 律 秋
			経営学理論	2	1	経 営 春
			インベストメント論	2	1	ファイナンス 春 25
			コーポレート・ファイナンス論	2	1	ファイナンス 秋 60
			ミクロ経済学	2	1	経済・IT 秋
			統計学	2	2	経済・IT 秋
			国際会計基準論	2	2	財務会計 秋 61
			国際会計制度論	2	2	財務会計 春
			企業分析論	2	2	管理会計 春 26
			コストマネジメント論	2	2	管理会計 秋 62
			上級税務戦略論	2	2	税務会計 秋
			公監査論	2	2	行 政 春
			政府・自治体会計論	2	2	行 政 春 27
			国際監査制度論	2	2	監 査 不開講
			金融商品取引法	2	2	法 律 不開講
	実践科目	選択必修科目	上級会社法	2	2	法 律 春 28
			租税法理論	2	2	法 律 秋 63
			民法(債権)	2	2	法 律 春
			経営戦略論	2	2	経 営 秋
			経営組織論	2	2	経 営 秋
			資本市場論	2	2	ファイナンス 春 29
			マクロ経済学	2	2	経済・IT 春
			会計事例研究	2	1	財務会計 春 30
			管理会計事例研究	2	1	管理会計 春
			監査事例研究	2	1	監 査 秋 64
			基本会計プログラム演習	2	1	経済・IT 秋 65
			基本監査プログラム演習	2	1	経済・IT 春 31
			BATIC演習	2	1	経済・IT 秋
			IFRS実務	2	1	財務会計 秋
			会社経理実務	2	1	財務会計 春 32
			ディスクロージャー実務	2	2	財務会計 秋 66
			税務会計事例研究	2	2	税務会計 春
			企業法判例演習	2	2	法 律 秋
			起業・株式公開事例研究	2	2	経 営 春
			実践会計プログラム演習	2	2	経済・IT 秋 67
			実践監査プログラム演習	2	2	経済・IT 夏集
	個別演習科目	選択必修科目	ソリューション・イン・アカデミック	2	1	個別演習科目 秋 68-71
		選択必修科目	ソリューション・イン・プロフェッショナル	2	2	個別演習科目 春 33-37
		選択必修科目	ソリューション・イン・エキスパートタイズ	2	2	個別演習科目 秋 72
		選択必修科目	論文指導・修士論文(基礎)	2	1	個別演習科目 秋 73-74
		選択必修科目	論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目 通年 75

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
横断科目	特殊講義(企業経営を取り巻く会計の課題と方向)	2	1	横断科目	春	
	特殊講義(経営と会計)	2	1	横断科目	秋	76
横断科目	特殊講義(グローバル化と会計)	2	1	横断科目	秋	77
	特殊講義(証券7リスト協会寄附講座・証券アナリストの基礎)	2	1	横断科目	春	
	特殊講義(ERPと会計)	2	1	横断科目	春	38
	特殊講義(税務と会計)	2	1	横断科目	秋前	78
	特殊講義(労務と会計)	2	1	横断科目	秋前	79
	特殊講義(日本内部監査協会寄附講座・実践内部統制)	2	1	横断科目	秋後	80
	特殊講義(実践経営戦略)	2	1	横断科目	秋後	81
	中小企業金融論	2	1	ファイナンス	秋	
	会計検査制度論	2	1	監 査	秋	
	実践コミュニケーション	2	1	経済・IT	秋	
	英文会計論	2	2	財務会計	秋	
	会計戦略論	2	2	財務会計	春	39
応用科目群	理論科目	選択必修科目	資産会計論	2	2	財務会計 春 40
			負債・資本金会計論	2	2	財務会計 春 41
			企業結合会計	2	2	財務会計 春
			企業価値マネジメント論	2	2	管理会計 春
			マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計 秋
			国際税務戦略論	2	2	税務会計 春
			非営利会計論	2	2	行 政 春
			国際公会計制度論	2	2	行 政 春 42
			保証業務論	2	2	監 査 不開講
			内部監査論	2	2	監 査 春
			不正摘発監査論	2	2	監 査 不開講
			法人税法	2	2	法 律 春 43
	実践科目	選択必修科目	行政法	2	2	行 政 秋
			プロダクト・マネジメント論	2	2	経 営 不開講
			国際経営論	2	2	経 営 不開講
			リスク分析論	2	2	ファイナンス 春
			国際財務戦略論	2	2	ファイナンス 春 44
			公共経済学	2	2	経済・IT 秋
			XBRL論	2	2	経済・IT 春
			国際会計事例研究	2	2	財務会計 秋
			国際管理会計事例研究	2	2	管理会計 春
			国際税務会計事例研究	2	2	税務会計 秋
			公会計・公監査事例研究	2	2	行 政 秋
			国際監査事例研究	2	2	監 査 不開講
会計系科目	平均	均	財務会計系			85
			管理会計系			86
			税務会計系			87
			監査系			88
	非会計系科目	平均	法律系			89
			経営系			
			ファイナンス系			90
			行政系			91
			経済・IT系			92
			個別演習科目(ソリューション・イン・アカデミック)			93
			個別演習科目(ソリューション・イン・プロフェッショナル)			94
			個別演習科目(ソリューション・イン・エキスパートタイズ)			95
			個別演習科目(論文指導・修士論文)			96-97
			系別平均			98

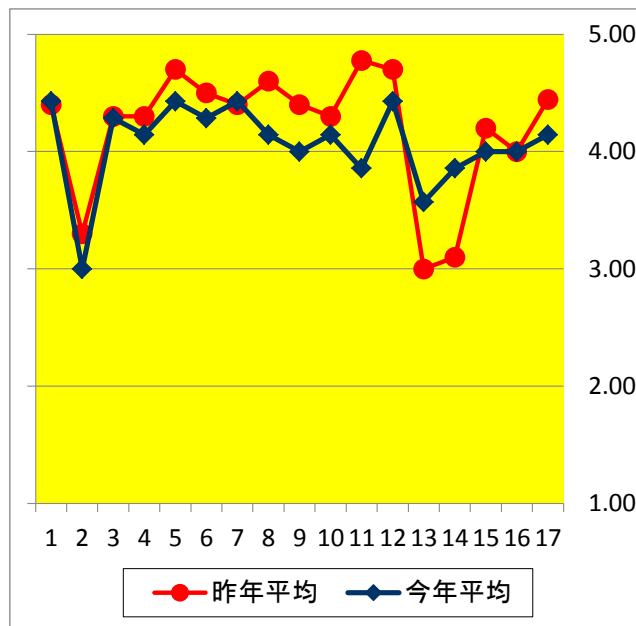
※掲載対象科目は、2016年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

(ソリューション・イン・エキスパートタイズ(宗岡クラス))については、諸事情により未実施)

Ⅱ－(1)．2016 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(A)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	17	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.43	5	5	3
2	3.30	3.00	3	3	3
3	4.30	4.29	5	5	3
4	4.30	4.14	5	5	2
5	4.70	4.43	5	5	3
6	4.50	4.29	5	5	3
7	4.40	4.43	5	5	3
8	4.60	4.14	5	5	3
9	4.40	4.00	3・5	5	3
10	4.30	4.14	4	5	3
11	4.78	3.86	5	5	2
12	4.70	4.43	5	5	3
13	3.00	3.57	5	5	2
14	3.10	3.86	3	5	3
15	4.20	4.00	5	5	2
16	4.00	4.00	5	5	2
17	4.44	4.14	5	5	3
回答者数	10	7			



受講生の傾向

例年に比べて、簿記の習熟度が低い受講生が多かった。昨年と同様に、受講生の大半が留学生であった。下記のように、今年度は過去に例を見ないフォロー体制であり、予習復習の時間(質問13、質問14)は昨年より大きく改善されたが、満足度(質問11)は大きく下がっている。これ以上に丁寧なフォロー体制は考えにくいところであるが、一方で受講生の出席状況は昨年より低く(質問12)、定期的の実施したミニテストの成績も良くない状況であった。スキルアップ講座の出席状況も毎回数名程度であり、受講生がフォロー体制を活かしていないことが推察される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目の特性上、受講生の簿記の習熟度は個々人で異なることから、全体説明よりも個別の質問対応を重視して、全員の理解を確認して回った。とくに今年度は、中国語と日本語でコミュニケーションのとれる本研究科の学生にTAを依頼して、留学生の学習をフォローしてもらった。また、課外で日商簿記2級のスキルアップ講座を開設して、通常の講義や普段の学習で分からないところをフォローしてもらった。さらに、講義中の質問対応は、教員とTAのほか、スキルアップ講座の講師や博士課程の大学院生にも有志でフォローしてもらおうという、過去に例を見ないフォロー体制であった。教員の質問対応(質問8)が昨年より下がっているのは、とくに留学生が教員よりもTAに質問し、中国語で会話していることが多かったことによるものと推察される。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

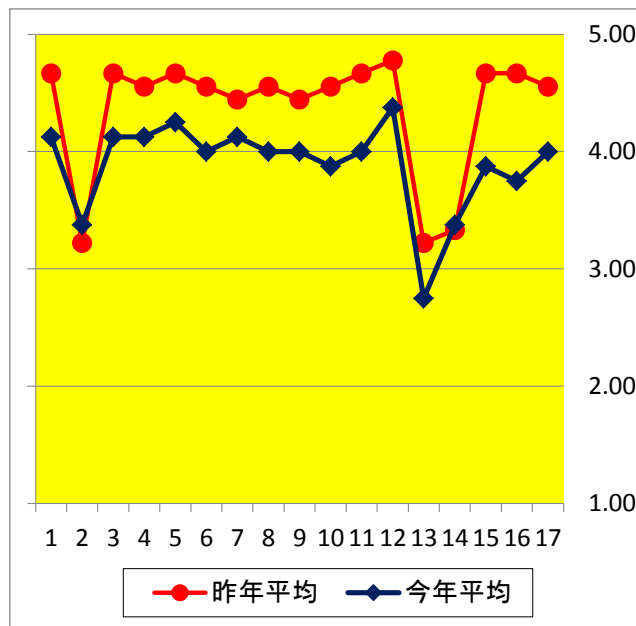
日本語でのコミュニケーションが難しい状況は、ゆっくりと説明するなどの対応はもちろんであるが、受講生に講義内容の予習を促し、事前に予備知識を得ておいてもらうことで改善される可能性もある。その意味で、ほぼ毎回の講義でミニテストを行ったことは、ひとつの対応策であった。ミニテストで予習時間が増えたことは、質問13に表れている。次年度は、受講生の様子をみて考えることにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

例年、講義中の質問対応は教員1名で行っていたが、今年度は4名(教員、TA、スキルアップ講座の講師、博士課程の大学院生)で行った。さらに、今年度は課外で日商簿記2級のスキルアップ講座を開設して、受講生全員に必ず出席するように促した。これ以上のフォロー体制を教学として用意することは難しいが、スキルアップ講座の出席状況は毎回数名程度であり、受講生はフォロー体制を活かしていない。次年度も、可能であれば同様のフォロー体制で臨み、受講生には大学院生としての自覚と勉学意欲、緊張感をもって日常の勉学に励むように指導する。

科 目	中級工業簿記(A)			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	16	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.13	4・5	5	3
2	3.22	3.38	3	5	3
3	4.67	4.13	4・5	5	3
4	4.56	4.13	4・5	5	3
5	4.67	4.25	5	5	3
6	4.56	4.00	3・5	5	3
7	4.44	4.13	4・5	5	3
8	4.56	4.00	4	5	3
9	4.44	4.00	4	5	3
10	4.56	3.88	4	5	3
11	4.67	4.00	4	5	3
12	4.78	4.38	5	5	3
13	3.22	2.75	3	4	1
14	3.33	3.38	3	5	2
15	4.67	3.88	4	5	3
16	4.67	3.75	4	5	3
17	4.56	4.00	4	5	3
回答者数	10	8			



受講生の傾向

本講義は、会計の知識が十分ではない学生に対する導入科目という位置づけである。受講生は比較的まじめに出席して、演習に取り組んでいた。しかし、受講生間で知識のばらつきが大きいと思われる。また、昨年度よりも、受講生の数が増加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回の結果を受けて、授業の方法は昨年度と同じように行うよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

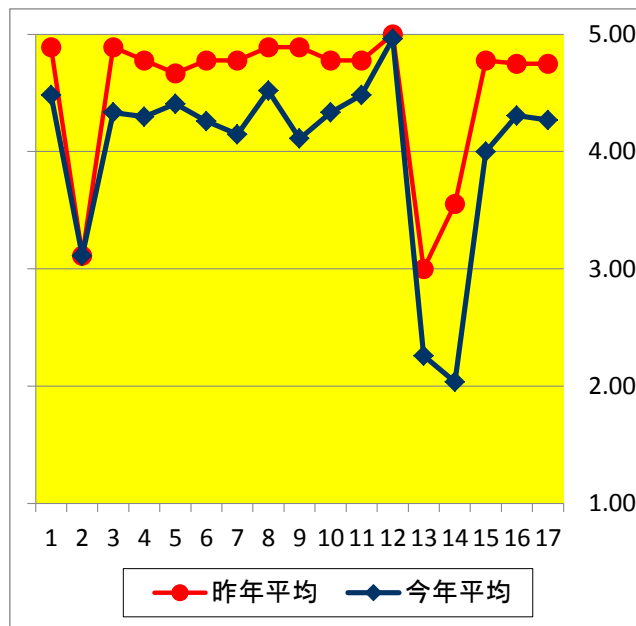
今回の評価結果は全ての側面で前回よりも大きく上昇した。そのため、前々回から前回からにかけての評点の低下は一時的な現象であったと解釈することが妥当であると考えられる。したがって、現在の授業の方法をベースにしながら、細かな点の改善を積み重ねることが必要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前回と同じような対応を継続したにもかかわらず、今回は前回よりも評点が減少している。今年度の評価も比較的良いとはいえ、今後は学生に対して、よりきめの細かい対応を行うことが必要であると考えている。

科 目	会計専門職業倫理(A)			
配当年次	2	開講時限	春水2	
受講者数	26	回答者数	27	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.89	4.48	5	5	2
2	3.11	3.11	3	5	3
3	4.89	4.33	5	5	1
4	4.78	4.30	5	5	1
5	4.67	4.41	5	5	3
6	4.78	4.26	5	5	1
7	4.78	4.15	4	5	2
8	4.89	4.52	5	5	3
9	4.89	4.11	5	5	3
10	4.78	4.33	5	5	2
11	4.78	4.48	5	5	3
12	5.00	4.96	5	5	4
13	3.00	2.26	1	5	1
14	3.56	2.04	1	5	1
15	4.78	4.00	4	5	2
16	4.75	4.31	4	5	3
17	4.75	4.27	4・5	5	3
回答者数	9	27			



受講生の傾向

秋学期不開講のため、春学期に可能な限り受講者を集めた。その結果、7班編成となり多くの事例研究を実施することができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

できる限り7班のレベルに落差がないように工夫し(留学生を分散するなど)、多くのディスカッション等の時間を持つようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

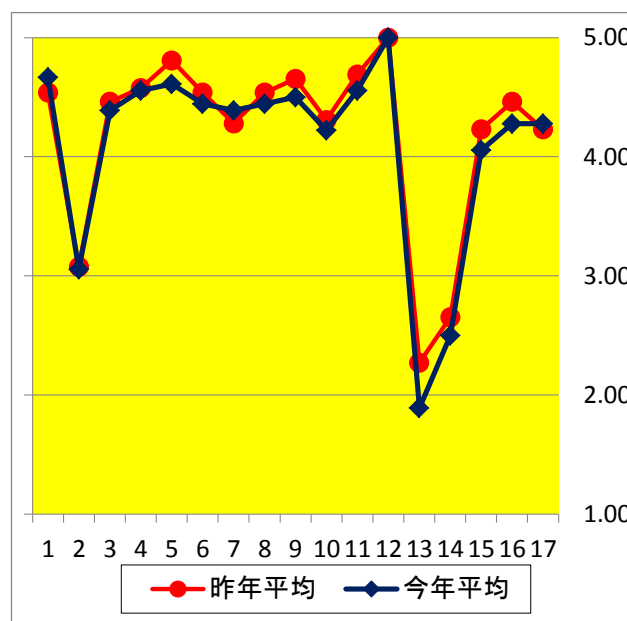
少人数のクラスについては班編成等の工夫が必要である。全員が事例研究を含め、ディスカッション等に参加できるように工夫を重ねていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回はここ数年の中で最も人数の多いクラスとなった。その分、学習の進んだ者と日本語の理解も難しい者等のレベルの開きが大きかった。昨年の課題は克服できたと考えているが、全般的に満足度を向上させる努力が必要。

科 目	企業法(A1)			
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3	
受講者数	21	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.67	5	5	4
2	3.08	3.06	3	4	3
3	4.46	4.39	4	5	3
4	4.58	4.56	5	5	4
5	4.81	4.61	5	5	4
6	4.54	4.44	5	5	3
7	4.28	4.39	4	5	4
8	4.54	4.44	5	5	3
9	4.65	4.50	5	5	3
10	4.31	4.22	4	5	3
11	4.69	4.56	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.27	1.89	1	3	1
14	2.65	2.50	2	5	1
15	4.23	4.06	4	5	3
16	4.46	4.28	4	5	3
17	4.23	4.28	4	5	2
回答者数	26	18			



受講生の傾向

今年度は入学者数の関係で2クラス開講となった。ただ、例年の授業と大きく変化はなく、本授業は基本科目ということもあり、ほとんどの受講者が出席し、遅刻者もほとんど見られなかった。また、受講生の大半は受講態度もよく熱心に授業に集中していた。しかし、すでに企業法を学習している学生もいれば企業法をはじめて学習する学生もあり、また企業法の学習度合いも差異があり、授業の難易度についてはその感じ方にばらつきが見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

上記で示したように、企業法の学習度合いに差はみられるものの、企業法の本来の趣旨である企業法の基礎を学習するということを徹底して、より基礎学力を習得することができるよう心がけた。さらに、法学を習得するということはその考え方や法的文章の作成をすることも習得することを意味する。そこで、知識の習得のみならず、法的な論文作成能力を高められるよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

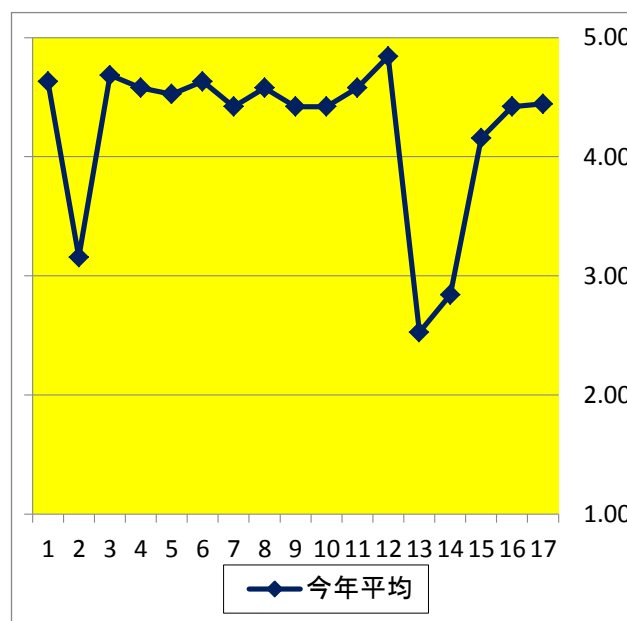
今後の対応としては、企業法においては、その内容を学生に理解してもらい、それを確認するという作業は引き続き必要となるが、上記でも示したように論文作成能力を身に付けさせることもまた重要である。今後も引き続き論文作成の指導を続けていくつもりであるが、全体の授業の中でバランスよくそれを組み入れる必要があり、かつより効果的な方法で行っていくべく工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本科目は、企業法の基礎を学習するとともに、法学の基礎についてもここで習得することを目的としている。よって、基本的な法律用語等も含めて法的な思考方法ないし考え方を身に付けられるようにし、今後の法律系の授業をスムーズに受けられるようにしていきたい。よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

科 目	企業法(A2)			
配当年次	1	開講時限	春前火3・金2	
受講者数	20	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.63	5	5	3
2	—	3.16	3	5	2
3	—	4.68	5	5	3
4	—	4.58	5	5	3
5	—	4.53	5	5	3
6	—	4.63	5	5	3
7	—	4.42	5	5	3
8	—	4.58	5	5	3
9	—	4.42	5	5	3
10	—	4.42	4・5	5	3
11	—	4.58	5	5	3
12	—	4.84	5	5	4
13	—	2.53	2	5	1
14	—	2.84	2	5	1
15	—	4.16	4	5	2
16	—	4.42	4・5	5	3
17	—	4.44	5	5	3
回答者数	—	19			



受講生の傾向

本講義は、企業法(A1)と同内容の授業であって、今年度は入学者数の関係で2クラス開講となった。A1クラスとは異なるが、アンケートの結果としては、特に変わるところがみられなかった。私としても、両クラスで企業法の理解力や熱心さに差異があったようには思わなかった。A1クラスと同様に、例年の授業と大きく変化はなく、ほとんどの受講者が出席し、遅刻者もほとんど見られず、受講生の大半は受講態度よく熱心で授業に集中していた。授業の難易度の感じ方についてもばらつきが見られる点で、A1クラスとほぼ同じ結果となった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

A1クラスにおける記述で示したように、企業法の学習度合いに差はみられるものの、企業法の本来の趣旨である企業法の基礎を学習するということを徹底して、より基礎学力を習得することができるよう心がけた。さらに、この点もA1クラスと重複するが法学を習得するということはその考え方や法的文章の作成をすることも習得することを意味するので、知識の習得のみならず、法的な論文作成能力を高められるよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

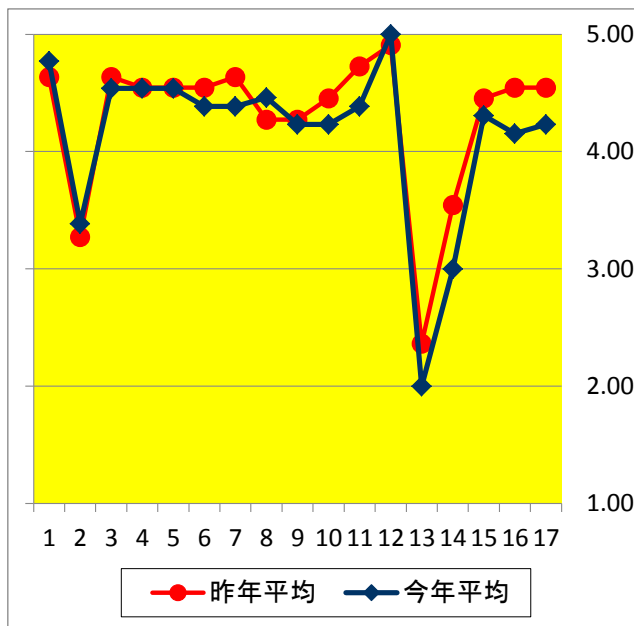
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「今後の対応」としては、A1クラスとA2クラスにおいて共通となるが、この科目は、企業法の基礎を学習するとともに、法学の基礎についてもここで習得することを目的としている。よって、基本的な法律用語等も含めて法的な思考方法ないし考え方を身に付けられるようにし、今後の法律系の授業をスムーズに受けられるようにしていきたい。よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

科 目	上級簿記(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	14	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.77	5	5	4
2	3.27	3.38	3	5	3
3	4.64	4.54	5	5	4
4	4.55	4.54	5	5	4
5	4.55	4.54	5	5	4
6	4.55	4.38	4・5	5	3
7	4.64	4.38	4	5	4
8	4.27	4.46	4	5	4
9	4.27	4.23	4	5	3
10	4.45	4.23	4	5	3
11	4.73	4.38	4	5	4
12	4.91	5.00	5	5	5
13	2.36	2.00	1	4	1
14	3.55	3.00	3	5	1
15	4.45	4.31	4	5	3
16	4.55	4.15	4	5	3
17	4.55	4.23	4	5	3
回答者数	11	13			



受講生の傾向

簿記の習熟度が高い受講生と低い受講生がいて、そのレベル差が大きいと感じることが多々あった。アンケート結果を昨年と比較すると、全体的には昨年と同様の傾向にあるが、気になる点として、勉強時間(質問13、質問14)が昨年より低く、満足度(質問11、質問17)も昨年より低い。一方で、今年のA2クラスと比較すると、A2クラスの方が勉強時間が長く(質問13は2.67、質問14は3.25)、満足度も高い(質問11は4.75、質問17は4.67)。A1クラスとA2クラスで、問題に取り組む姿勢や考える力に差があったかもしれない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。また、より基本的で重要度の高い論点は優先的に取り上げて説明するなど、論点ごとの説明や重点の置き方にメリハリをつけ、全体説明と問題演習の時間配分も工夫した。重要な基本例題は講義中に解いてもらい、その場で個別に質問に応じたり、間違いを指摘して指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、概ね受講生のニーズと合致していると考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

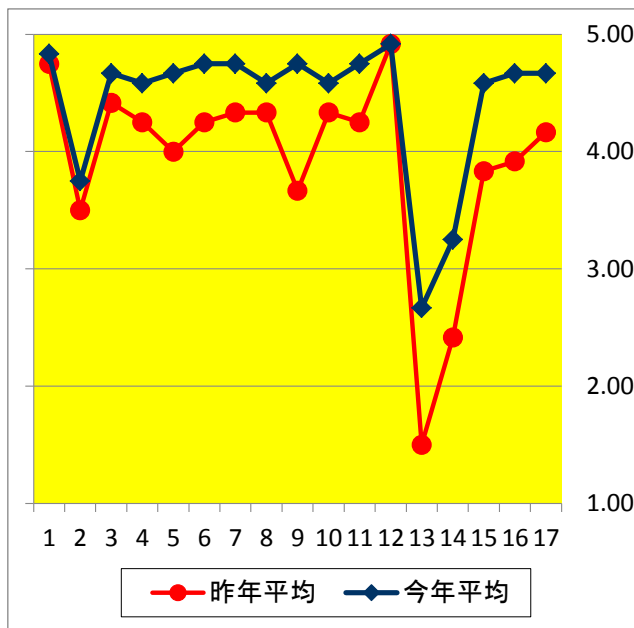
全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

科 目	上級簿記(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	20	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.83	5	5	3
2	3.50	3.75	3	5	3
3	4.42	4.67	5	5	4
4	4.25	4.58	5	5	4
5	4.00	4.67	5	5	3
6	4.25	4.75	5	5	4
7	4.33	4.75	5	5	4
8	4.33	4.58	5	5	4
9	3.67	4.75	5	5	4
10	4.33	4.58	5	5	4
11	4.25	4.75	5	5	4
12	4.92	4.92	5	5	4
13	1.50	2.67	1	5	1
14	2.42	3.25	3・5	5	1
15	3.83	4.58	5	5	4
16	3.92	4.67	5	5	4
17	4.17	4.67	5	5	3
回答者数	12	13			



受講生の傾向

簿記の習熟度が高い受講生と低い受講生がいて、そのレベル差が大きいと感じることが多々あった。アンケート結果を昨年と比較すると、同様の講義展開でありながら全体的に改善されている。昨年の報告書で分析したように、昨年のA2クラスは、全体的にモチベーションが低く、受け身の傾向にある受講生が多かった。今年は、それとは対称的な受講生が多かったということであろう。このことは、教員の説明をよく聞き(質問5)、宿題を積極的に受け止めて講義内容の理解に努め(質問9)、予習復習に時間をかけ(質問13、質問14)、向上心をもって受講していること(質問15、質問16)に表れている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。また、より基本的で重要度の高い論点は優先的に取り上げて説明するなど、論点ごとの説明や重点の置き方にメリハリをつけ、全体説明と問題演習の時間配分も工夫した。重要な基本例題は講義中に解いてもらい、その場で個別に質問に応じたり、間違いを指摘して指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、概ね受講生のニーズと合致していると考えてよい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

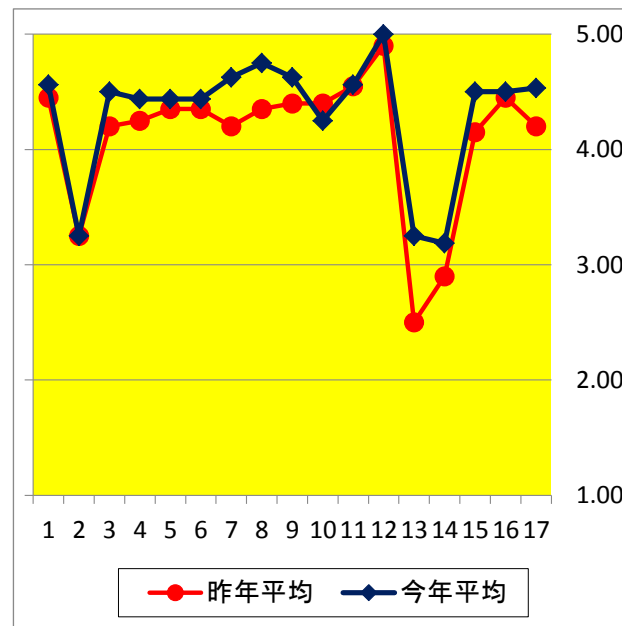
A1とA2は、上級簿記を学籍番号でクラス分けしたものであり、テストの内容は同じである。クラス毎に異なる難易度・範囲で講義をすることはできない。また、受講生のニーズは様々であるが、テクニカルな解法に重点を置くことは、上級レベルの簿記の学習方法として効果的ではないし、会計大学院の講義として相応しいものではない。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、講義を展開することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回のアンケート結果を受けて、昨年のA2クラスは全体的に消極的であり、特異であった可能性が示唆される。一方で、今年のA2クラスは全体的に積極的であり、これもまた特異である可能性がある。いずれにせよ、今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにした。

科 目	上級財務会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	16	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.45	4.56	5	5	4
2	3.25	3.25	3	4	3
3	4.20	4.50	4・5	5	4
4	4.25	4.44	4	5	4
5	4.35	4.44	5	5	3
6	4.35	4.44	5	5	3
7	4.20	4.63	5	5	4
8	4.35	4.75	5	5	4
9	4.40	4.63	5	5	3
10	4.40	4.25	5	5	3
11	4.55	4.56	5	5	4
12	4.90	5.00	5	5	5
13	2.50	3.25	2	5	2
14	2.90	3.19	3	5	1
15	4.15	4.50	4・5	5	4
16	4.45	4.50	4・5	5	4
17	4.20	4.53	5	5	4
回答者数	20	16			



受講生の傾向

2クラス開講のうちの1つで、概ねが熱心に受講していたが、欠席が散見され、積極的に講義内容を理解しようとする受講生とそうでない受講生と分かれたところがある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義は、基本的にパワーポイントで資料提示をしつつ行っているが、適宜、ホワイトボードを使用して、追加説明をするようにしている。また、各回の講義内容のポイントを、講義の最後と次回の講義の冒頭で説明し、同時に、次回の講義内容の範囲と注意すべき事項を説明することで、予習・復習に役立つようにした。また、2クラス開講であるため、両クラスに内容に偏差が生じないように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

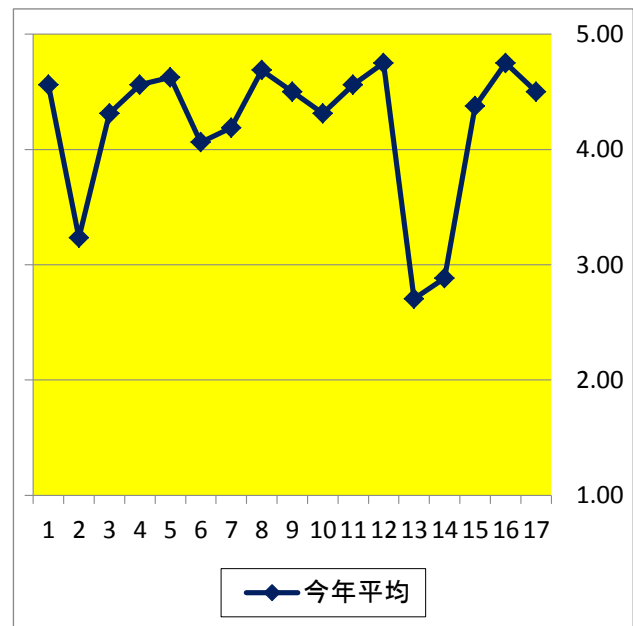
受講生の傾向で示したとおり、一部を除いて、熱心な受講であり、そのため講義に物足りなさを感じている場合が懸念される。受講生の理解度に配慮しつつ、必要に応じて、時間の許される範囲かつ講義速度が早いと感じない範囲で、追加的なより深い内容を盛り込む、あるいは、繰り返すといった工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の傾向で示した状況を認識しつつ、受講生の理解度に配慮しつつ、内容の繰り返しと追加的なより深い内容を盛り込むといった工夫を講じるつもりである。

科 目	上級財務会計論(A2)			
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3	
受講者数	22	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.56	5	5	4
2	—	3.24	3	4	2
3	—	4.31	4	5	2
4	—	4.56	5	5	4
5	—	4.63	5	5	4
6	—	4.06	4	5	1
7	—	4.19	5	5	2
8	—	4.69	5	5	4
9	—	4.50	5	5	3
10	—	4.31	4・5	5	3
11	—	4.56	5	5	3
12	—	4.75	5	5	4
13	—	2.71	2	5	2
14	—	2.88	2・3	5	2
15	—	4.38	5	5	3
16	—	4.75	5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	17			



受講生の傾向

2クラス開講のうちの1つで、概ねが熱心に受講していたが、欠席が散見され、積極的に講義内容を理解しようとする受講生とそうでない受講生と分かれたところがある。こちらのクラスでは、2年次生や留学生が多く、もう一方のクラスより、このような温度差を強く感じるときも多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は不開講であるが、昨年度のA1クラスを踏まえ、次回の講義内容の範囲と注意すべき事項を説明することで、予習・復習に役立つようにした。また、2クラス開講であるため、両クラスに内容に偏差が生じないように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

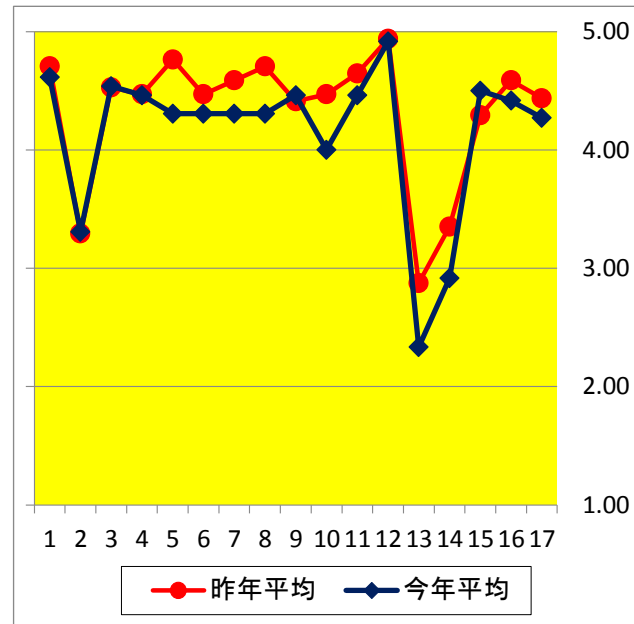
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の傾向で示した状況を認識しつつ、受講生の理解度に配慮しつつ、内容の繰り返しと追加的なより深い内容を盛り込むといった工夫を講じるつもりである。また、2クラス開講では、A2クラスに2年次生が参加することを考慮して、1年次生とのバランスを配慮するつもりである。

科 目	上級原価計算論(A1)			
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2	
受講者数	13	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.62	5	5	4
2	3.29	3.31	3	5	3
3	4.53	4.54	5	5	4
4	4.47	4.46	5	5	1
5	4.76	4.31	5	5	2
6	4.47	4.31	5	5	3
7	4.59	4.31	4	5	3
8	4.71	4.31	5	5	3
9	4.41	4.46	5	5	3
10	4.47	4.00	4	5	2
11	4.65	4.46	5	5	2
12	4.94	4.92	5	5	4
13	2.88	2.33	2・3	5	1
14	3.35	2.92	3	5	1
15	4.29	4.50	4・5	5	4
16	4.59	4.42	4	5	4
17	4.44	4.27	4・5	5	2
回答者数	17	13			



受講生の傾向

基本的な知識を身につけていない学生と非常に学習が進んだ学生、熱心な学生と意欲のない学生というように、受講生の差が顕著に見られた。また、人数が少ないため、意欲の乏しい学生が目立っていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の最初に基本的な復習を行い、その後、高度な内容について学習するという段階的な形で講義を行った。とくに、意欲の乏しい学生のために、基本的な説明に重点を置いた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

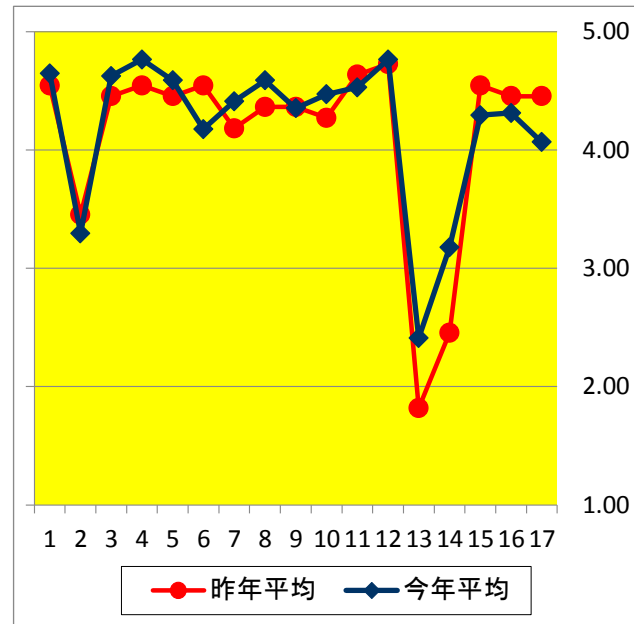
今後も、受講生の習熟レベルなどをふまえつつ、科目系を同じくする先生と連絡を取りながら対応していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度以降はこの科目を担当しないため、これまでの内容(基本的な内容の重要性など)を他の教員に連絡事項として伝えておきたい。

科 目	上級原価計算論(A2)			
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3	
受講者数	20	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.55	4.65	5	5	3
2	3.45	3.29	3	5	3
3	4.45	4.63	5	5	3
4	4.55	4.76	5	5	3
5	4.45	4.59	5	5	3
6	4.55	4.18	5	5	2
7	4.18	4.41	4・5	5	3
8	4.36	4.59	5	5	3
9	4.36	4.35	5	5	2
10	4.27	4.47	5	5	3
11	4.64	4.53	5	5	3
12	4.73	4.76	5	5	3
13	1.82	2.41	3	4	1
14	2.45	3.18	3	5	2
15	4.55	4.29	5	5	3
16	4.45	4.31	4・5	5	3
17	4.45	4.07	4・5	5	1
回答者数	11	17			



受講生の傾向

基本的な知識を身につけていない学生と非常に学習が進んだ学生にやや分かれていた。また、個々の学習態度についても、熱心な学生と意欲のない学生との差がある程度見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

習熟レベルの差が大きく見受けられたため、授業の最初に基本的な復習を行い、その後、高度な内容について学習するという形で講義を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

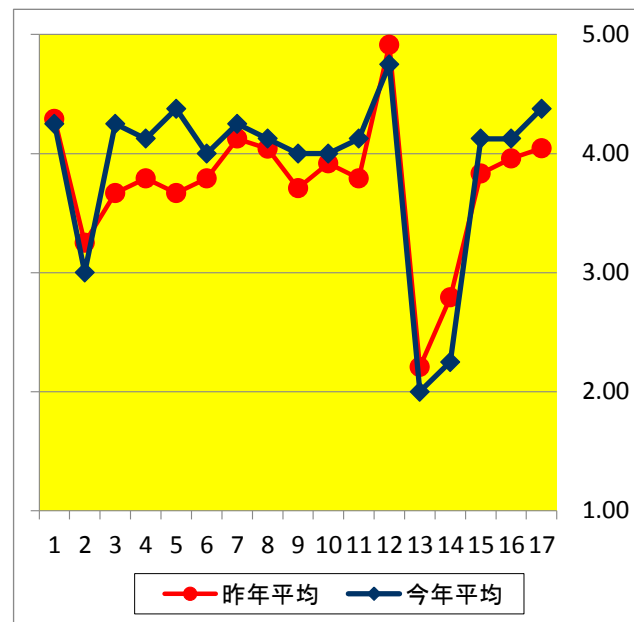
今後も授業の質の改善に向けて、科目系を同じくする先生と連携して、学生ニーズの充足(解説の範囲の多様化と、基礎的な教科書や原価計算基準に依拠した体系的な進め方など)に努めていく予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度以降はこの科目を担当しないため、これまでの内容(段階的な授業の進め方など)を他の教員に連絡事項として伝えておきたい。

科 目	上級管理会計論(A1)			
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3	
受講者数	10	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.29	4.25	4	5	4
2	3.25	3.00	3	3	3
3	3.67	4.25	4	5	4
4	3.79	4.13	4	5	3
5	3.67	4.38	4	5	4
6	3.79	4.00	4	5	3
7	4.13	4.25	4	5	3
8	4.04	4.13	4	5	3
9	3.71	4.00	4	5	3
10	3.92	4.00	4	5	3
11	3.79	4.13	4	5	3
12	4.91	4.75	5	5	4
13	2.21	2.00	1・2	4	1
14	2.79	2.25	2	4	1
15	3.83	4.13	4	5	3
16	3.96	4.13	4	5	3
17	4.05	4.38	4	5	4
回答者数	24	8			



受講生の傾向

受講生は全体として、まじめに出席するとともに、真剣に演習に取り組んでいた。ただし、受講生間の会計に関する知識レベルにはばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の活動を継続して、きめの細かい対応を行うよう試みた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

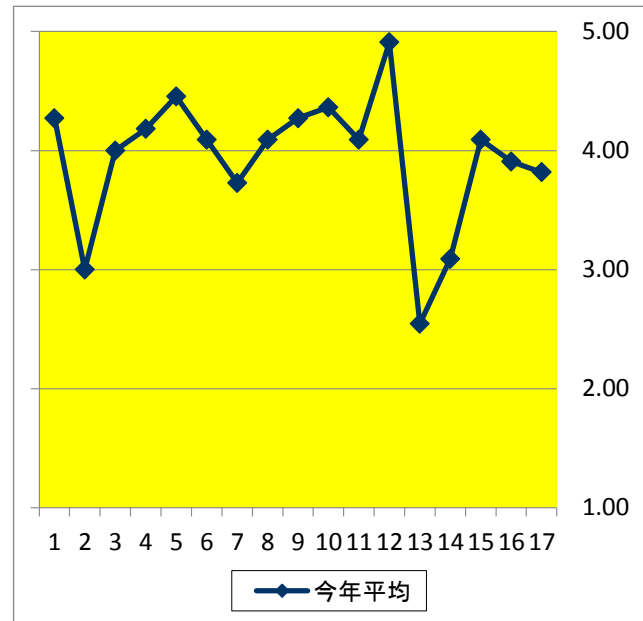
講義計画との整合性、および予習と復習の時間、および全体的な満足度、さらに授業の理解度については評点が改善したことから、一定の成果があったと考えられる。他方で授業の準備、説明の仕方等についての評点が小幅ながら低下している。全体としては大きな変動がなかったため、細かな改善を積み重ねていくことが必要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体として評点が改善しているため、今年度と同様にきめの細かい対応を進めていくことが必要であると考えられる。

科 目	上級管理会計論(A2)			
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2	
受講者数	16	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.27	4	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	5	3
4	—	4.18	5	5	3
5	—	4.45	5	5	3
6	—	4.09	5	5	2
7	—	3.73	3	5	2
8	—	4.09	5	5	2
9	—	4.27	5	5	3
10	—	4.36	5	5	3
11	—	4.09	4・5	5	3
12	—	4.91	5	5	4
13	—	2.55	2	5	1
14	—	3.09	3	5	1
15	—	4.09	4・5	5	3
16	—	3.91	5	5	2
17	—	3.82	4	5	3
回答者数	—	11			



受講生の傾向

受講生は全体として、まじめに出席するとともに、真剣に演習に取り組んでいた。ただし、受講生間の会計に関する知識レベルにはばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
上級管理会計のA1クラスと同様に、きめの細かい対応を行うように心がけた。

今後の対応

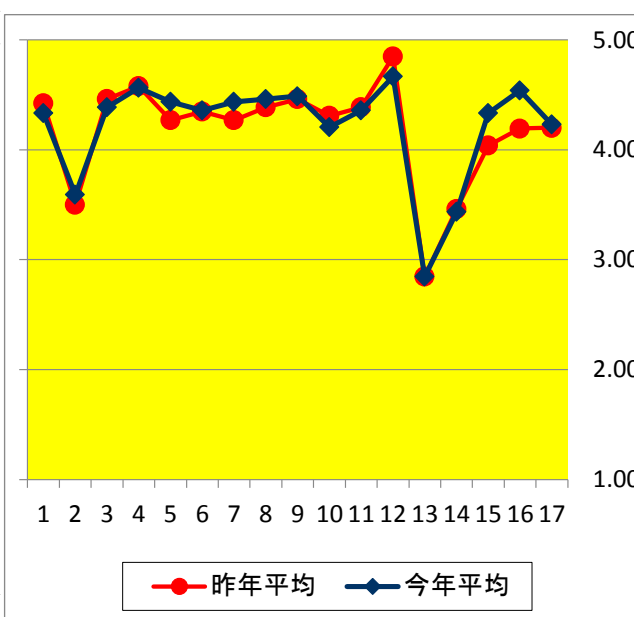
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体的な評点の分布はA1クラスと多少異なっており、特に授業の理解度(設問17)がA1クラスと比べて低くなっている。A2クラスのほうがA1クラスよりも受講生が多いため、よりきめの細かい対応が必要であると考えている。

科 目	監査制度論(A1・A2)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3(A1) 春後火3・金2(A2)
受講者数	47	回答者数	39

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.33	5	5	2
2	3.50	3.59	3	5	2
3	4.46	4.38	4・5	5	3
4	4.58	4.56	5	5	3
5	4.27	4.44	5	5	2
6	4.35	4.36	5	5	2
7	4.27	4.44	5	5	3
8	4.38	4.46	5	5	3
9	4.46	4.49	5	5	2
10	4.31	4.21	4	5	3
11	4.38	4.36	5	5	2
12	4.85	4.67	5	5	2
13	2.85	2.85	3	5	1
14	3.46	3.44	3	5	1
15	4.04	4.33	5	5	2
16	4.19	4.54	5	5	3
17	4.20	4.23	4	5	2
回答者数	26	39			



※昨年平均数値は、A1クラス / A2クラスは、昨年平均数値なし

受講生の傾向

PA/PAIBコースにおける選択必修科目(基本科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は90%を超えており極めて高い出席率となっている。出席率から見ると、去年よりもごくわずかに低下しているが、勉学に対する意欲は相変わらず相対的に高いように解される。一方、上記アンケート結果より、予習課題に対する時間は昨年同様に高くなく(項目13)、復習課題に対する対応に伴う授業の復習時間も昨年並となっている(項目14)。

ただし、本科目の受講に起因した学習意欲の向上(項目15)ならびに知識・能力の向上(項目16)は、相対的に高くなっていることから、本科目による学生に対する教育効果が肯定的に認められる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、監査基準の改訂がなされなかったため、これまでの監査基準及び監査実務指針を体系的に整理し纏め直したパワーポイントによるスライドを用意した。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、講義終了後、関西大学CEASに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認する目的とともに復習を動機付けるために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、コメントを付して返却した。また優秀答案を氏名を伏せて配布するとともに、添削上のポイントを追加し解説を行なった。最終的に、講義2回分→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント表・講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

(A1クラス)

小テストの添削結果の返却に当たり、添削時の論点表の写しとともに成績優秀者の添削済み答案の写しを配布し解説を加えているが、この形を次年度も続けることで、学生側での復習課題の作成に流れを与えるようにしたい。これに加えて、予習時間を多少でも増やすべく、インフォメーション・システムないしCEASにおいて、予め重要論点を明示したい。

(A2クラス)

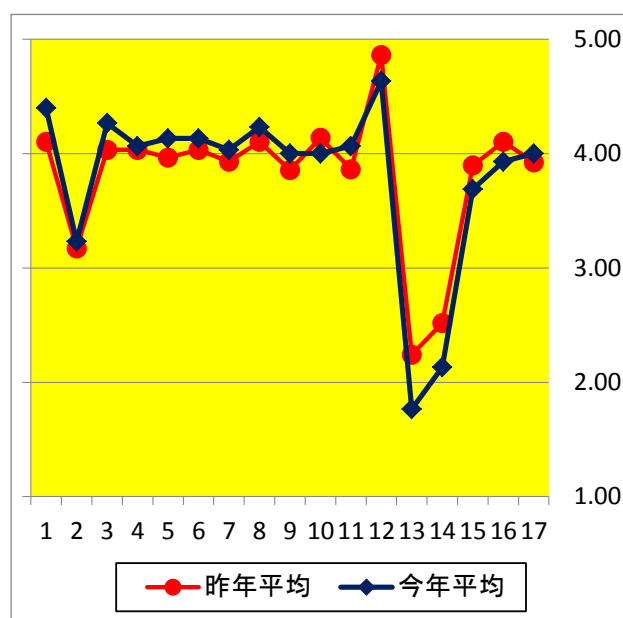
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度、学習意欲の高い複数の学生から復習課題の添削要請があったように、今年度同様に、次年度以降も学生側での復習課題の作成を動機付けるような仕組みを取り入れたい。

科 目	監査基準(A)			
配当年次	1	開講時限	春水2	
受講者数	36	回答者数	30	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.10	4.40	4・5	5	3
2	3.17	3.23	3	5	2
3	4.03	4.27	4	5	3
4	4.03	4.07	4	5	3
5	3.97	4.13	4	5	3
6	4.03	4.13	4	5	2
7	3.93	4.03	4	5	2
8	4.10	4.23	4	5	3
9	3.86	4.00	4	5	1
10	4.14	4.00	4	5	2
11	3.86	4.07	4	5	1
12	4.86	4.63	5	5	3
13	2.24	1.77	1	4	1
14	2.52	2.13	2	4	1
15	3.90	3.69	4	5	2
16	4.10	3.93	4	5	2
17	3.92	4.00	4	5	3
回答者数	29	30			



受講生の傾向

まじめにほぼ毎回出席する学生が大半であるが、事前に伝達した通り期末試験に合格すれば70点は付与するというこ
とで、会計士試験を目指しているような学生はほとんど出席することなく、しかし期末試験は満点(70点)で合格する
という割り切った学生も数人いた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度とは問題を変えることで、前年通りの解答を暗記することはできないようにし、自宅での自己学習を推奨した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

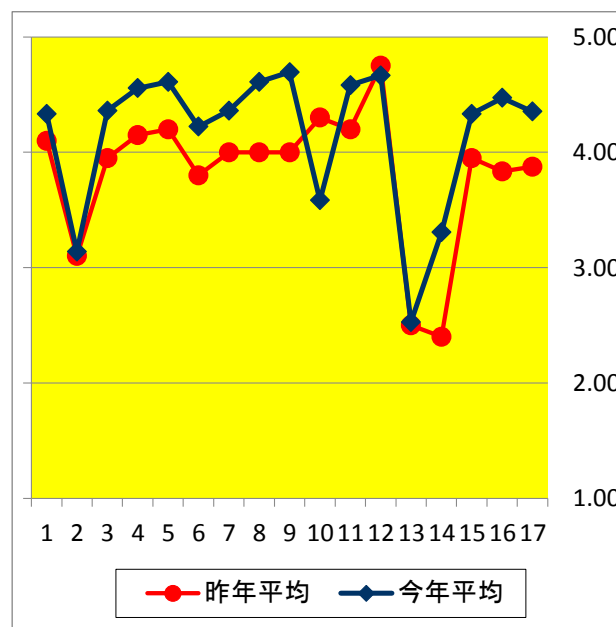
試験準備をしている受講生にとっても必須科目のため、受験勉強の負担にならないよう授業の予習、復習について時
間をあまりかけないように授業した結果がそのままアンケート結果として出ていると思います。この点については今後も
その方向で進めたいと思いますが、期末試験問題が正誤式のためちゃんと準備しないと結果が出ないので、少なくとも
復習時間は多少とるようになると期待しています。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

毎回の授業の準備、復習に時間を要するまでには至らなかったが、今後も試験には十分準備が必要となる出題をする
ことで、自宅での自己学習を促進させていきたい。

科 目	会計基準論			
配当年次	1	開講時限	春火1	
受講者数	41	回答者数	36	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.10	4.33	4	5	2
2	3.10	3.14	3	5	2
3	3.95	4.36	5	5	2
4	4.15	4.56	5	5	3
5	4.20	4.61	5	5	3
6	3.80	4.22	4・5	5	2
7	4.00	4.36	5	5	3
8	4.00	4.61	5	5	3
9	4.00	4.69	5	5	3
10	4.30	3.58	4	5	1
11	4.20	4.58	5	5	4
12	4.75	4.67	5	5	2
13	2.50	2.53	2	5	1
14	2.40	3.31	4	5	1
15	3.95	4.33	4	5	2
16	3.83	4.47	5	5	3
17	3.88	4.35	4	5	3
回答者数	20	36			



受講生の傾向

一部の学生を除き、非常に熱心に受講しており、講義内容を吸収しようという熱意を感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないため、昨年度の授業評価アンケートを踏まえることはできないが、受講生が多いことから、学生のニーズが高いと認識して講義を行った。講義中では積極的に法規集を利用させ、学生が会計基準の原文に触れ、基準の背景の考え方を含めた理解ができるように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

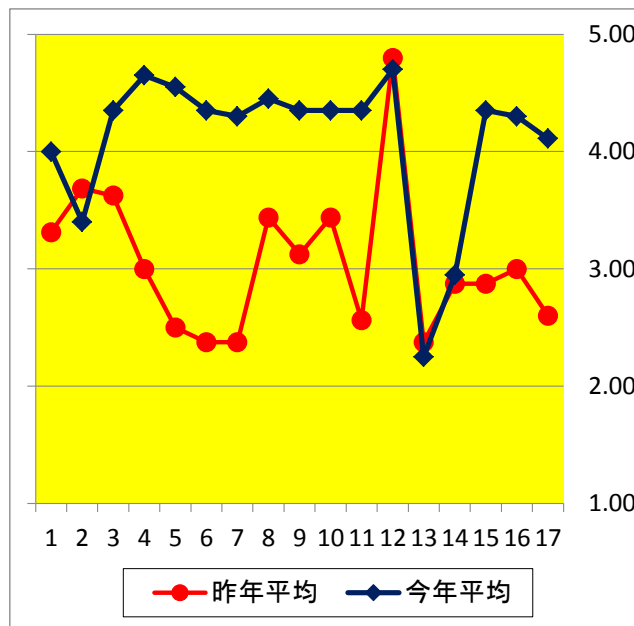
次年度は担当者が変わるので、ここの記載はなしとする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度との比較はできないが、初年度の授業評価アンケートの結果としては、好評価であろうと思われる。そのため、今年度の講義展開をベースにして、今年度を実施できなかった講義内容をさらに付加し、よりレベルの高い内容をも講義に織り込むつもりである。

科 目	上級税務会計論			
配当年次	1	開講時限	春木1	
受講者数	21	回答者数	20	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.31	4.00	4	5	2
2	3.69	3.40	3	5	2
3	3.63	4.35	4・5	5	3
4	3.00	4.65	5	5	4
5	2.50	4.55	5	5	4
6	2.38	4.35	5	5	2
7	2.38	4.30	5	5	3
8	3.44	4.45	4	5	4
9	3.13	4.35	4	5	3
10	3.44	4.35	4・5	5	3
11	2.56	4.35	5	5	3
12	4.80	4.70	5	5	3
13	2.38	2.25	2	5	1
14	2.88	2.95	2	5	1
15	2.88	4.35	4	5	3
16	3.00	4.30	4	5	3
17	2.60	4.11	5	5	1
回答者数	16	20			



受講生の傾向

今年度の受講生には、税務会計について公認会計士試験レベルに十分達している者が多くおり、その者が他の受講生に教えている姿がよく散見されていた。また、授業後には(初学者、既修者を問わず)受講生から講義内容に関する質問も多かった。クラス全体の個人的な印象として、本クラスは税務会計の学習にとって非常に良い環境であったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内で公認会計士試験の過去問をほぼ全て取り扱っただけでなく、その解答に必要な考え方や解答の進め方についても全てレジュメに落とし込むことにした。また、講義において使用する参考条文をレジュメとは別に用意し、条文理解にも努めた。さらに、各授業の最初に前回講義の確認問題を受講生に解かせて、授業内で復習を行う形を採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

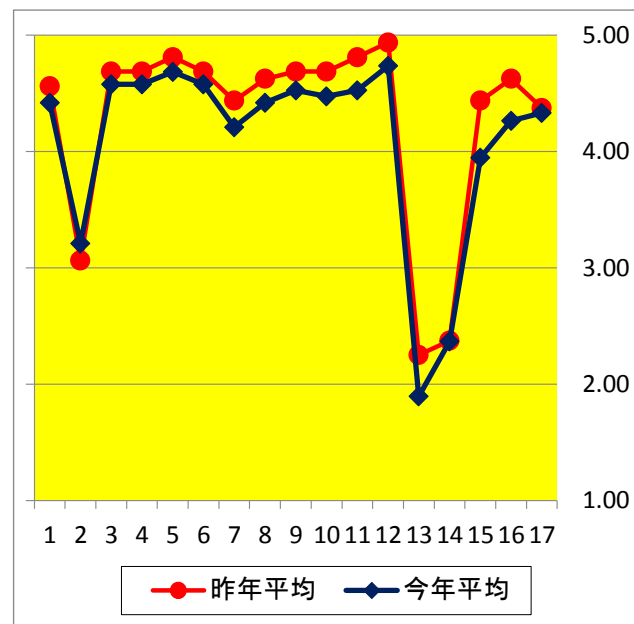
該当なし(昨年度非常勤講師担当)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験の過去問をほぼ全てレジュメに取り入れ、講義を行おうとしたため、質問No.2の結果の通り、講義のスピードはどうしても遅くならざるを得なかった。次年度は取り扱う過去問の優先度を考慮し、講義中の時間配分に気をつけたい。また、授業で使用するテキストは、(法案制定と図書発行のタイミングから難しいところはあるが)できる限り最新の税制改正情報を取り入れたものを使用することにした。

科 目	商法			
配当年次	1	開講時限	春月1	
受講者数	24	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.42	4	5	4
2	3.06	3.21	3	5	2
3	4.69	4.58	5	5	4
4	4.69	4.58	5	5	4
5	4.81	4.68	5	5	4
6	4.69	4.58	5	5	4
7	4.44	4.21	4	5	3
8	4.63	4.42	4・5	5	3
9	4.69	4.53	5	5	4
10	4.69	4.47	5	5	3
11	4.81	4.53	5	5	4
12	4.94	4.74	5	5	4
13	2.25	1.89	1・2	3	1
14	2.38	2.37	2	4	1
15	4.44	3.95	4	5	3
16	4.63	4.26	4	5	3
17	4.38	4.33	4	5	3
回答者数	16	19			



受講生の傾向

今年度の「商法」受講者はこれまでよりも増加して24人であった。もともとの入学者が増加したことからこのような結果になったのかもしれないが、商法に対して興味や関心を持っているのかもしれない。受講生はほとんどが出席率もよく、受講態度もまじめであったが、なかには休みがちな受講生も少しではあるがいた。1年生はほとんどが企業法と同時並行で受講していることになるが、企業法は基礎のみを学習するが、商法はその分野においては、基礎から応用にいたるまで扱うので、企業法に比べて商法を難しく感じる学生がいたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は商法の全範囲をむらなく網羅的に理解できるよう心がけた。その反面、詳細については授業から割愛せざるを得なくなったが、この点は学生の自習にゆだねることとした。ただ、網羅的に扱うとメリハリのない授業となりがちであるのでこの点を気遣った。また、受講生が増えたことによって理解度にもばらつきが大きくなるのでこの点にも配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

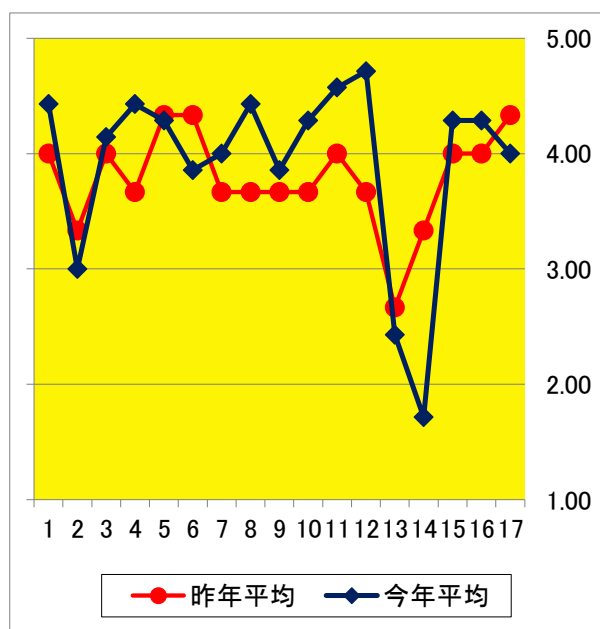
説明の中で重要なものや自学習では困難なものはしっかりと時間をかけて、そうでない部分についてはスピード化を図るということは、今後も必要となり、より一層メリハリのついた授業を心がけていきたい。特に、商法はこの授業で完結するものであるから（企業法や会社法は他の授業、例えば上級会社法等で補完できる）、より一層全体の中でバランスよく授業内容を配置していくことが必要となる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のように受講生が増えたときに一人一人が理解できるように配慮し、さらに、今後も今年度と同様に学生が全範囲をむらなく網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるがより踏み込んだ議論にも言及して、メリハリのある授業を行っていきたいと思う。

科 目	インベストメント論			
配当年次	1	開講時限	春水1	
受講者数	10	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.43	4	5	4
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.00	4.14	4	5	3
4	3.67	4.43	4	5	4
5	4.33	4.29	4・5	5	3
6	4.33	3.86	4	5	3
7	3.67	4.00	4	5	3
8	3.67	4.43	4	5	4
9	3.67	3.86	4	5	3
10	3.67	4.29	4・5	5	3
11	4.00	4.57	5	5	4
12	3.67	4.71	5	5	4
13	2.67	2.43	3	3	1
14	3.33	1.71	1	3	1
15	4.00	4.29	4	5	4
16	4.00	4.29	4	5	4
17	4.33	4.00	4	5	3
回答者数	3	7			



受講生の傾向

ファイナンスに興味がありつつも、数学や証券市場、その他の実物市場等に対する基礎的な学力が十分ではなく、授業についてくるのが精一杯との印象をうけた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 会計に関する知識はある程度あるため、その関連を意識した授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

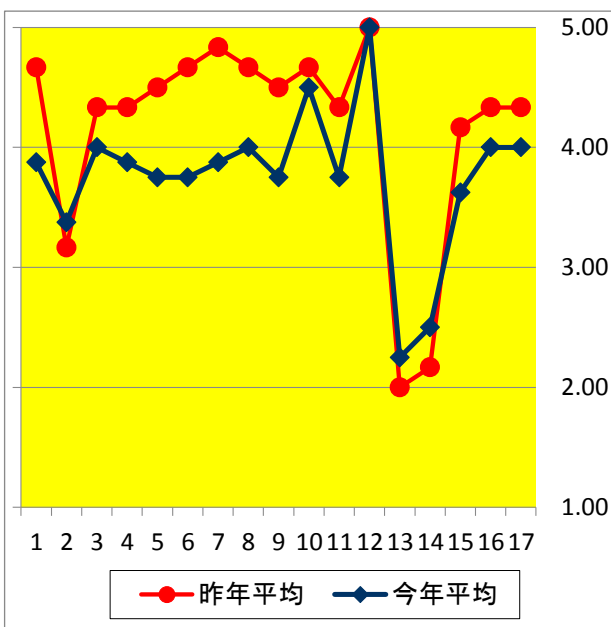
今年度と同様の対応を行う。つまり、会計との関連を意識しつつもファイナンスに特化した内容の授業を行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度と同様の対応を行う。つまり、会計との関連を意識しつつもファイナンスに特化した内容の授業を行う。

科 目	企業分析論			
配当年次	2	開講時限	春火3	
受講者数	11	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	3.88	4・5	5	1
2	3.17	3.38	3	5	3
3	4.33	4.00	4・5	5	2
4	4.33	3.88	4・5	5	1
5	4.50	3.75	5	5	1
6	4.67	3.75	5	5	1
7	4.83	3.88	4・5	5	1
8	4.67	4.00	4・5	5	2
9	4.50	3.75	4	5	1
10	4.67	4.50	4・5	5	4
11	4.33	3.75	5	5	1
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	2.25	1	5	1
14	2.17	2.50	3	5	1
15	4.17	3.63	4	5	1
16	4.33	4.00	4・5	5	2
17	4.33	4.00	5	5	1
回答者数	6	8			



受講生の傾向

受講者数は11人であり、多くの学生は授業に対してまじめに取り組んでいた。ただし、受講生によっては、授業の態度および理解度が不十分と考えられる学生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評価を受けて、今年度も昨年度と同様の講義を行うように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

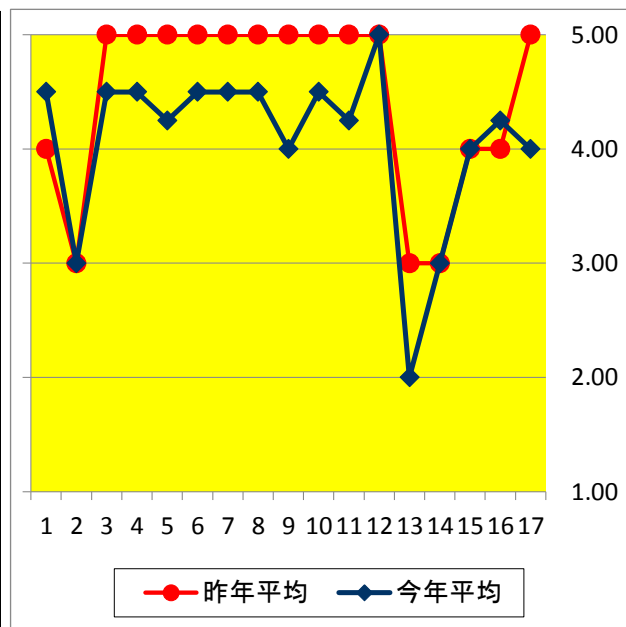
評点にある程度の変動はあるが、全体としては前回と同様に高い評価であったと解釈している。そのため、今回の講義内容について細かな改善は必要と考えられるが、全体的にはこの内容を継続する予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年と比較して、評点が全体的に低下したことは問題であると感じている。特に、昨年と同様の授業進度であったにもかかわらず、質問2では授業進度が速すぎるという評価があった点は、昨年と異なり知識レベルの低い受講生がいたと考えられる。他方で、最頻値を見ると高い評点を付けた受講生も多かったといえるため、今後は両者に対してきめの細かい対応が必要であると感じている。

科 目	政府・自治体会計論			
配当年次	2	開講時限	春木2	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.25	4	5	4
6	5.00	4.50	4・5	5	4
7	5.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	5.00	4.00	4	5	3
10	5.00	4.50	4・5	5	4
11	5.00	4.25	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	2.00	1	5	1
14	3.00	3.00	1・2・4・5	5	1
15	4.00	4.00	4	4	4
16	4.00	4.25	4	5	4
17	5.00	4.00	4	5	3
回答者数	1	4			



受講生の傾向

今年は4人の参加であった。公会計に理解がない者が多く、何となく公・非営利に興味があって…という受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

配当年次の変更はなかったが、受講生の関心が持てるようなトピックスを提供するように努めた。またできるだけ受講生の発言の機会を与えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

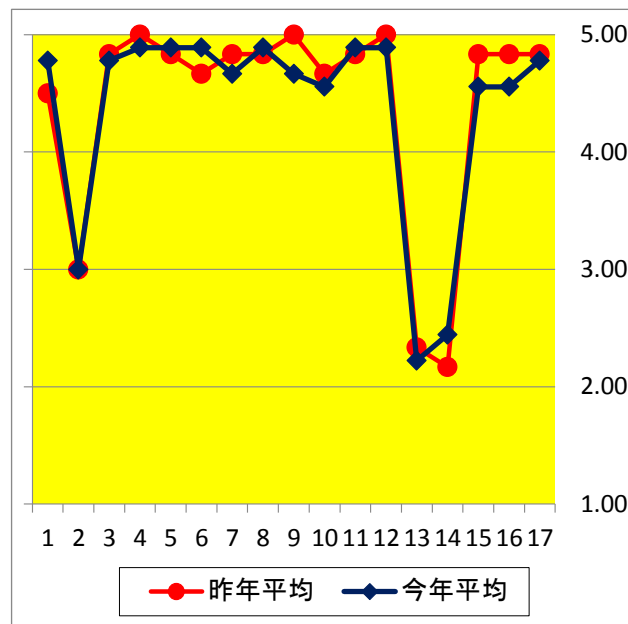
他の公会計系の科目との統合、配当年次の工夫により、より受講しやすくするとともに、受講生に関心が持てるよう引き続き努力していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目再編成により来年以降はない。

科 目	上級会社法			
配当年次	2	開講時限	春木3	
受講者数	9	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.78	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.83	4.78	5	5	4
4	5.00	4.89	5	5	4
5	4.83	4.89	5	5	4
6	4.67	4.89	5	5	4
7	4.83	4.67	5	5	4
8	4.83	4.89	5	5	4
9	5.00	4.67	5	5	4
10	4.67	4.56	5	5	4
11	4.83	4.89	5	5	4
12	5.00	4.89	5	5	4
13	2.33	2.22	1	5	1
14	2.17	2.44	3	5	1
15	4.83	4.56	5	5	3
16	4.83	4.56	5	5	3
17	4.83	4.78	5	5	3
回答者数	6	9			



受講生の傾向

今年度は受講生が9名と例年に比べて若干多い状況であった。内容が高度であり「会社法」を理解していなければ理解の難しい科目であるにもかかわらず、このような結果となるのは会社法に興味を抱いてくれた結果であろう。全員の授業態度は非常にまじめで熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は上記で示したように受講生が若干多かったため、個々の学生のレベルにばらつきがあり、これを見極めながら授業を行った。つまり、それぞれの学生の理解度を見つつ、本来であれば上級会社法では扱わないような基本的なレベルでも、受講生が理解できていないようであれば解説し、逆に上級で詳細に説明する予定のところ、学生が理解できている場合には簡単に説明したりするというを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

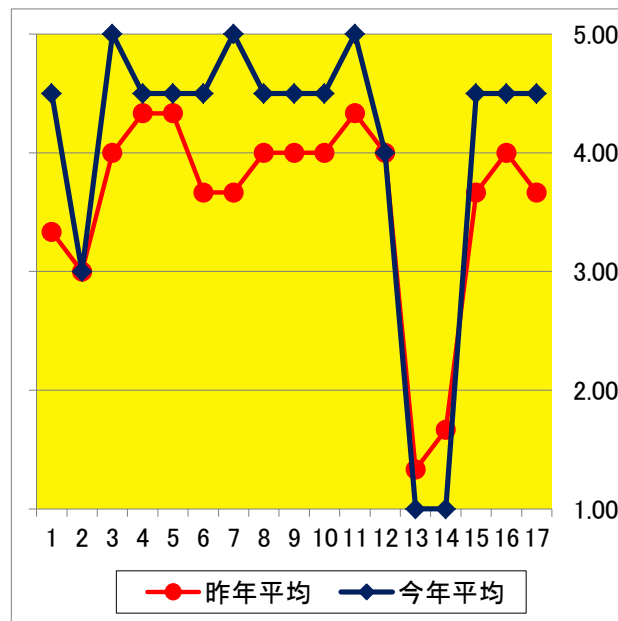
上級会社法は、上記で示したように比較的少人数で構成されることから、極力個人に対応した授業を心がけたい。もちろん、個人に対応した対話や論文指導を行うことは、その内容を聞くほかの学生にとっても十分学習になると考えられるので、その点も意識しながら授業を行っていきたい。しかし、全受講生の中で考えるとやはり実力にばらつきがあるので、すべての学生が理解し満足できるような授業を工夫して行っていく必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまで個人指導的に対話および論文指導を行ってきたが、若干受講者が増えてもきめ細かな指導を継続していきたい。受講生それぞれのレベルや理解度を把握するように心がけるとともに、それを実行するためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。また、上級会社法は、会社法から続く科目であるので、なるべく会社法で扱うところは会社法で、上級で扱うところは上級でという厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。

科 目	資本市場論			
配当年次	2	開講時限	春土1	
受講者数	3	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.33	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.33	4.50	4・5	5	4
5	4.33	4.50	4・5	5	4
6	3.67	4.50	4・5	5	4
7	3.67	5.00	5	5	5
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	4.00	4.50	4・5	5	4
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	4.33	5.00	5	5	5
12	4.00	4.00	3・5	5	3
13	1.33	1.00	1	1	1
14	1.67	1.00	1	1	1
15	3.67	4.50	4・5	5	4
16	4.00	4.50	4・5	5	4
17	3.67	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	2			



受講生の傾向

受講生全員が積極的に発言し、授業に対する要望を出してくれた。
公認会計士受験者がいないこともあり、実務的な知識に対する習得意欲が高かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

対話を重視し、受講生が自分で考え問題に対する回答を導き出す手助けを行うよう留意した。
パソコン教室を使用できたこともあり、インターネットでの情報収集法についてもレクチャーできた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

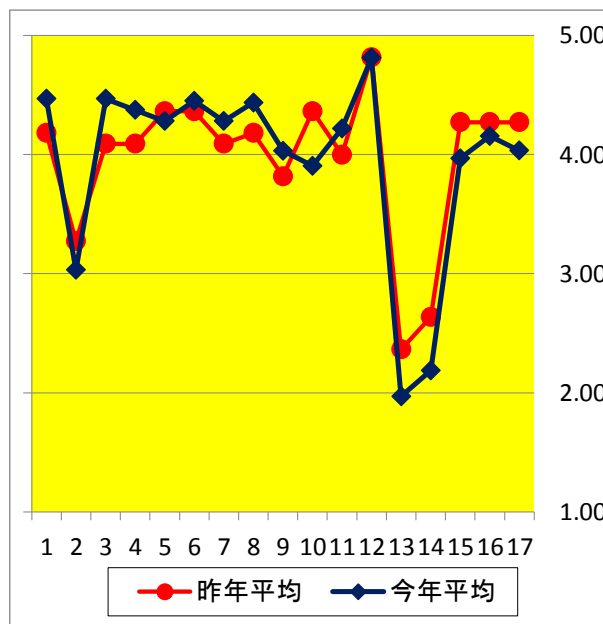
受講生とのコミュニケーションをより密にし、実践的な演習を増加させるよう心掛けたい。
今年度は、講義形式が主流で、解説に多くの時間を割き過ぎたことを反省している。
受講生の積極性を引き出したいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の将来志望が多様化しており、それぞれのニーズに対応できるよう柔軟な講義を心掛けたい。
あくまで受講生の興味を持たせるようなテーマを重点的に討議したい。

科 目	会計事例研究			
配当年次	1	開講時限	春水1	
受講者数	37	回答者数	32	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	4.47	5	5	3
2	3.27	3.03	3	4	1
3	4.09	4.47	4	5	4
4	4.09	4.38	5	5	3
5	4.36	4.28	4	5	2
6	4.36	4.45	5	5	2
7	4.09	4.28	4	5	1
8	4.18	4.44	5	5	3
9	3.82	4.03	4	5	1
10	4.36	3.91	4	5	2
11	4.00	4.22	4	5	3
12	4.82	4.81	5	5	4
13	2.36	1.97	2	5	1
14	2.64	2.19	2	5	1
15	4.27	3.97	4	5	1
16	4.27	4.16	4	5	3
17	4.27	4.03	4	5	2
回答者数	11	32			



受講生の傾向

受講生は非常にまじめで、ほぼ全員が毎回出席している状況でした。積極的に発言する人は限られていましたが、積極的に発言しなくても授業内容を適切に把握して高得点を取る受講生も散見されました。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

参加型の授業展開を実施しようと試みましたが、受講者数が増加し、Active Learningを効果的に実施するには至りませんでした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

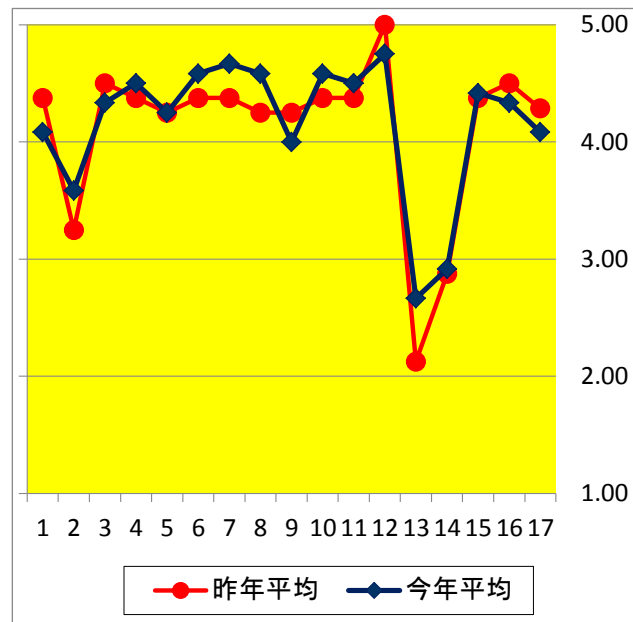
試験準備をしている受講生にとって受験勉強の負担にならないよう授業の予習、復習について時間をあまりかけないように授業した結果がそのままアンケート結果として出ていると思います。この点については今後はもう少し事前準備の時間を作ってもらって、その知識の上で参加型の授業を展開できるようにしたいと思います。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまでは事例を紹介する講義を展開してきましたが、今後は前の週に説明した会計処理について学生に事例を探してきてもらうようにし、それを発表してもらう参加型の授業展開を試みてみたいと思います。

科 目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	春木4	
受講者数	13	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.08	5	5	2
2	3.25	3.58	3	5	2
3	4.50	4.33	5	5	3
4	4.38	4.50	5	5	3
5	4.25	4.25	4・5	5	3
6	4.38	4.58	5	5	3
7	4.38	4.67	5	5	3
8	4.25	4.58	5	5	3
9	4.25	4.00	5	5	2
10	4.38	4.58	5	5	3
11	4.38	4.50	5	5	3
12	5.00	4.75	5	5	3
13	2.13	2.67	2	5	1
14	2.88	2.92	2・3	5	1
15	4.38	4.42	5	5	3
16	4.50	4.33	4	5	3
17	4.29	4.08	4	5	3
回答者数	8	12			



受講生の傾向

今年度は講師の都合で本来の開講時期を春学期に変更したにもかかわらず、昨年度に比して受講者数が増加し全体的な評価が高まっている。また授業参加度あるいは熱心度を測る出席率(項目12)においてほぼ95%を達成しており、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。また予習時間(項目13)と復習時間(項目14)も昨年度よりも改善していることから、受講生の積極的な姿勢が見出せる。

さらに本講義を受講することによって学習意欲の向上(項目15)や知識・能力の向上(項目16)が極めて高く現われていることから、今年度の受講生の質の高さが推察できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も監査実施に関する監査基準改訂はなかったため、これまでの監査基準及び監査実務指針を纏め直したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意して配布し、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストと配布資料に基づいて授業を行ない、後半に監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。特に今年度は春学期開講だったため、前半の講義の充実を図った。

また2度の課題(フローチャート作成、掛け仕入取引の監査)と、講義時における積極的質問や発言を促すことで成績に反映するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

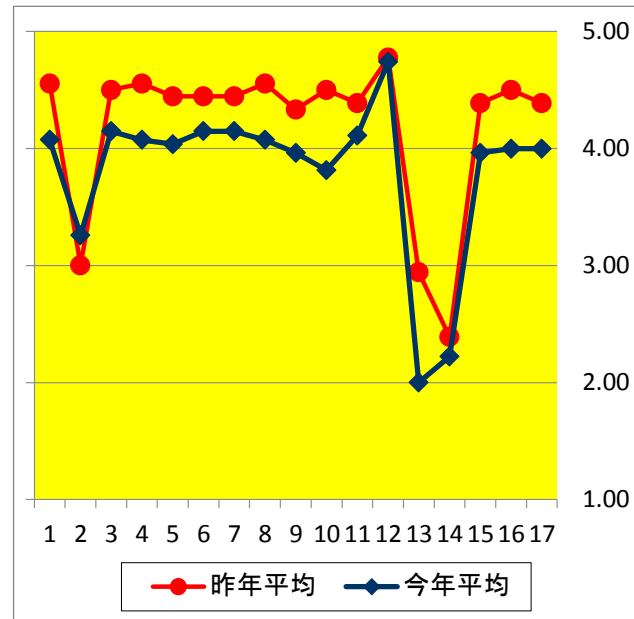
今年度に引き続き、学生の能動的参加を促す措置として、講義途中における適時かつ頻繁な質問提起を行なうだけでなく、期中・期末の課題レポートの作成指導を行なう必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の参加意欲を高める観点から、講義時における質疑応答と課題作成時における机間巡回による指導を行なったが、次年度においてもヨリ一層の緊張感を高める施策を講じる必要がある。

科 目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	春水3
受講者数	35	回答者数	27

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.07	4	5	3
2	3.00	3.26	3	5	2
3	4.50	4.15	4	5	3
4	4.56	4.07	4	5	3
5	4.44	4.04	4	5	2
6	4.44	4.15	4	5	3
7	4.44	4.15	4	5	3
8	4.56	4.07	4	5	3
9	4.33	3.96	4	5	2
10	4.50	3.81	4	5	2
11	4.39	4.11	4	5	3
12	4.78	4.74	5	5	3
13	2.94	2.00	1	5	1
14	2.39	2.22	1・2	5	1
15	4.39	3.96	4	5	2
16	4.50	4.00	4	5	2
17	4.39	4.00	4	5	2
回答者数	18	27			



受講生の傾向

受講登録35名中の受講者は33名(うちレポート提出31名)であった。出席は概ね良好であったが、授業態度は例年以上に受身に積極性がみられなかった。「会社経理実務」は、教科書を用いながらも関係する事例等を授業で紹介し説明を加え、かつ質疑応答により理解を深めてもらう方式としている。しかし、今年は受講者が増え(昨年の18名から33名へ)、学生の受身の姿勢に対して、きめ細かな対応が難しかったことが受講生の理解度・満足度に影響したと思われる。アンケートの結果においても、授業規模(質問10)の評価が顕著に下がっているほか他の項目の評価全般にその影響が反映されている。なお、レポートは4～5名を除いて論理性に弱さがあるほか、昨年同様に理解力不足・努力不足がみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

思い切ってパワーポイントの量を減らし対話を増やす方針であったが、受講生の増加でむしろパワーポイントで丁寧に説明を加えざるを得なかった。また、レポートテーマ発表も受講者の増加で一人あたりの時間が十分にとれない結果となった。一方で、受講者の増加に対応し、対話に代えて受講者の理解度を確認する試みとして、小テストとその解答の解説を新たに加えた。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

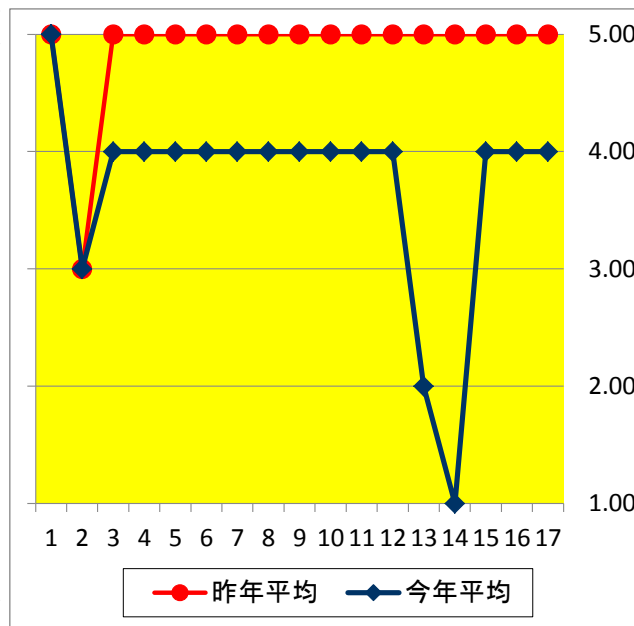
受講への積極性を高めレポートの質向上に努めたい。このために、①本をテキストにしていることもあり思い切ってパワーポイントの量を減らし受講生との対話の時間を増やす、②事前テーマ発表(授業の第14・15回)をレポートの底上げに繋がるように工夫する、という2点を検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

教科書の予習励行と関連した内容で講師への質問(各人1問)を用意させるほか、受講者の数に応じた工夫により理解の促進を図る必要がある。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(清水クラス)			
配当年次	2	開講時限	春金1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.00	4	4	4
4	5.00	4.00	4	4	4
5	5.00	4.00	4	4	4
6	5.00	4.00	4	4	4
7	5.00	4.00	4	4	4
8	5.00	4.00	4	4	4
9	5.00	4.00	4	4	4
10	5.00	4.00	4	4	4
11	5.00	4.00	4	4	4
12	5.00	4.00	4	4	4
13	5.00	2.00	2	2	2
14	5.00	1.00	1	1	1
15	5.00	4.00	4	4	4
16	5.00	4.00	4	4	4
17	5.00	4.00	4	4	4
回答者数	1	1			



受講生の傾向

昨年アカデミックソリューションに引き続き同じ者が受講した。就職のための試験が間近だとのことで、そちらの方に関心が偏り、希望の職種に就くにしろ基本的な会計の学習が重要であることを散々説いたにもかかわらず、学習に身が入らなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
受講生の学習進度に合わせ内容を工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

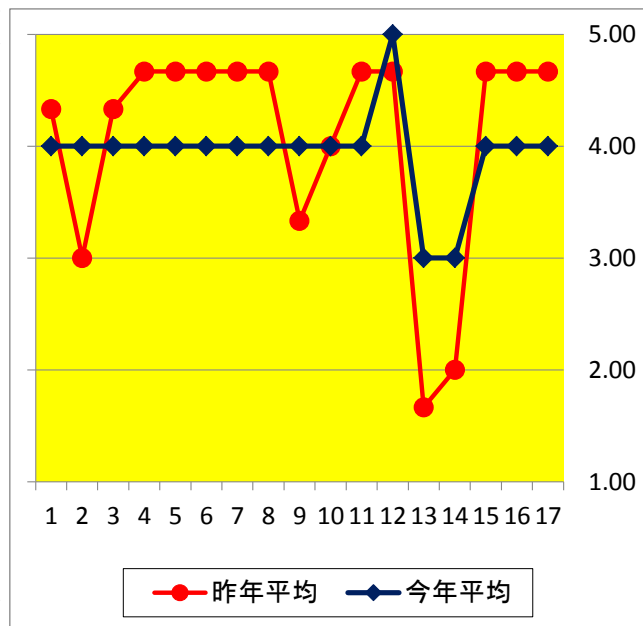
引き続き少人数となることが予測されるため、受講生の要望に応じた対応を採っていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

少人数クラスとなることが想定されるため、引き続き個人の学習進度等に合わせて内容を検討していく。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(大西クラス)			
配当年次	2	開講時限	春火5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.00	4	4	4
2	3.00	4.00	4	4	4
3	4.33	4.00	4	4	4
4	4.67	4.00	4	4	4
5	4.67	4.00	4	4	4
6	4.67	4.00	4	4	4
7	4.67	4.00	4	4	4
8	4.67	4.00	4	4	4
9	3.33	4.00	4	4	4
10	4.00	4.00	4	4	4
11	4.67	4.00	4	4	4
12	4.67	5.00	5	5	5
13	1.67	3.00	3	3	3
14	2.00	3.00	3	3	3
15	4.67	4.00	4	4	4
16	4.67	4.00	4	4	4
17	4.67	4.00	4	4	4
回答者数	3	1			



受講生の傾向

受講生は1名であった。演習にはまじめに出席しており、演習中の態度も真剣であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートの取り組みを継続して、受講生とのコミュニケーションを取るように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

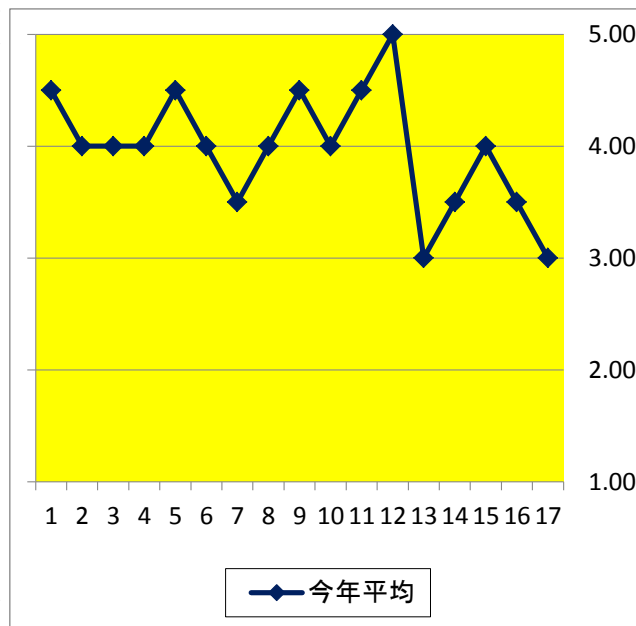
全体として、授業の満足度および理解度については高い評点であったため、大きな問題はないと考えている。そのため、今後も今年度のような評価を獲得できるように継続して努力する必要があると考えている。また、宿題および予習復習については検討する必要性を認識している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習という科目の特性上、今後とも受講生に対して積極的にコミュニケーションを図るよう、現在の取り組みを継続する必要があると考えている。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	春火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	4.00	3・5	5	3
3	—	4.00	3・5	5	3
4	—	4.00	3・5	5	3
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.00	3・5	5	3
7	—	3.50	3・4	4	3
8	—	4.00	3・5	5	3
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	4.00	4	4	4
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	1・5	5	1
14	—	3.50	2・5	5	2
15	—	4.00	3・5	5	3
16	—	3.50	3・4	4	3
17	—	3.00	3	3	3
回答者数	—	2			



受講生の傾向

受講生は2名であったが、2名には租税法に関する知識と経験に差があった。このため、知識等のある受講生の方が他の受講生に対して、質問やフォローを行う状況であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本科目の特性から講義形式でなく、受講生による報告とディスカッションを中心とした授業スタイルを採用した。受講生には必ずレジュメを作成させ、約30分～45分のプレゼンを行わせた。また、各プレゼンにおいては、必ず報告の目的や一定の結論を示すよう、受講生に促した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

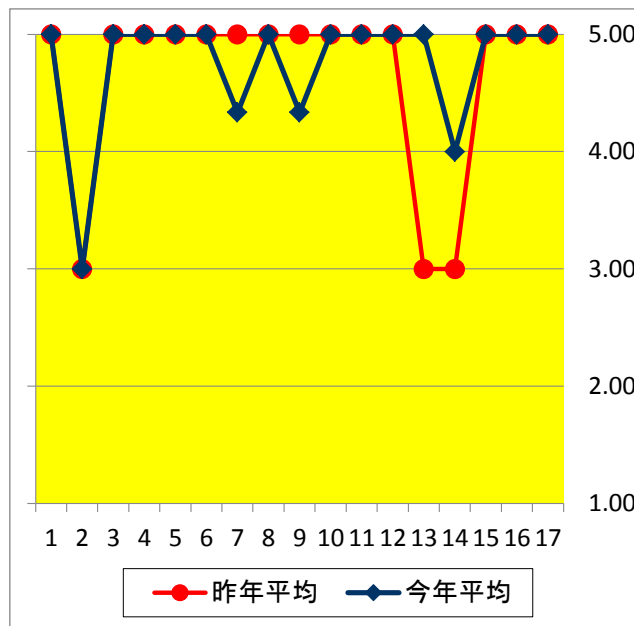
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の報告レジュメやプレゼンのレベルを全15回の講義スケジュール内で引き上げるため、第1回の授業時にデモンストレーションを行うことにしたい。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(松本クラス)			
配当年次	2	開講時限	春木5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	4.33	5	5	3
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	4.33	5	5	3
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	5.00	5	5	5
14	3.00	4.00	5	5	2
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	3			



受講生の傾向

会計研究科における最後学期の演習ということもあり、出席割合(項目12)は全員がほぼ100%となっており、受講生の極めて高いモラルが見出せる。全員が公認会計士を志望したこともあり、課題を達成するための予習(項目13)・復習(項目14)の何れもにおいて時間を確保していることが判る。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最終学期の演習ということもあり、より実践的な演習とするために監査論の諸論点を網羅的かつ総合的に扱った。受講生には、当該問題に対する重要ポイントを抽出させ、かつ正しい流れの解答を事前に準備させることで、演習時間には復習とともに、それぞれの弱点ないしは判りにくい点に関して相互に検討するための機会とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

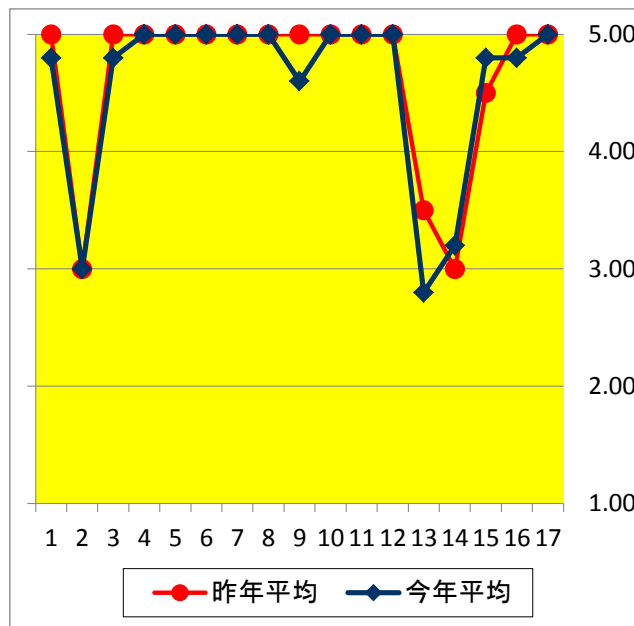
各自にパワーポイントを利用した資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを求めることで、自ら争点を抽出し、資料を探索できる能力を養える方法をより徹底する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全員が公認会計士志望の受講生であったため、如何に論点抽出能力と論文作成能力を高めるか、という観点からの解答の準備と相互検証に加えた、演習指導が必要と思われる。

科 目	ソリューション・イン・プロフェッショナル(三島クラス)			
配当年次	2	開講時限	春火5	
受講者数	5	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.80	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.80	5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	4.60	5	5	4
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	2.80	1	5	1
14	3.00	3.20	5	5	1
15	4.50	4.80	5	5	4
16	5.00	4.80	5	5	4
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	5			



受講生の傾向

今回は本授業の受講生は5人であった。昨年度よりも人数が増えたが、授業には全員が熱心かつまじめに取り組んでいたし、予習・復習もしっかりと行っていた。受講生の学習度合いには若干の差異は見られたが、授業進度に影響を及ぼすものではなく、むしろ議論を活発化させる方向に働いたように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生は5人いたが個人指導というスタンスはそのままとして、個々の学生の要望に応える形で、例えばテーマ選びや論文指導などを適宜行いながら授業を行った。また、これも学生の要望によるものであるが、受講生の多くが上級会社法を同時履修していたので、これとリンクさせながら授業を行うようにして、当該科目の理解を深めることにも努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

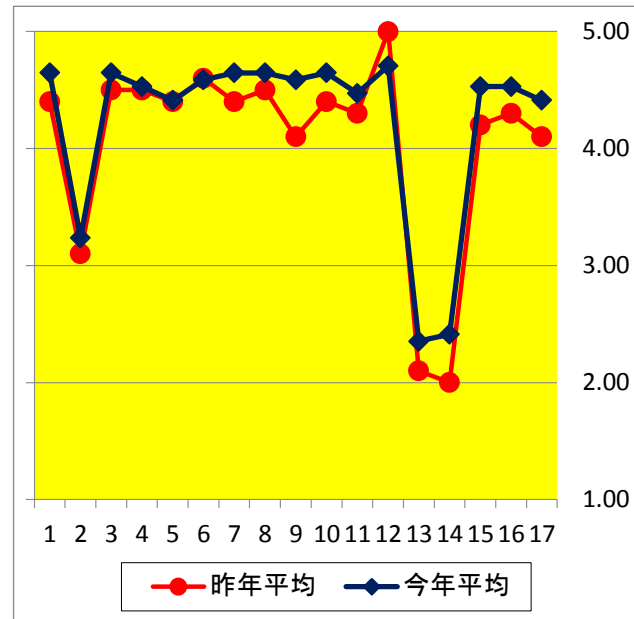
今後も今年度のようなきめの細かい授業を引き続き行っていきたいと思う。しかし、学生数やそれぞれの学生の学習目的やその実力によっては、今回行った方法が必ずしもとれるというわけではない。授業の最初の段階で、それらの学生の特性を早めに見極め、それぞれの学生に適合したきめ細かな指導ができるよう対応していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の数が5人程度となると、個人指導以外に討論などの形式で授業が行えるようになり、これがさらに個々の学生の能力をアップさせることにつながると思う。今後は学生間における討論も積極的に行われるよう、課題や教材の選定から授業方法に至るまで、考えていきたい。

科 目	特殊講義(ERPと会計)		
配当年次	1	開講時限	春火4
受講者数	18	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.65	5	5	3
2	3.10	3.24	3	5	3
3	4.50	4.65	5	5	3
4	4.50	4.53	5	5	3
5	4.40	4.41	5	5	3
6	4.60	4.59	5	5	3
7	4.40	4.65	5	5	4
8	4.50	4.65	5	5	4
9	4.10	4.59	5	5	3
10	4.40	4.65	5	5	4
11	4.30	4.47	5	5	3
12	5.00	4.71	5	5	4
13	2.10	2.35	1	5	1
14	2.00	2.41	2	5	1
15	4.20	4.53	5	5	3
16	4.30	4.53	5	5	3
17	4.10	4.41	5	5	3
回答者数	10	17			



受講生の傾向

受講登録18名中の受講者は17名であった。授業への出席は良好(全授業出席10名)であったが、当初は理解度に個人差が見られた。しかし、回を重ねるごとにボトムアップが進み、授業の最後に設定した各人のレポートテーマ(予定)発表ならびに最終レポートから、ほぼ全員がERPについて一定の理解度に達したことを確認した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

私自身の経験をベースにした事例を適宜紹介するとともに、理解度を確認してもらうための小テストとその解答の解説を新たに加えた。また、私からの説明の密度を下げて時間的余裕をとり、指名方式で全員に質問を促すなど受講者の積極性を引き出すよう努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

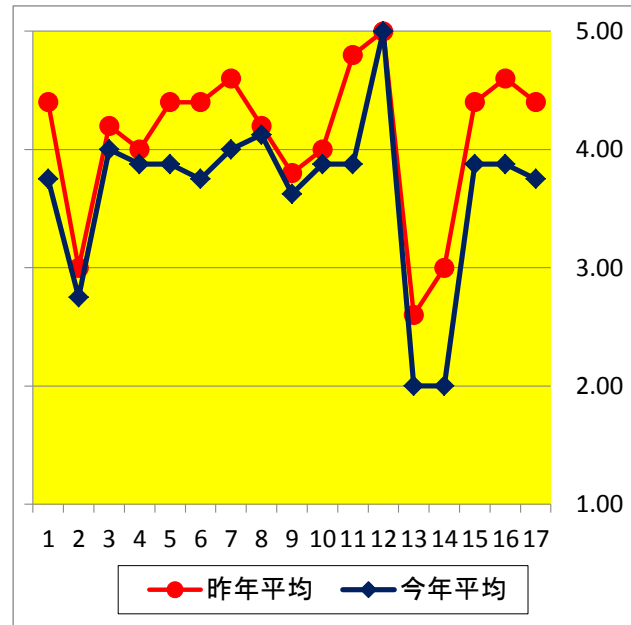
引き続き受講者の理解度と問題意識向上のために、受講生と双方向の対話時間を確保したい。ただ、口頭での補足説明はアンケートの結果を見る限り受講生の満足度にあまりプラスには働かなかったようであり、より具体的で興味を持つような事例を取り上げるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の方式継続で良いと考える。

科 目	会計戦略論		
配当年次	2	開講時限	春火4
受講者数	8	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	3.75	4	5	1
2	3.00	2.75	3	3	1
3	4.20	4.00	4	5	1
4	4.00	3.88	4・5	5	1
5	4.40	3.88	4	5	1
6	4.40	3.75	4	5	1
7	4.60	4.00	4	5	1
8	4.20	4.13	5	5	1
9	3.80	3.63	4	5	1
10	4.00	3.88	4	5	1
11	4.80	3.88	4・5	5	1
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.60	2.00	2	5	1
14	3.00	2.00	2	5	1
15	4.40	3.88	4・5	5	1
16	4.60	3.88	4・5	5	1
17	4.40	3.75	4	5	1
回答者数	5	8			



受講生の傾向

受講生が例年より多く、幾分弛緩した受講態度だったように思われる。この点は、予習・復習時間の低さからもうかがえる。一方、リラックスした雰囲気となり、活発に議論や質問をする受講生もいた。最低点が出席率を除き「1」であることから、不満を持った受講生もいたことが推測される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

議論や質問を促すため、教壇からではなく、より学生の近くから講義を実施した。また、講義の冒頭において、前回の講義内容を確認し、講義全体からみた各回の講義内容の位置づけを説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

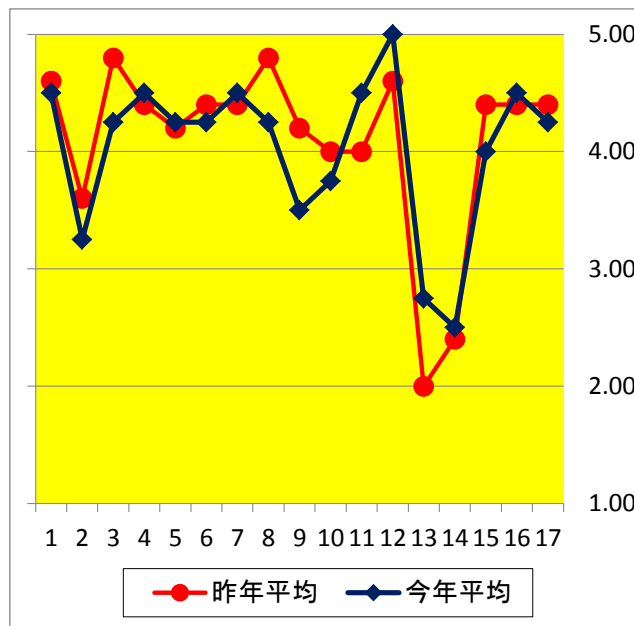
小教室であったため、パワーポイントが見つらい状態にあり、受講生の人数からこれを所与として、追加的な資料を配布するなどして、学生の理解のための材料をより多く提示できるようにしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の反応を引き出すよう、また、理解を深めやすいように工夫を講じているが、受講生の理解を深めやすいように、講義内容や素材、配布資料を見直し、ブラッシュアップするつもりである。

科 目	資産会計論			
配当年次	2	開講時限	春金2	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.50	4・5	5	4
2	3.60	3.25	3	4	3
3	4.80	4.25	4	5	4
4	4.40	4.50	4・5	5	4
5	4.20	4.25	4	5	4
6	4.40	4.25	4	5	4
7	4.40	4.50	4・5	5	4
8	4.80	4.25	4	5	4
9	4.20	3.50	2・5	5	2
10	4.00	3.75	4	4	3
11	4.00	4.50	4・5	5	4
12	4.60	5.00	5	5	5
13	2.00	2.75	1・2・3・5	5	1
14	2.40	2.50	1	5	1
15	4.40	4.00	5	5	2
16	4.40	4.50	5	5	3
17	4.40	4.25	5	5	3
回答者数	5	4			



受講生の傾向

受講生は全員、簿記と理論の習熟度が高く、講義しやすい状況であった。昨年よりも教員の質問対応(質問8)が下がったのは、受講生の習熟度が高く、質問自体が昨年より少なかったからであろう。講義は、受講生とコミュニケーションをとりながら進めており、宿題や小テストの回数(質問9)は、受講生から丁度良いとのヒアリングを得ていたため、昨年より大きく下がったのは意外である。また、受講生が普段の勉強で会計基準等の現物を読むことは少なく、この講義でそれができて良かったとのヒアリングを得ており、そのことは満足度(質問11)が昨年より上がったことに表れている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計上の資産について、現行制度上の取扱いを中心として取り上げた。市販のテキストではなく会計基準等の現物を教科書として使用し、「原文に慣れ親しむ」というコンセプトの下で、「原文を読んで理解する」「原文の表現を学ぶ」ことを重視した。昨年と同様に、受講生の簿記の習熟度が高かったため、ときおり簿記の計算問題を使って、理論と計算の結びつきを意識してもらうようにした。とくに今年度は、講義の12回目以降に課題研究を行い、問題意識の持ち方や論理展開の方法など簡単な論文指導を行った。覚えたことを書き出すという単純作業ではなく、全員で発表とディスカッションを行って考える力を養い、一定程度のクオリティの高いレポートを仕上げるトレーニングをした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

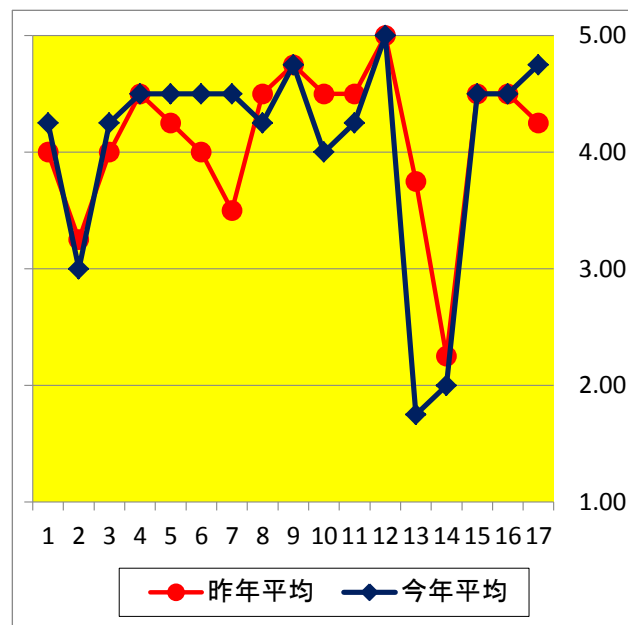
全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の講義展開は、全体的に良い感触を得ている。次年度も継続することにしたい。

科 目	負債・資本金論			
配当年次	2	開講時限	春月4	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.25	5	5	3
2	3.25	3.00	3	3	3
3	4.00	4.25	5	5	3
4	4.50	4.50	5	5	3
5	4.25	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.50	5	5	3
7	3.50	4.50	5	5	3
8	4.50	4.25	5	5	3
9	4.75	4.75	5	5	4
10	4.50	4.00	4	5	3
11	4.50	4.25	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.75	1.75	2	2	1
14	2.25	2.00	2	3	1
15	4.50	4.50	4・5	5	4
16	4.50	4.50	4・5	5	4
17	4.25	4.75	5	5	4
回答者数	4	4			



受講生の傾向

昨年度と同等かそれ以上に授業へのコミットメントが高い。ただし、昨年度に比べて、予習と復習に欠ける時間が減少している。それにもかかわらず、授業の満足度は高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

多くの学生が論述に弱いという理由は、論述と言えども、定型的な解答例を暗記しようとする傾向にある。そこで、同じ問題に対しても、解答が大きく変わりうることを、学生による事前解答で証明し、それぞれの見解のどこが異なるかを講義時に説明していく。人数が多くなると採用できない方式であるが、ここ数年は5名前後であるので、来年も論述に強くなる工夫を継続する。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

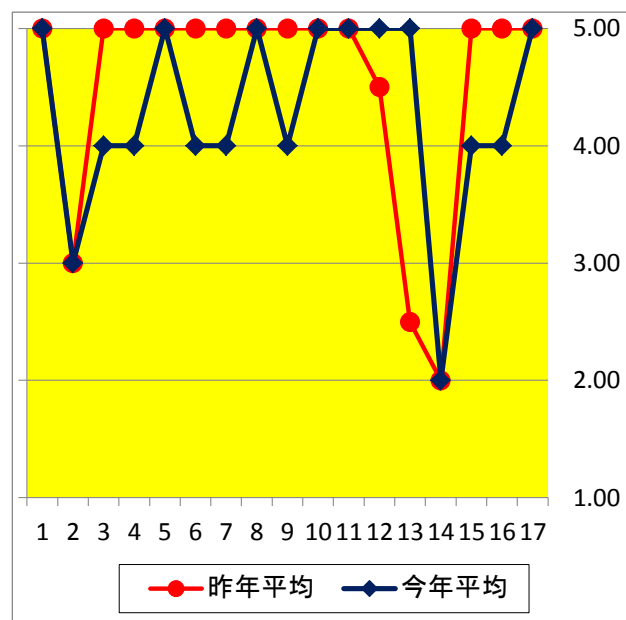
次年度は昨年までの方式(予習と報告)か今年度の方式(事前の論述式回答と討論)のいずれが良いか、講義の最初の段階で判断して、負担度合いを調整する。しかし、いずれにしても予習中心の講義方式であることには変わりはない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度の方式を踏襲したが、唯一Q13が大きく低下した。つまり事前の十分な予習を実施するようにコントロールできていなかった。そこで、来年度も方式を変更しないが、予習のインセンティブを高めるように、事前の記述に基づいて授業時に報告することを求める。

科 目	国際公会計制度論			
配当年次	2	開講時限	春木1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.00	4	4	4
4	5.00	4.00	4	4	4
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	4.00	4	4	4
7	5.00	4.00	4	4	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	4.00	4	4	4
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.50	5.00	5	5	5
13	2.50	5.00	5	5	5
14	2.00	2.00	2	2	2
15	5.00	4.00	4	4	4
16	5.00	4.00	4	4	4
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講生1名で開講した。受講生は公会計の知識はなかったが、政治・経済等の一般常識については相当知識があり、その分、公会計との関係を見出し興味をもって学習する姿勢が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が公務員志望ということもあり、公共管理の観点から公会計の進展が必要との理解が持てるように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

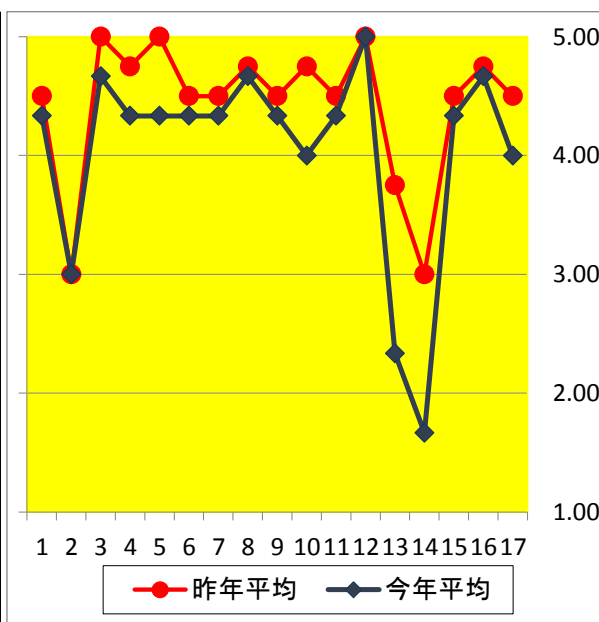
我が国の公会計の進展はうまく進まず、国際公会計基準や先進的な海外諸国の実務と比べても見劣りするところがある。将来、公会計の進展を担う可能性のある受講生に対して、なぜ公会計の進展が必要なのかについては、公共管理の観点から説明していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本講座は次年度以降なくなる。ただし、海外の事情を在外研究を経てさらに精緻化し、受講生に幅広い観点から公会計を学ぶ機会を与えたい。

科 目	法人税法			
配当年次	2	開講時限	春火4	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.33	5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.67	5	5	4
4	4.75	4.33	5	5	3
5	5.00	4.33	5	5	3
6	4.50	4.33	5	5	3
7	4.50	4.33	5	5	3
8	4.75	4.67	5	5	4
9	4.50	4.33	5	5	3
10	4.75	4.00	3・4・5	5	3
11	4.50	4.33	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.75	2.33	1・2・4	4	1
14	3.00	1.67	2	2	1
15	4.50	4.33	5	5	3
16	4.75	4.67	5	5	4
17	4.50	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	4	3			



受講生の傾向

課題レポートを昨年より増やしたにもかかわらず、質問No.13(予習時間)及び14(復習時間)の結果は、いずれも昨年よりも悪い。また、講義中の質疑応答も活発でなく、本アンケート結果の多くが昨年よりも悪い。受講生3名はいずれも真面目に取り組んではいたが、法人税法を積極的に学ぼうとする姿勢ではないという印象を受けた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公認会計士試験の理論対策として、課題レポートの判例数を増やした。また、講義内では公認会計士試験の過去問を多く取り入れ、受講生に記述させる時間をできる限り多くとるように留意した(条文集は貸与)。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

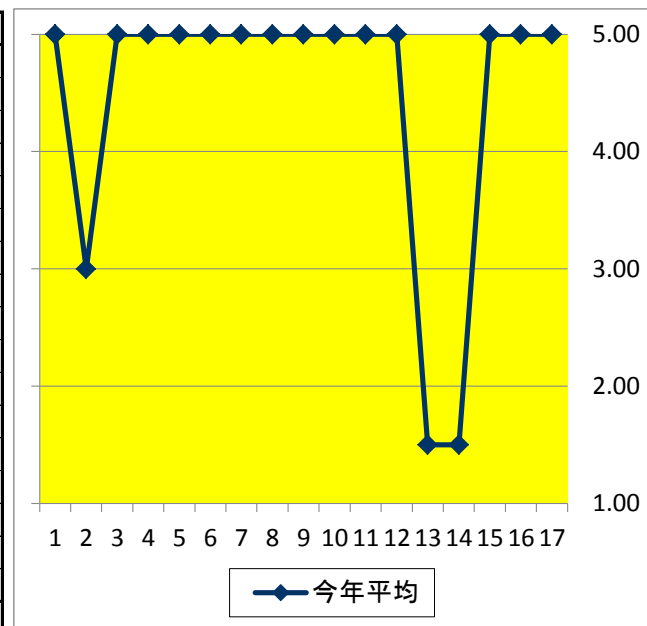
受講生は、質疑応答において根拠条文がなく結論を導く場面が見られた。この点を改善するため、条文集を利用させて過去問の解答を実際にかかせるようにする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題レポートの判例について、受講生自身が、事件の概要、争点、判旨等を報告することを通じて、講義内における質疑応答のきっかけを与えたい。また、学習時間を増やすため、記述式問題を宿題として課すことも実施したい。

科 目	国際財務戦略論			
配当年次	2	開講時限	春木3	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	1.50	1・2	2	1
14	—	1.50	1・2	2	1
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	2			



受講生の傾向

非常に学習意欲が高く、レベルが高かったため、結果的にシラバスを超えるレベルまで学習が進んだ。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学習意欲が高く、基礎的なことを積極的に学んでいた。そのレベルの高さに教える側もその知識を応用した金融新商品の開発についての課題を提供したが、それにも積極的に取り組んでいた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(昨年度未実施)

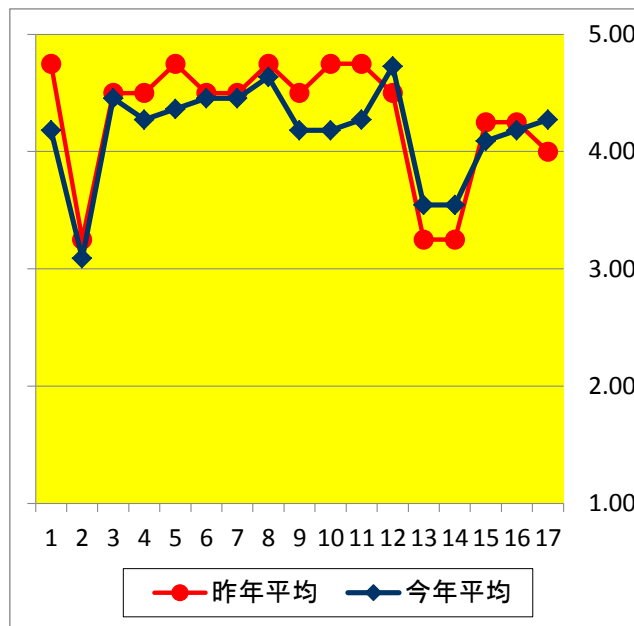
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年の学習意欲も継続すればよいが、例年は与えられたことを理解しようとするのみであり、あまり積極的とは言えない傾向がある。できる限り、興味を引き出して、今年のようにレベルの高い課題に挑戦できればよいが、学生の学習意欲とレベルを見ながら、レベルを調節する。ただし、最低限のレベルは到達できるようにする。

Ⅱ－(2)．2016 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科 目	中級商業簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋水3
受講者数	11	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.18	4	5	3
2	3.25	3.09	3	4	3
3	4.50	4.45	5	5	3
4	4.50	4.27	5	5	3
5	4.75	4.36	4・5	5	3
6	4.50	4.45	5	5	3
7	4.50	4.45	5	5	3
8	4.75	4.64	5	5	3
9	4.50	4.18	4	5	3
10	4.75	4.18	4	5	3
11	4.75	4.27	5	5	3
12	4.50	4.73	5	5	4
13	3.25	3.55	3	5	2
14	3.25	3.55	3	5	2
15	4.25	4.09	4・5	5	3
16	4.25	4.18	4	5	3
17	4.00	4.27	4	5	3
回答者数	5	11			



受講生の傾向

受講生は、主に、春学期に当該科目の単位が不認定となった学生であり、大半が留学生であった。その他に、入学前履修の制度を利用して受講した学生もいた。いずれも、日商簿記2級レベルの理解が不足している学生である。何名かにヒアリングしたところ、夏季休業や冬季休業の期間に主体的に勉強した受講生は少なく、講義中の多くの場面で自学自習の習慣が身につけていないと感じることが多かった。定期的実施したミニテストの成績も良くない状況であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記一巡の流れを明確に意識して学習してもらうようにした。仕訳の範囲は日商簿記4級から2級までを幅広く取り上げたが、とくに上級レベルの内容を理解する上で重要な論点は優先的に取り上げた。仕訳は覚えるのではなく、考えて仕訳することを大切にするように指導した。また、講義中は全体説明よりも問題演習に重点をおいて全員の理解を確認して回り、個々人の習熟度に合わせて個別指導を行った。具体的には、問題を配布して解いてもらい、分からないところは一人ずつ個別に質問に応じて解決し、理解を確認しながら各自のペースで問題を解き進めていくという形をとった。さらに、講義のはじめに定期的ミニテストを行い、それを即座に採点して間違いを個別に指導するなど、ひとりひとりの理解力アップを図った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

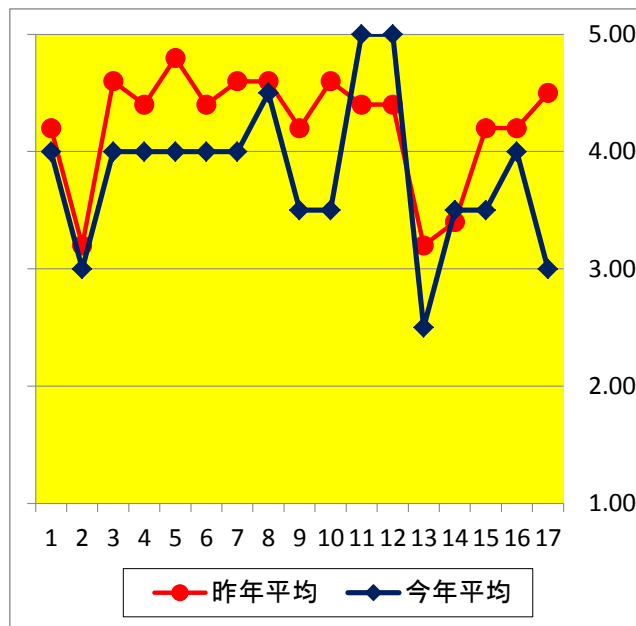
全体的に良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この講義は導入科目群科目であり、受講生の簿記の習熟度は個々人によって異なることから、講義は問題演習に重点をおき、個別指導を中心として行っている。受講生の大半が留学生であり、日本語でのコミュニケーション力にも差があることから、アンケート結果は毎年安定しないことが多い。しかしながら、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

科 目	中級工業簿記(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水1	
受講者数	3	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.00	4	4	4
2	3.20	3.00	3	3	3
3	4.60	4.00	4	4	4
4	4.40	4.00	4	4	4
5	4.80	4.00	4	4	4
6	4.40	4.00	4	4	4
7	4.60	4.00	4	4	4
8	4.60	4.50	4・5	5	4
9	4.20	3.50	3・4	4	3
10	4.60	3.50	3・4	4	3
11	4.40	5.00	5	5	5
12	4.40	5.00	5	5	5
13	3.20	2.50	1・4	4	1
14	3.40	3.50	2・5	5	2
15	4.20	3.50	3・4	4	3
16	4.20	4.00	4	4	4
17	4.50	3.00	3	3	3
回答者数	5	2			



受講生の傾向

本講義は、導入科目の再履修クラスである。受講生は、非常に少数であったが、まじめに授業に出席していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
 前回のアンケート評点を踏まえて、昨年度の取り組みを継続できるように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

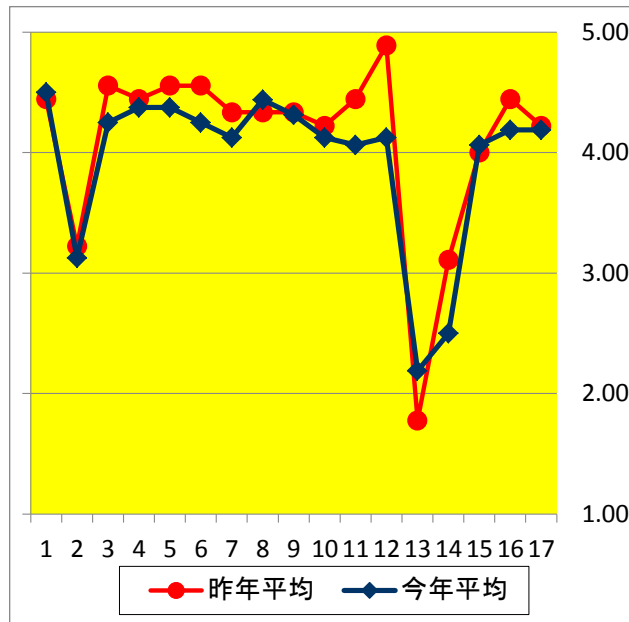
今回は受講生が予習を十分に行うようになっており、その他の項目も概ね良かったと考えている。そのため、今回の取り組みをこれからも継続できるように留意するつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の講義では履修者が少なく、その点がクラスの規模に関する評点にも反映されている。また、全体的な受講の満足度が高い一方で、全体的な理解度という点では、低くなってしまっている。そのため、予習復習の奨励を通じて理解度を上げるような取り組みが必要であると考えている。

科 目	企業法(B)			
配当年次	1	開講時限	秋木1	
受講者数	19	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.50	5	5	3
2	3.22	3.13	3	4	3
3	4.56	4.25	5	5	3
4	4.44	4.38	5	5	3
5	4.56	4.38	4	5	3
6	4.56	4.25	4	5	3
7	4.33	4.13	4	5	3
8	4.33	4.44	5	5	3
9	4.33	4.31	4・5	5	3
10	4.22	4.13	4	5	3
11	4.44	4.06	4	5	3
12	4.89	4.13	4	5	1
13	1.78	2.19	2	4	1
14	3.11	2.50	2	4	1
15	4.00	4.06	4	5	3
16	4.44	4.19	4	5	3
17	4.22	4.19	4	5	3
回答者数	10	16			



受講生の傾向

企業法は多くの学生が春学期に受講しているため、秋学期の履修者は少ないことが多いのであるが、今年度は19名とBクラスにしては多かった。企業法Aクラスの再履修として受講している者もいるが、秋学期から履修する学生も少なからずいた。授業の参加状況はおおむね良好で、授業態度も大変良かったが、その理解度についてはばらつきがみられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様、講義の中にあって、対話と文章作成のウェイトを高めるという授業を心掛けた。特に対話のウェイトを高めて、それによって学生の理解度を高めるとともに、その理解度をこちらで正確に把握するように努めた。また、その中では、法学特有の論理的な思考能力とそれに結びつけられた説得力が身につくよう心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

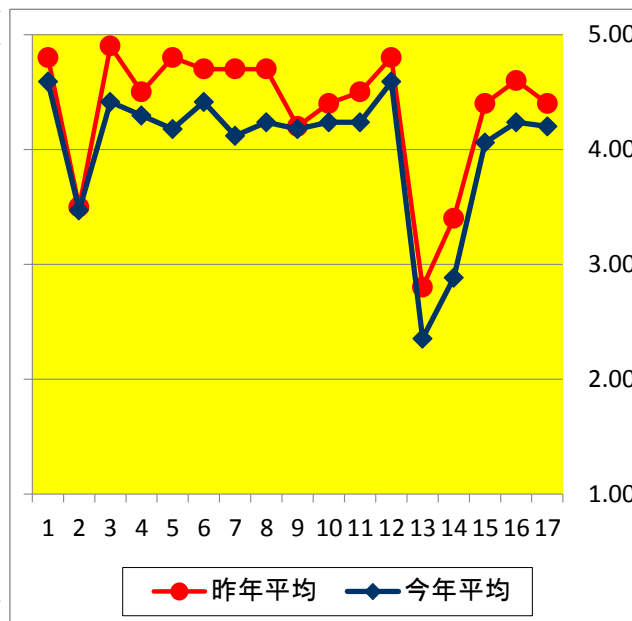
企業法という法学科目においては、その内容を理解できることはもちろん必要であるが、さらには法的で論理的な文章を書く能力、および対話において説得力のある説明ができる能力を身に付けられるよう指導を行いたい。そこで、いわゆるレクチャーにももちろん重点を置かざるを得ないが、そのバランスに配慮しつつも論文執筆の練習と対話による学習にはより力を入れたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この秋学期における受講生については、Bクラスとしては19人という多い人数で、かつ企業法に関する実力に差が大きく見られたことから、そのレベル差のある中で授業を行う難しさを感じた。理解不足の学生に対して理解できるまでの説明ができていたかどうか、また理解力の高い学生に対してはさらにその理解を深めることができたのかどうかという点では、あまり自信が持てなかった。今後は、特にこの点を意識して、授業に取り組みたいと思う。

科目	上級簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木2
受講者数	20	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.59	5	5	4
2	3.50	3.47	3	5	3
3	4.90	4.41	4・5	5	3
4	4.50	4.29	4	5	3
5	4.80	4.18	4	5	3
6	4.70	4.41	4	5	4
7	4.70	4.12	4	5	2
8	4.70	4.24	4	5	3
9	4.20	4.18	4	5	3
10	4.40	4.24	4	5	3
11	4.50	4.24	4	5	3
12	4.80	4.59	5	5	3
13	2.80	2.35	2	4	1
14	3.40	2.88	3	4	1
15	4.40	4.06	4	5	3
16	4.60	4.24	4	5	3
17	4.40	4.20	4	5	3
回答者数	10	17			



受講生の傾向

講義展開は昨年と同様であるが、アンケート結果を比較すると、全体的に低くなっている。その原因は不明であるが、受講生のレベル差に起因している可能性がある。公認会計士試験の合格者、同短答式試験の合格者またはそれにチャレンジする者、税理士試験の会計科目の合格者、日商簿記1級の合格者がいる一方で、春学期に当該科目の単位が不認定であった者や導入科目群科目を経て間もない者など、個々人の簿記の習熟度に大きなレベル差がある状況であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の当該科目と同じく、講義中の説明は、テクニカルに「覚えて解く」のではなく、原理・原則に従って「考えて解く」ことを意識してもらうようにした。また、基本的で重要な論点は、優先的に取り上げて説明した。問題演習の時間は、重要な基本例題を解いてもらい、質問があれば個別に対応し、間違いがあれば指摘して指導するなど、全員の理解を確認して回った。アンケート結果を見る限り、概ね受講生のニーズと合致していると考えてよいが、もう少し全体的にポイントを高めたいところである。とはいえ、上述のように受講生のレベル差が大きい状況では、全員の満足度を高めることは難しい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

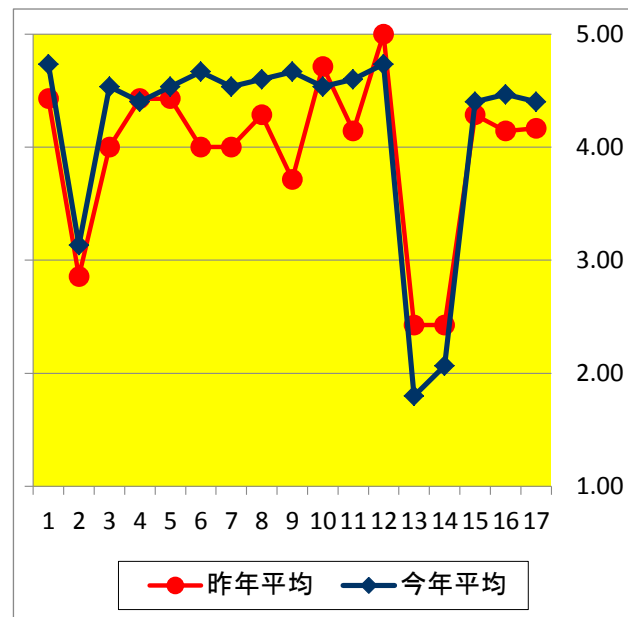
春学期の当該科目の受講生と比べると基礎力に不安を感じる人が多いが、講義の全体としては良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生のレベル差が大きく、全体説明と問題演習の時間配分に苦心したが、結果的に、レベルの高い受講生にとっても低い受講生にとっても、中途半端な満足度であったかもしれない。ただ、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。受講生の簿記の習熟度等に配慮しながら、次年度も継続することにしたい。

科 目	上級財務会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	20	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.73	5	5	4
2	2.86	3.13	3	5	3
3	4.00	4.53	5	5	4
4	4.43	4.40	4・5	5	3
5	4.43	4.53	5	5	4
6	4.00	4.67	5	5	4
7	4.00	4.53	5	5	4
8	4.29	4.60	5	5	3
9	3.71	4.67	5	5	4
10	4.71	4.53	5	5	4
11	4.14	4.60	5	5	4
12	5.00	4.73	5	5	4
13	2.43	1.80	2	4	1
14	2.43	2.07	2	4	1
15	4.29	4.40	4・5	5	3
16	4.14	4.47	5	5	3
17	4.17	4.40	4・5	5	3
回答者数	7	15			



受講生の傾向

受講生の欠席が散見された。また、小テストの結果は概ね良好な受講生と学習が不十分な受講生とに分かれたようである。このような傾向は前年度より顕著になってきていると感じる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義での配布資料やパワーポイントについて、特に大きく工夫したことはないが、講義内容に集中しやすいように、配布資料に少し手を加えることを試みた。また、講義冒頭では、前回との講義の大まかな確認を、講義終了時には当該講義内容のポイントを要約して、全体像を把握しやすいように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

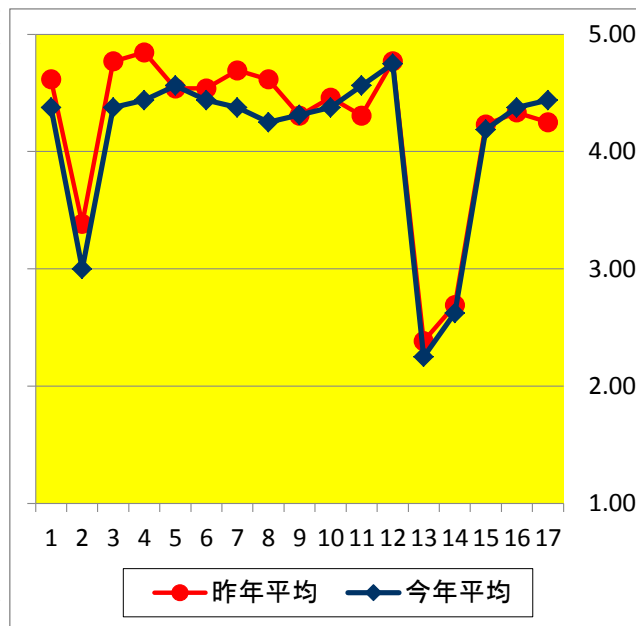
次年度は担当が再度変わるので、ここについては記載なし。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年度は担当していなかったが、受講生の傾向を踏まえると、上述のような傾向を所与としても、欠席が散見されることから、受講に積極的ではない、もしくは、学習意欲が十分に高くない受講生に、学習意欲を刺激し、積極的に受講するような工夫を講じる必要がある。

科 目	上級原価計算論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	26	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.62	4.38	4	5	3
2	3.38	3.00	3	3	3
3	4.77	4.38	4	5	3
4	4.85	4.44	5	5	3
5	4.54	4.56	5	5	3
6	4.54	4.44	5	5	3
7	4.69	4.38	5	5	3
8	4.62	4.25	5	5	3
9	4.31	4.31	4・5	5	3
10	4.46	4.38	4	5	3
11	4.31	4.56	5	5	3
12	4.77	4.75	5	5	4
13	2.38	2.25	2	4	1
14	2.69	2.63	2	5	1
15	4.23	4.19	4	5	3
16	4.33	4.38	4	5	4
17	4.25	4.44	4	5	4
回答者数	13	16			



受講生の傾向

原価計算に関する受講生の習熟度の差は、これまで以上に大きかった。その理由としては、短答式合格者と中級簿記修了者が混在しているためであると考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業の最初に基本的な部分を講義し、その後、応用の論点に進むというスタイルで行った。ただし、基本的な部分が多い回と応用的な部分が多い回に分けて、授業全体を通じて濃淡をつけるよう工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

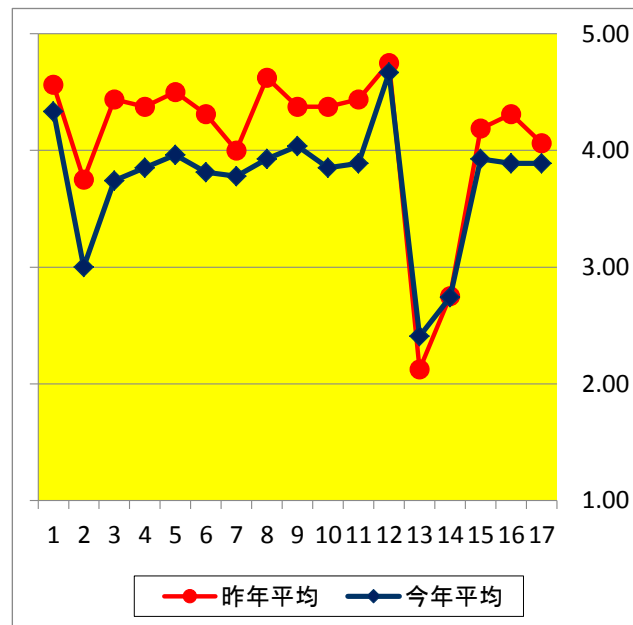
今後も、後期のクラスについては同様の状況が予測されるため、基本的な部分（例えば、あらゆる原価計算の基本になる費目別計算など）に重点を置いてレクチャーを進めていきたいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度以降は担当しないので、ノウハウを含めて、他の先生方に伝達していきたい。

科 目	上級管理会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋金4	
受講者数	37	回答者数	27	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.33	4	5	3
2	3.75	3.00	3	4	2
3	4.44	3.74	4	5	1
4	4.38	3.85	4	5	1
5	4.50	3.96	4	5	1
6	4.31	3.81	4	5	1
7	4.00	3.78	4	5	1
8	4.63	3.93	4	5	1
9	4.38	4.04	4	5	1
10	4.38	3.85	4	5	1
11	4.44	3.89	4	5	1
12	4.75	4.67	5	5	2
13	2.13	2.41	2	5	1
14	2.75	2.74	2	5	1
15	4.19	3.93	4	5	1
16	4.31	3.89	4	5	1
17	4.06	3.89	4	5	1
回答者数	16	27			



受講生の傾向

本講義は、基本科目の再履修クラスである。受講生の数が前年度より非常に増えていた。また、受講生が持つ知識の水準は、個人ごとに大きな差があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度の評点が概ね良好であったため、本年度は前年度の取り組みを継続するように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

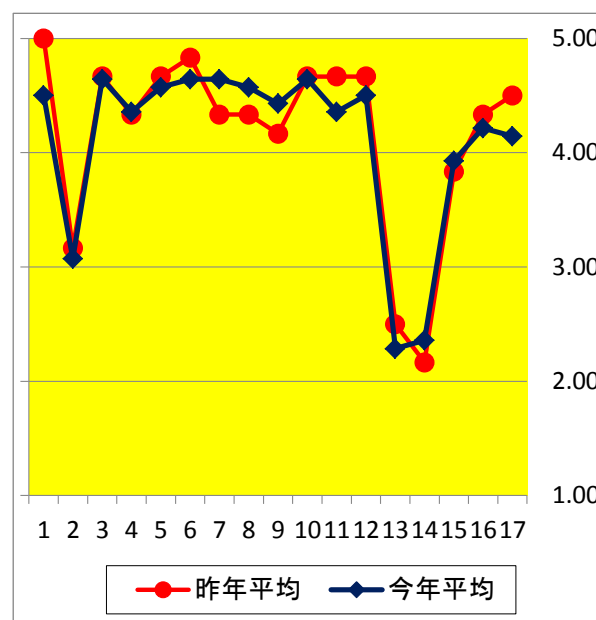
評点が全般的に改善しているため、丁寧に説明することが一定の効果があったと考えている。しかしながら、他方で予習および復習の評点が大きく下がっている。そのため、予習および復習に対する意識付けを行うことが必要であると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年と比較して、本年は受講者が大きく増加したこともあり、全体的に評点が下がっている。そのため、受講者数の増加、および受講者間の知識レベルの多様化に対応できるように、全体的な努力が必要であると考えている。

科 目	監査基準(B)			
配当年次	1	開講時限	秋金1	
受講者数	20	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	5	5	3
2	3.17	3.07	3	4	3
3	4.67	4.64	5	5	4
4	4.33	4.36	5	5	3
5	4.67	4.57	5	5	4
6	4.83	4.64	5	5	3
7	4.33	4.64	5	5	4
8	4.33	4.57	5	5	4
9	4.17	4.43	5	5	3
10	4.67	4.64	5	5	3
11	4.67	4.36	5	5	3
12	4.67	4.50	5	5	2
13	2.50	2.29	2	5	1
14	2.17	2.36	2	5	1
15	3.83	3.93	5	5	2
16	4.33	4.21	4	5	3
17	4.50	4.14	4	5	3
回答者数	6	14			



受講生の傾向

まじめにほぼ毎回出席する学生が大半である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回の授業の準備、復習に時間を要するまでには至らなかったが、今後も試験には十分準備が必要となる出題をすることで、自宅での自己学習を促進させた結果、復習時間は若干の改善が見られた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

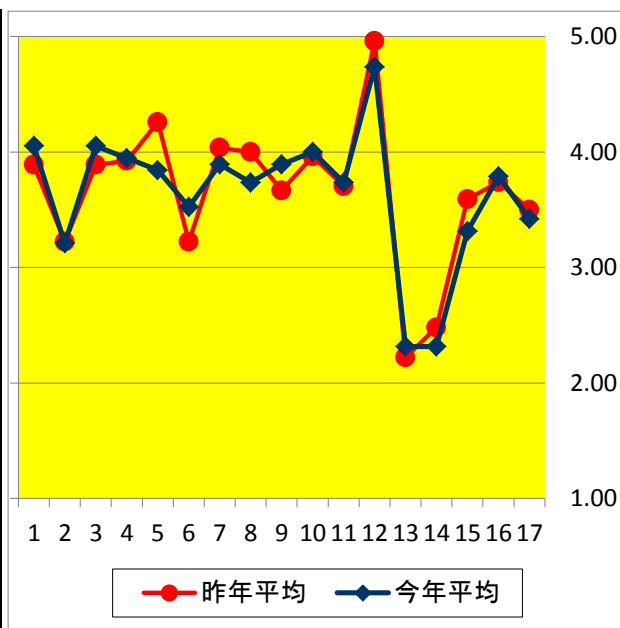
公認会計士等の試験準備をしている受講生にとっても必須科目のため、受験勉強の負担にならないよう授業の予習、復習について時間をあまりかけないように授業した結果がそのままアンケート結果として出ていると思います。この点については今後もその方向で進めたいと思いますが、期末試験問題については春学期と比べ成績がかなりよかったので、復習に時間をかけた結果だと思っています。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

試験では高得点を取る学生が多く、必修科目として理解度は高まっていると考えている。今後も理解度を高めるように数多く問題を解くことに注力したい。

科目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	秋火2	
受講者数	33	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.89	4.05	4	5	3
2	3.22	3.21	3	5	3
3	3.89	4.05	4	5	3
4	3.93	3.95	4	5	3
5	4.26	3.84	4	5	2
6	3.22	3.53	4	5	1
7	4.04	3.89	4	5	2
8	4.00	3.74	4	5	3
9	3.67	3.89	4	5	3
10	3.96	4.00	4	5	3
11	3.70	3.74	3・4	5	3
12	4.96	4.74	5	5	3
13	2.22	2.32	2	5	1
14	2.48	2.32	2	5	1
15	3.59	3.32	4	5	2
16	3.74	3.79	4	5	3
17	3.50	3.42	4	5	1
回答者数	27	19			



受講生の傾向

例年通り、受講者の出席率が高い。しかし、これも例年通りであるが、予習復習に掛ける時間は極めて少ない(30分強程度)。こうした消極性が理解度に響いていると感じることが多々あった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の「今後の対応」に書いた通り、行った。最近の傾向として、学力の2分化が進行しているように思う。両者の中間を願うと双方から不満が起きそうである。そこで、事前に計算問題等を配布して、そこから理解力の確認を行う問題を選んで試験もした。しかし、範囲を指定しても準備をしてこない学生が増える傾向に対しては、効果が薄かった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

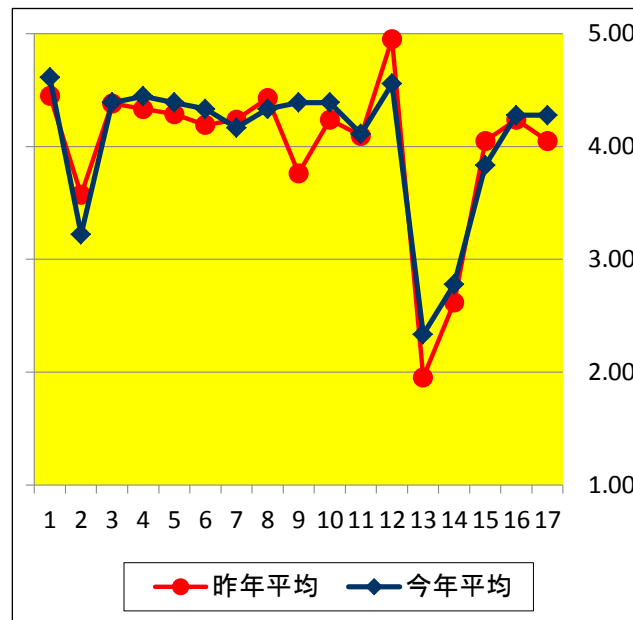
講義内容を少し減らし、進度を落として、ゆっくりと説明するなどして、理解度を高める工夫が必要に思う。とりわけ、予習・復習に時間をかけなくなっているのに対応する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度も、講義内容を少し減らし、進度を落として、ゆっくりと説明するなどして、理解度を高める工夫が必要に思う。とりわけ、予習・復習に時間をかけなくなっているのに対応する必要がある。

科 目	財表作成簿記			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	27	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.45	4.61	5	5	3
2	3.57	3.22	3	5	2
3	4.38	4.39	4	5	3
4	4.33	4.44	5	5	3
5	4.29	4.39	5	5	3
6	4.19	4.33	4・5	5	3
7	4.24	4.17	4・5	5	3
8	4.43	4.33	4・5	5	3
9	3.76	4.39	4	5	3
10	4.24	4.39	4	5	3
11	4.10	4.11	5	5	3
12	4.95	4.56	5	5	2
13	1.95	2.33	2	4	1
14	2.62	2.78	2・3	5	1
15	4.05	3.83	4	5	2
16	4.24	4.28	4	5	3
17	4.05	4.28	4	5	3
回答者数	21	18			



受講生の傾向

受講生のなかには、公認会計士試験の合格者、同短答式試験の合格者またはそれにチャレンジする者、日商簿記1級の合格者、春学期の「上級簿記」で高得点を取得した者がいるなど、全体的に簿記の習熟度の高い状況であった。しかし、とくに連結会計については、計算問題としては解けるが、仕訳したり精算表を作成することは難しい様子であった。専門学校等では、連結会計を計算問題として扱うことが多く、仕訳して勉強することが少ないというヒアリングを得ているので、それが一因である可能性はある。マインドの高い受講生は、この機会を積極的に捉えて、仕訳と精算表から連結会計の理解を深めようと努めていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の全体を通じて、基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるように計画した。講義中の説明は、計算問題としてテクニカルに解くのではなく、とくに連結会計では簿記一巡の手続を念頭におきながら、仕訳を中心として理解してもらうようにした。問題演習の時間は、質問があれば個別に対応し、間違いがあれば指摘して指導するなど、全員の理解を確認して回った。計算問題としての解き方や出題形式に慣れていると、違和感のある講義展開であったかもしれない。しかしながら、簿記である以上、仕訳は基本であり不可欠であるから、その点はこの講義で大切にしている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

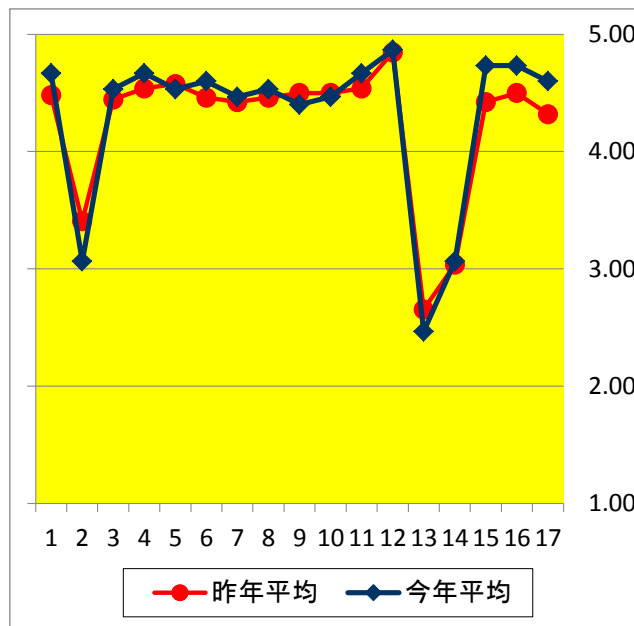
全体的に良い感触を得ているので、次年度も継続することにした。ただし、昨年度と比べて質問9のポイントが低い。昨年度の講義展開と大きな変更はなく、原因は不明である。次年度の評価も踏まえて検討することにした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全体的に良い感触を得ているので、次年度も継続することにした。なお、質問9について、昨年にポイントが低い原因は不明としたが、今年は例年並みに戻っている。昨年にポイントが低かったことは、その年度の受講生に固有のものであると考えられる。次年度の評価を見守ることにする。

科 目	戦略管理会計論			
配当年次	1	開講時限	秋金5	
受講者数	25	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.48	4.67	5	5	3
2	3.41	3.07	3	4	3
3	4.44	4.53	5	5	3
4	4.54	4.67	5	5	3
5	4.58	4.53	5	5	3
6	4.46	4.60	5	5	3
7	4.42	4.47	5	5	3
8	4.46	4.53	5	5	3
9	4.50	4.40	5	5	3
10	4.50	4.47	5	5	3
11	4.54	4.67	5	5	3
12	4.85	4.87	5	5	4
13	2.65	2.47	1	5	1
14	3.04	3.07	3	5	1
15	4.42	4.73	5	5	4
16	4.50	4.73	5	5	4
17	4.32	4.60	5	5	3
回答者数	27	15			



受講生の傾向

受講生の多くは、管理会計の基本的な知識(技法、計算方法、用語など)を身につけていた。また、学習態度も熱心で、好感の持てる受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

単純に基本的な内容を説明するだけでなく、特定の管理会計の技法や考え方が実際の企業においてどのような問題解決に役立つのか(役立つことを期待されているのか)について、例などをあげて説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

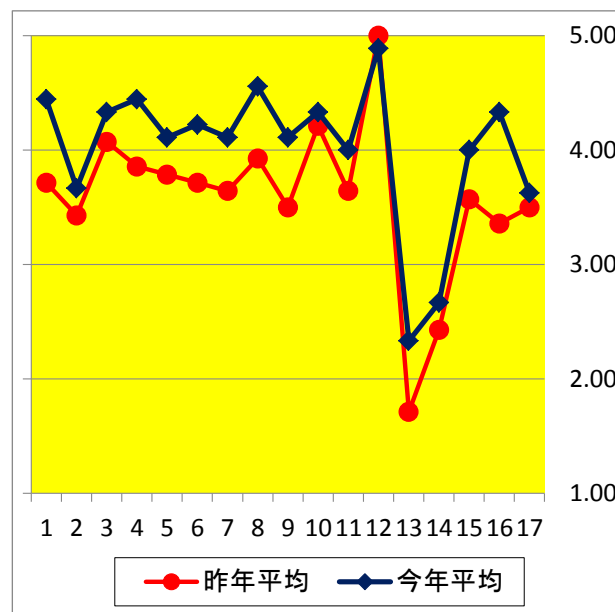
今後も、幅広い学生に対応することが求められると考えられるため、基本的な部分(例えばキータームやキー概念など)を説明する部分と、応用的な部分(例えばキー概念を使った企業行動の説明など)に分けて、それぞれの関心に合うように対応していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これからも、基本的な部分と応用的な部分に分けて授業を構成していきたい。また、一方的に授業を行うだけでなく、受講生の意見を聞く機会などをこれまで以上に設け、自分自身で考える能力を向上させるようにしたい。

科 目	租税法会計論			
配当年次	1	開講時限	秋月2	
受講者数	11	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.71	4.44	4	5	4
2	3.43	3.67	3・4	5	3
3	4.07	4.33	4	5	4
4	3.86	4.44	4	5	4
5	3.79	4.11	4	5	3
6	3.71	4.22	4	5	3
7	3.64	4.11	4	5	3
8	3.93	4.56	5	5	4
9	3.50	4.11	5	5	2
10	4.21	4.33	4・5	5	3
11	3.64	4.00	4	5	2
12	5.00	4.89	5	5	4
13	1.71	2.33	2	4	1
14	2.43	2.67	3	5	1
15	3.57	4.00	4	5	3
16	3.36	4.33	4・5	5	3
17	3.50	3.63	4	5	1
回答者数	14	9			



受講生の傾向

受講生は、会計士志望者と税理士志望者から主に構成されていた。今年度の受講生も例年と同様、初学者が多かったが、とても真面目に取り組んでいた。ほとんどの項目の平均値が昨年の平均値を上回っており、質問No.13及び14の結果も(若干ではあるが)良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

租税法に関する理論部分の説明をコンパクトに行うため、国税庁ホームページなどの図入り情報をレジュメに多く取り込み、資料配布も行った。また、所得税法については、公認会計士試験の過去問をピックアップすることによって、時間不足の解消に努めた。さらに、受講生には講義時間内でも多くの過去問を解かせたが、宿題としても多くの問題を解答付きで提供した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

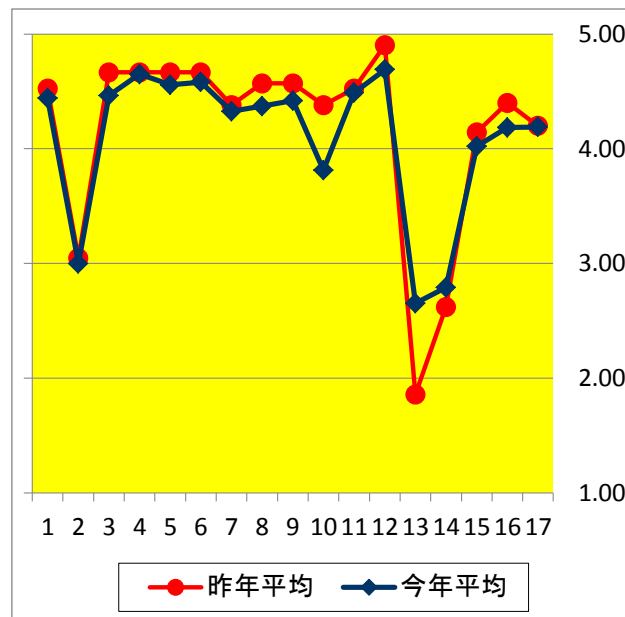
税務会計の基礎となる租税法理論の説明に要する時間を圧縮するため、レジュメや資料を充実させる。また、所得税法については、各種所得金額の計算が重要であるが、今年度の講義では時間不足の印象があったため、所得税法の学習内容を見直して同計算の時間を確保する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計士試験において法人税法の対象範囲が拡大している。これに対応すべく、「租税法会計論」は春学期に開講する「上級税務会計論」と内容を連動させ、税務会計を体系的かつ効率的に学習させるスタイルへ変更する。

科 目	会社法			
配当年次	1	開講時限	秋火3	
受講者数	53	回答者数	43	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	4.44	5	5	3
2	3.05	3.00	3	4	1
3	4.67	4.47	5	5	3
4	4.67	4.65	5	5	3
5	4.67	4.56	5	5	3
6	4.67	4.58	5	5	3
7	4.38	4.33	4	5	3
8	4.57	4.37	5	5	3
9	4.57	4.42	5	5	2
10	4.38	3.81	4	5	1
11	4.52	4.49	5	5	3
12	4.90	4.69	5	5	3
13	1.86	2.65	2	5	1
14	2.62	2.79	2	5	1
15	4.14	4.02	4	5	3
16	4.40	4.19	4	5	3
17	4.20	4.19	4	5	3
回答者数	21	43			



受講生の傾向

今回の会社法の受講生は、53人と比較的多く、大半は1年生ではあるが1年次において履修しなかった2年生も少なからず受講していた。また、これまで本科目は公認会計士を目指す学生の履修者が多かったが、今回はそれに限らず受講する学生も多くあった。授業は本研究科としては思いのほか多人数となったが、受講態度も良好で、高い意欲をもって受講していたようであった。また、授業レベルもおおむね学生に合致していたように思うが、難しく感じる学生も見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会社法の学習は、すでに修得済みないし同時履修されている企業法の学習が前提となるので、当該企業法の授業との連続性・関連性を強く意識して授業を進めた。これによって、会社法が理解しやすくなるとともに、企業法の理解をより定着させることができるよう配慮した。このことは、会社法が分量的に大きいことに対する対策としての意味も持つが、企業法の理解ができていない学生とその理解が難しい学生との間で、会社法における理解度もかなり変わってしまうということにもなるのでこの点については配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

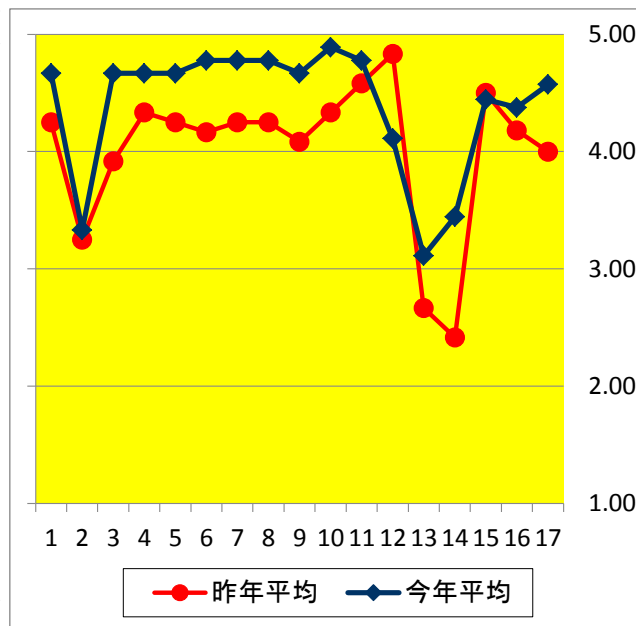
昨年度にも記載したことであるが、会社法という広い範囲を扱うには工夫が必要である。何らかのトピックスでくくって授業を行うということが、今年度、あまりうまくいかなかったので、来年度はより大きく工夫したい。さらに、文書を作成するという練習を行ったが、これによって会社法を扱うのに少ない時間がさらに圧迫されることにもつながる。「企業法」や「上級会社法」という連携する科目との調整を図りつつ、授業を工夫する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会社法は範囲が広いので、その授業はすべてを網羅的に扱い分量的に消化することよりも、学生自身がそのポイントとなる点をおさ理解し、会社法の本質を把握してそこから自分の力で会社法に関する各論点を考えることができるような授業となるよう心がけたい。

科 目	コーポレート・ファイナンス論			
配当年次	1	開講時限	秋火2	
受講者数	9	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.67	5	5	4
2	3.25	3.33	3	5	3
3	3.92	4.67	5	5	4
4	4.33	4.67	5	5	4
5	4.25	4.67	5	5	4
6	4.17	4.78	5	5	4
7	4.25	4.78	5	5	4
8	4.25	4.78	5	5	4
9	4.08	4.67	5	5	4
10	4.33	4.89	5	5	4
11	4.58	4.78	5	5	4
12	4.83	4.11	4・5	5	1
13	2.67	3.11	1・3・4・5	5	1
14	2.42	3.44	3・5	5	1
15	4.50	4.44	4	5	4
16	4.18	4.38	4	5	4
17	4.00	4.57	5	5	4
回答者数	12	9			



受講生の傾向

一部の学生は非常に熱心であったが、その他の学生は休みがちで、ファイナンスに係る諸問題を理解するというよりも結果を暗記するという傾向が強いという印象を受けた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生に1節ずつ分担させ、発表させるとともに、理解が不十分なところや説明があいまいなところをフォローするようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

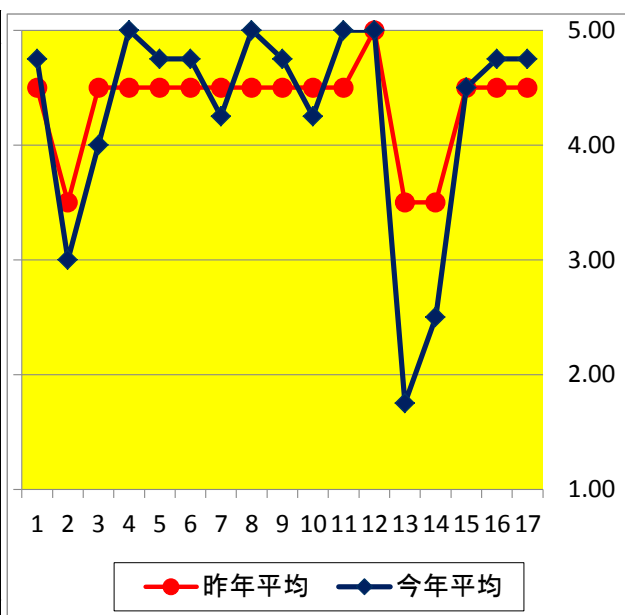
今年度と同様、教科書を中心に、数学的な面を避けつつ、基本的な考え方について授業する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度と同様、教科書を中心に、数学的な面を避けつつ、基本的な考え方について授業する。

科 目	国際会計基準論			
配当年次	2	開講時限	秋月4	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.75	5	5	4
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.50	4.00	4	5	3
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	4.75	5	5	4
6	4.50	4.75	5	5	4
7	4.50	4.25	4	5	4
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.50	4.75	5	5	4
10	4.50	4.25	5	5	3
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	1.75	1	3	1
14	3.50	2.50	2・3	3	2
15	4.50	4.50	4・5	5	4
16	4.50	4.75	5	5	4
17	4.50	4.75	5	5	4
回答者数	2	4			



受講生の傾向

就職先との関係で欠席が生じる場合があったが、それ以外による欠席はなく、欠席した場合でもその回の資料をダウンロードし、自らキャッチアップする程、真摯に全ての受講生が受講していた。また、授業内で行う予定の議論の資料を、進んで収集し、議論の材料とするほど、積極的であった。しかし、予習・復習という点では、授業内で完結させてしまっている傾向を感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

4人の受講生のうち2人が留学生であったことから、留学生の国でのIFRSの扱いについての議論に触れ、同時に、日本の基準とIFRSとの基準の違いを明示しつつ、講義を実施した。また、関大LMSの会議室を利用した「質疑応答」を試験的に実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

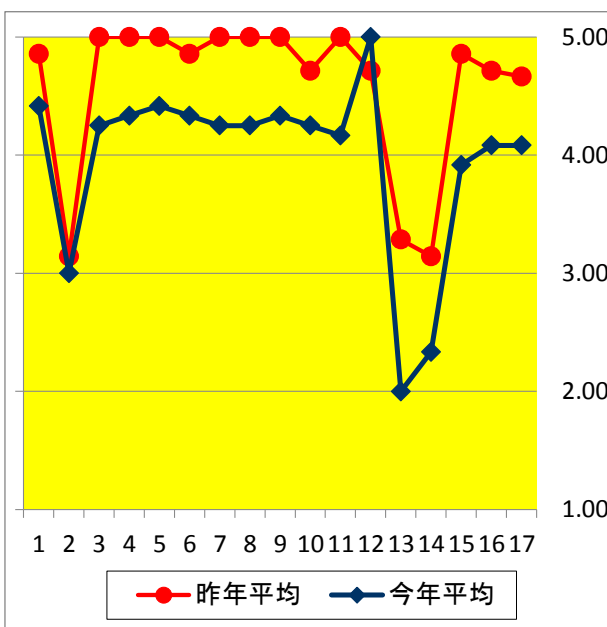
今年度の授業においてディスカッションが活発であったことから、同様の工夫を実施しつつ、学生の理解度を高める資料作成と授業展開に工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比して、質問4,5,6について上昇していることから、資料の扱いや議論の展開については、今年度と同じ方向性で展開しようとする。一方、ホワイトボード・PC等の機材の利用については昨年度より評価が下がっていることから、視覚的にも理解や議論を促すような工夫を講じるつもりである。また、関大LMSのより一層の活用を試行錯誤になるが、実施するつもりである。

科 目	コストマネジメント論			
配当年次	2	開講時限	秋木4	
受講者数	13	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.42	5	5	3
2	3.14	3.00	3	4	2
3	5.00	4.25	5	5	3
4	5.00	4.33	5	5	3
5	5.00	4.42	5	5	3
6	4.86	4.33	4	5	3
7	5.00	4.25	4・5	5	3
8	5.00	4.25	4・5	5	3
9	5.00	4.33	5	5	2
10	4.71	4.25	4	5	3
11	5.00	4.17	4・5	5	2
12	4.71	5.00	5	5	5
13	3.29	2.00	1	5	1
14	3.14	2.33	1・2	5	1
15	4.86	3.92	4	5	2
16	4.71	4.08	4	5	3
17	4.67	4.08	4	5	3
回答者数	7	12			



受講生の傾向

受講者は、全体としてはまじめに講義に出席して、真剣に受講していた。ただし、受講生によっては複数回の欠席も見られた。また、受講生間の知識レベルの差が比較的大きいように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回の評点がおおむね良好であったため、本年度も前年度と同様の講義を行うように試みた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

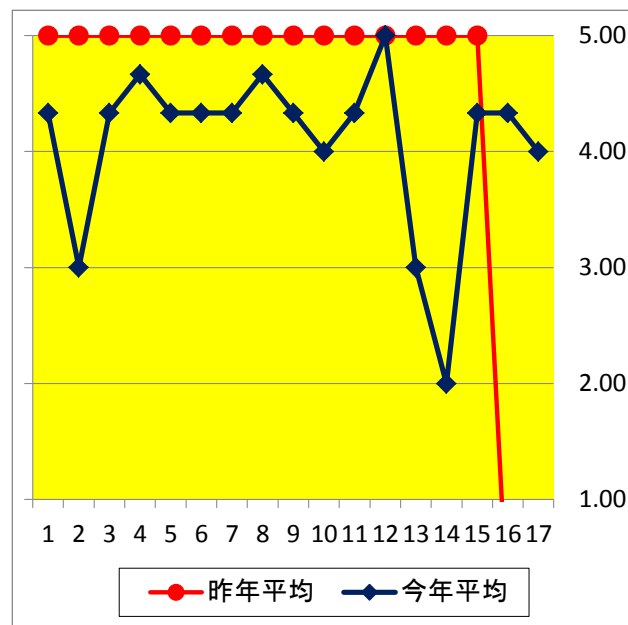
今回は非常に高い評点であったため、この内容を継続できるように講義を進めていくつもりである。また、本講義の予習および復習については、改善されているとはいえ、さらに意識付けを行うつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

非常に高い評点であった前年度と比較して、評点が多い項目で低下しているが、講義に対する全体的な満足度は非常に高い評点であった。他方で、受講生の予習および復習が下がってしまったため、さらに意識付けを行う必要があると考えられる。

科 目	租税法理論			
配当年次	2	開講時限	秋火4	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.33	5	5	3
2	5.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.33	5	5	3
4	5.00	4.67	5	5	4
5	5.00	4.33	5	5	3
6	5.00	4.33	5	5	3
7	5.00	4.33	5	5	3
8	5.00	4.67	5	5	4
9	5.00	4.33	5	5	3
10	5.00	4.00	3・4・5	5	3
11	5.00	4.33	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	3.00	1・3・5	5	1
14	5.00	2.00	1	4	1
15	5.00	4.33	5	5	3
16	—	4.33	5	5	3
17	—	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	1	3			



受講生の傾向

受講生は3名で、全て税理士志望者であり、租税法に強い関心を持って講義に臨んでいた。ただ、前年度に比べて、質問No.13及び14の結果の通り、学習時間が減少した。そのため、受講生は課題レポートとして提出した租税判例を十分に説明できない場面が頻繁に見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

課題レポートとして提出させる判例数を増やし、講義内でそれを受講生自身に報告させる方法を採用した(課題レポート作成に必要な情報は事前に提供した)。また、公認会計士試験の過去問を題材に、租税法総論、所得税法、消費税法の解釈適用に関する答案練習を実施した。なお、受講生が3名のため、小テストは実施しなかった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

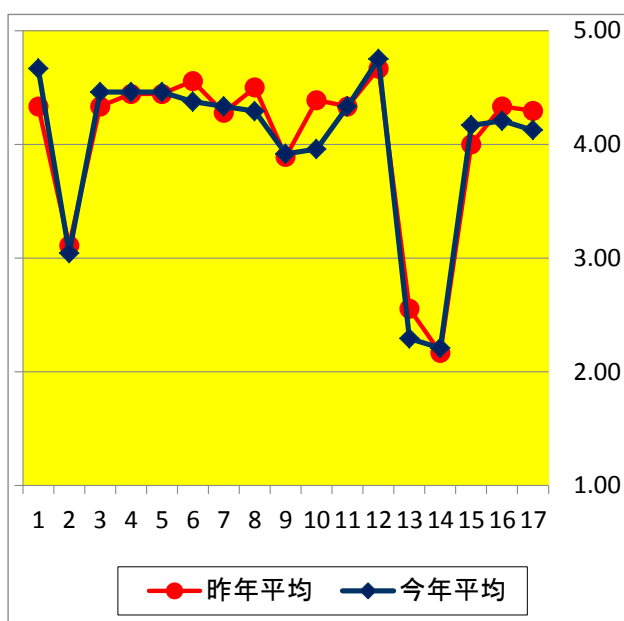
受講生との質疑応答において、根拠となる条文が出てないことが多かった。この点を改善するため、条文集を頼りに過去問の解答を実際にかかせることを講義時間内により多く取り入れる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生による租税判例の報告で、租税手続法に関する理解が不十分である点が見られた。この点に関し、補足説明を行うことにする。また、受講生は、解釈論を苦手としている。この点を改善するため、条文集を用いて、受講生に出来る限り多くの条文に直接当たる機会を提供する。

科 目	監査事例研究			
配当年次	1	開講時限	秋金2	
受講者数	35	回答者数	24	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.67	5	5	4
2	3.11	3.04	3	4	3
3	4.33	4.46	5	5	2
4	4.44	4.46	5	5	3
5	4.44	4.46	4	5	4
6	4.56	4.38	4	5	2
7	4.28	4.33	4	5	3
8	4.50	4.29	4	5	3
9	3.89	3.92	3・5	5	2
10	4.39	3.96	5	5	1
11	4.33	4.33	4	5	1
12	4.67	4.75	5	5	4
13	2.56	2.29	2	5	1
14	2.17	2.21	2	5	1
15	4.00	4.17	4	5	2
16	4.33	4.21	4	5	2
17	4.29	4.13	4	5	1
回答者数	18	24			



受講生の傾向

受講生は非常にまじめで、ほぼ全員が毎回出席している状況でした。履修人数が多かったので、前回のようチームを毎回変えていろいろな人と接する機会を増やすことはできませんでしたが、プレゼンをする機会を均等に与えたことと、リーダーシップを発揮する学生に触発されて他の学生も積極的にディスカッションに参加していました。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

予習復習の時間が少ないことを踏まえて、ディスカッションには事前準備が必要であることを説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

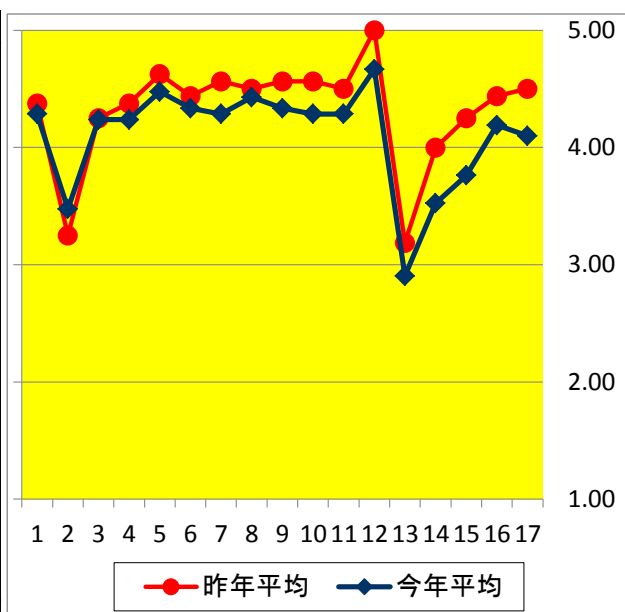
試験準備をしている受講生にとって受験勉強の負担にならないよう授業の予習、復習について時間をあまりかけないように授業した結果がそのままアンケート結果として出ていると思います。ただ、今回は事前準備がある程度必要で、その知識の上で参加型の授業を展開しましたので、予習時間は多少必要だったと思います。学生に、この授業を通じてさらに深く勉強したいと思ってもらえるよう、ここで学んだことが今後どのように発展できるのかのヒントを交えながら講義展開をしたいと思っています。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き参加型の授業を展開することで事前準備をある程度進めてもらいたいと思います。そのための工夫として、次のディスカッションの内容や考慮すべき点についてその前の授業の中で頭出しをしておくようにし、学生に興味を持って事前準備を行ってもらえるような工夫を行いたいと思います。

科 目	基本会計プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	春月3	
受講者数	22	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.29	4	5	3
2	3.25	3.48	3	5	2
3	4.25	4.24	5	5	2
4	4.38	4.24	5	5	3
5	4.63	4.48	5	5	3
6	4.44	4.33	4	5	3
7	4.56	4.29	4・5	5	3
8	4.50	4.43	4・5	5	3
9	4.56	4.33	4	5	3
10	4.56	4.29	4・5	5	3
11	4.50	4.29	4・5	5	3
12	5.00	4.67	5	5	3
13	3.19	2.90	1・3・5	5	1
14	4.00	3.52	3・5	5	2
15	4.25	3.76	4	5	1
16	4.44	4.19	4	5	3
17	4.50	4.10	4	5	2
回答者数	16	21			



受講生の傾向

全体として、コンピューターに関する基礎知識が少ないだけでなく、苦手意識も高い受講生が多いようである。また、受講生のうち3分の1が留学生であり、演習中における言語の弊害も感じられる。結果として、と思われるが、課題の内容も趣旨もよく理解できないまま課題を実施している受講生が少なくなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

情報処理への苦手意識から、会計プログラムの構造の理解に及ばないことを避けるため、必要に応じてまとめとなる構造図を板書し、講義全体の流れの中の各回の講義の位置づけやポイントを理解しやすいように留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

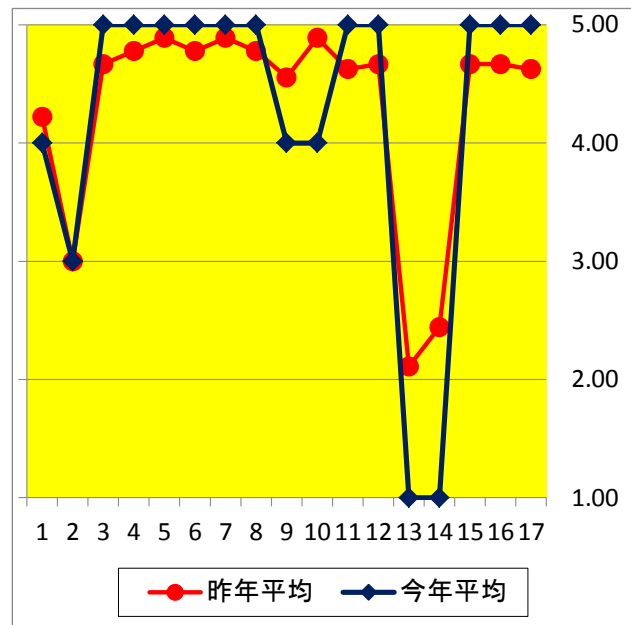
講義内容や速度と学生の理解度とのバランスに配慮しながら、講義順序を調整し、演習内容の趣旨を理解させ、全体の理解度をあげるよう工夫を講じるつもりである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義全体の流れの中の各回の講義の位置づけやポイントを理解しやすいよう、会計プログラムの構造を板書するだけでなく、講義内容や各課題の意味を明示し、自ら学習するような工夫を講じるつもりである。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	秋土3	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.22	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.67	5.00	5	5	5
4	4.78	5.00	5	5	5
5	4.89	5.00	5	5	5
6	4.78	5.00	5	5	5
7	4.89	5.00	5	5	5
8	4.78	5.00	5	5	5
9	4.56	4.00	4	4	4
10	4.89	4.00	4	4	4
11	4.63	5.00	5	5	5
12	4.67	5.00	5	5	5
13	2.11	1.00	1	1	1
14	2.44	1.00	1	1	1
15	4.67	5.00	5	5	5
16	4.67	5.00	5	5	5
17	4.63	5.00	5	5	5
回答者数	9	1			



受講生の傾向

今年の受講生は1名で、一般製造業の事務職に就職が内定している者であったため、監査人的な目線ではなく、ディスクローズする側の基礎知識の習得を希望していた。
トピックな会計情報に対しても興味を抱いており、受講態度はまじめで、理解できないところについては、質問をするとともに、パソコンのネット情報などでの検索を適宜行い、前向きに講義に参加してくれた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が1名で、一般製造業に就職が内定していることから、製造業の実際のディスクロージャー事例を中心に講義を行うよう心掛けた。同業他社の開示例を比較し、それぞれの企業の開示に対する姿勢や、適切な開示体制は如何にあるべきかについて、一方的に教えるのではなく、受講生の主体的な考えを述べてもらい、多様な考え方を身に付けてもらえるよう指導した。
生きた事例を分析するため、30分程度の簡単な基礎知識のレクチャーと確認を行った後、事例分析をするよう心掛けた。
できるだけ、ネットを活用し、講義時間内で完結できるよう配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

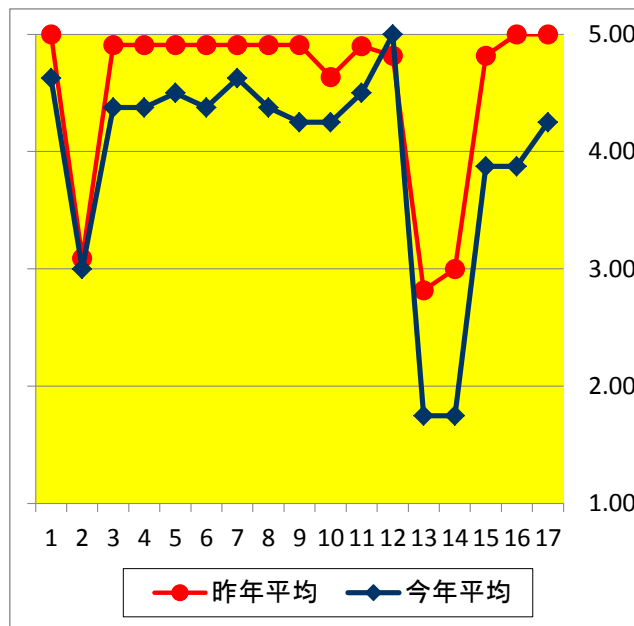
ディスクロージャーに対する基本的な考え方をレクチャーし、実際の開示事例等を通じ、本来あるべきディスクロージャーの姿を考える機会を提供したいと考えています。
事例ごとに適正な開示情報は異なるものなので、「模範解答はない」というスタンスで、考える力を身に付けてもらえるよう工夫したいと考えています。受講生の目的が多様であることから、講義時間内で完結し、予習・復習は強制しない方針で講義を進める予定です。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士志望者、一般企業就職希望者、留学生等受講生ごとで、ディスクロージャーに対して必要とされる知識レベルを異にするため、受講生のニーズに即した講義をしようと考えています。講義時点でトピックな事件等が発生すれば、そのプレスリリース、過年度開示情報を分析する等、実践的な講義をしたいと考えています。
そのため、講義時間内で完結できるよう、講義の初めに、基礎知識を共有し、それに基づいて討論することで、理解を深めさせたいと考えています。

科 目	実践会計プログラム演習			
配当年次	2	開講時限	秋土2	
受講者数	8	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.63	5	5	4
2	3.09	3.00	3	3	3
3	4.91	4.38	5	5	3
4	4.91	4.38	5	5	3
5	4.91	4.50	5	5	3
6	4.91	4.38	4	5	4
7	4.91	4.63	5	5	4
8	4.91	4.38	4	5	4
9	4.91	4.25	4	5	3
10	4.64	4.25	4	5	3
11	4.90	4.50	4・5	5	4
12	4.82	5.00	5	5	5
13	2.82	1.75	1	4	1
14	3.00	1.75	1	4	1
15	4.82	3.88	4・5	5	1
16	5.00	3.88	4・5	5	1
17	5.00	4.25	4	5	3
回答者数	11	8			



受講生の傾向

積極的に講義に参加する受講生が多く、受講生がそれぞれ課題をクリアするために協力しあい、解らないところを教えあうということで、チームワークの良い受講生であった。ただ、一部の受講生は授業中のコミュニケーションに欠け、黙々と作業に没頭している者も若干見受けられた。出席率も高く、パソコンの操作能力も比較的高く、講義は非常にやり易かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の要望を聞き、できるだけ実践的な講義をするよう心がけました。パソコンの基本操作を身に着けつつ、事業計画や固定資産会計を理解してもらえるように事例を工夫しました。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

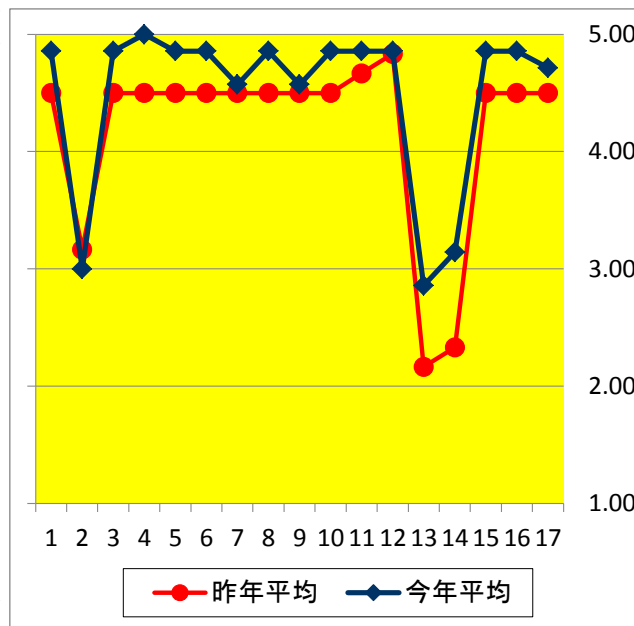
受講生のパソコンの操作能力を見極め、できるだけ実践的な講義を行いたいと思います。席は固定化する傾向があるので、受講生の相互補助関係を重視し、共育的な講義を実践したいと考えています。実践的、かつ、積極的な討論を行えるような教材の提供を用意する予定です。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

パソコン能力は、ビジネス社会では必須なので、エクセルの基本操作を確実に出来るよう指導し、事業計画などの実践的な指導を行うよう対応したいと考えています。財務会計ソフトの活用方法も、決算をするというよりは、入力されたデータの活用を中心に指導していきたいと考えています。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(坂口クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	6	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.86	5	5	4
2	3.17	3.00	3	3	3
3	4.50	4.86	5	5	4
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	4.86	5	5	4
6	4.50	4.86	5	5	4
7	4.50	4.57	5	5	3
8	4.50	4.86	5	5	4
9	4.50	4.57	5	5	4
10	4.50	4.86	5	5	4
11	4.67	4.86	5	5	4
12	4.83	4.86	5	5	4
13	2.17	2.86	1・3・5	5	1
14	2.33	3.14	2	5	2
15	4.50	4.86	5	5	4
16	4.50	4.86	5	5	4
17	4.50	4.71	5	5	4
回答者数	6	7			



受講生の傾向

管理会計について興味を持ち、基本的な知識を身につけた学生が多かった。また、積極的に意見を述べ、仲間で議論を行い、解決策を導出するといったグループワークについても、積極的に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的なテーマや議論の方向についてレクチャーし、その後で特定の問題について議論してもらうといったサポート役に徹した。これにより、参加者の発言を誘発し、受講生に考える習慣を身につけてもらうように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

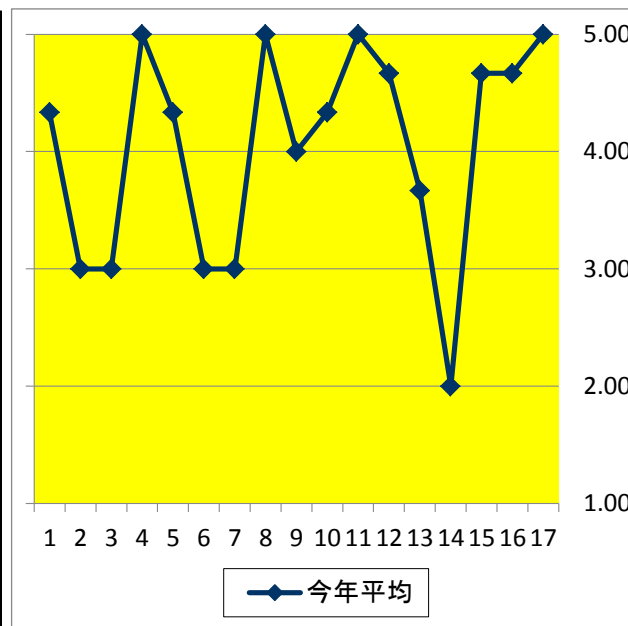
今後も、受講生の状況に応じて、一方向的なレクチャーではなく、双方向的なディスカッションを中心に授業を組み立てていきたいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度以降はこの授業を担当しないので、この授業を通じて得た経験を伝えていけるように努力したい。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	5	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	3.00	3	3	3
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.33	4	5	4
6	—	3.00	3	3	3
7	—	3.00	3	3	3
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.00	3・4・5	5	3
10	—	4.33	5	5	3
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.67	5	5	4
13	—	3.67	2・4・5	5	2
14	—	2.00	1・2・3	3	1
15	—	4.67	5	5	4
16	—	4.67	5	5	4
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	3			



受講生の傾向

3人の受講生全員が、正当な理由のない欠席もなく、積極的に受講生していた。ディスカッションを中心に展開したが、事前準備が充分に行われており、議論が活発に行われた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当してないため、昨年度の結果を踏まえることはできないが、共通シラバスの趣旨や目的に沿って講義を展開し、受講生自らが疑問点や解決法を探すよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

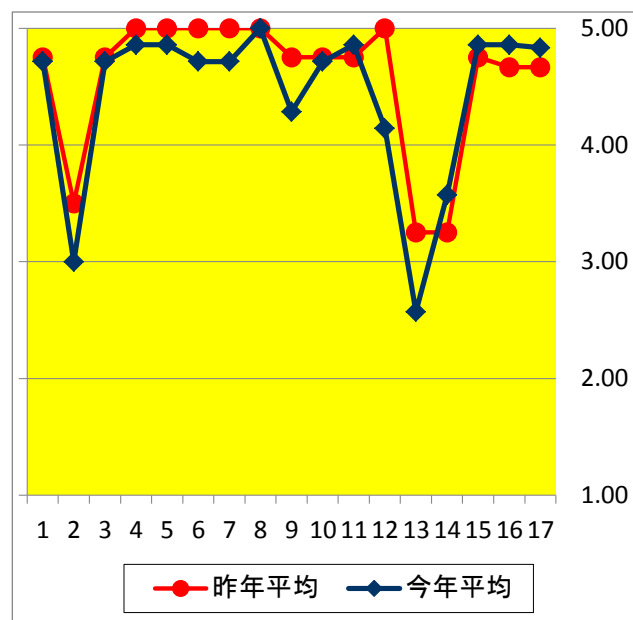
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質問3,6,7について「3」の評価であり、受講生主体の問題設定やディスカッションを実施したためであるが、受講生が行う論点について、参考資料などを事前に紹介し、講義内では資料を提示するなどし、より受講生の主体的な学習を促す工夫を講じるつもりである。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(三島クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	4	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.71	5	5	3
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.75	4.71	5	5	4
4	5.00	4.86	5	5	4
5	5.00	4.86	5	5	4
6	5.00	4.71	5	5	4
7	5.00	4.71	5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.75	4.29	5	5	3
10	4.75	4.71	5	5	4
11	4.75	4.86	5	5	4
12	5.00	4.14	4・5	5	2
13	3.25	2.57	2	5	1
14	3.25	3.57	3	5	2
15	4.75	4.86	5	5	4
16	4.67	4.86	5	5	4
17	4.67	4.83	5	5	4
回答者数	4	7			



受講生の傾向

個別演習科目ということもあり、授業には熱心かつまじめに取り組んでおり、予習・復習もしっかりと行われていた。1年生のソリューションとあって、企業法の基礎を確認することを目的としたが、企業法という科目そのものに強い関心を持っていたこともあり、基礎的な部分はもとより、かなり踏み込んだ内容を扱っても十分に授業についてくることができていた。徹底的に理解することを目的として授業を行った。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

ソリューションという科目は、上でも述べたことではあるが、私が題材として扱った企業法について学生の関心は強いので、モチベーションの高い状況を維持しながら授業を行うように心がけた。これに対して、学生の学習進捗状況は個々人で異なるので、学生の要求するレベルとあまりかけ離れないよう、学生との対話でレベル間の確認をしながら、慎重に授業を進めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

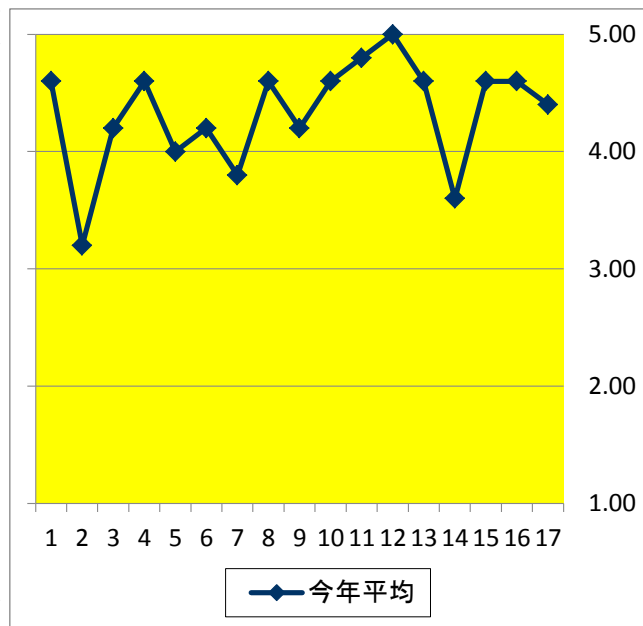
ソリューションという授業は、受講生の受講目的や学力・レベルに応じて対応しなければならない。学生数が4人であれば対応できる人数であるが、これよりも多くなったり、目的・学力に差異があるようであれば、授業で扱う題材やその進め方など一層の工夫が必要であるが、場合によっては、授業内での個別対応では限界があるときなど、クラスを分けるなどの工夫が必要であろう。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の授業に関しては、教員と学生間における対話を中心に組み立てていたが、学生が一定数以上(例えば4人以上)いる場合には、学生間における討論も積極的に行われるように工夫したい。

科 目	ソリューション・イン・アカデミック(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋月5
受講者数	5	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.60	5	5	4
2	—	3.20	3	4	3
3	—	4.20	4	5	4
4	—	4.60	5	5	4
5	—	4.00	4	5	3
6	—	4.20	4・5	5	3
7	—	3.80	3・4	5	3
8	—	4.60	5	5	4
9	—	4.20	4・5	5	3
10	—	4.60	5	5	4
11	—	4.80	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	4.60	5	5	4
14	—	3.60	4	4	2
15	—	4.60	5	5	4
16	—	4.60	5	5	4
17	—	4.40	4	5	4
回答者数	—	5			



受講生の傾向

5名の受講生のうち、1名が会計士志望者で、残りが税理士志望者であった。また、別の区分でいえば、実務経験者が3名、未経験者が2名であった。5名の受講生は、租税法に関する関心がそれぞれ異なっていたため、各自の報告内容がお互いにとって新鮮であったようである。講義では議論が頻繁に行われ、各自、租税法に関するレベルアップを図ることができたようである。アンケート結果も良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

最初に、判例分析における報告レジュメの作成方法を指導した。次に、私見の組み立て方で、評釈の重要性を指導した。また、受講生には税目を特に指定することなく、自由にテーマ選択をさせ、各自の関心を出来る限り広く持ってもらうように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

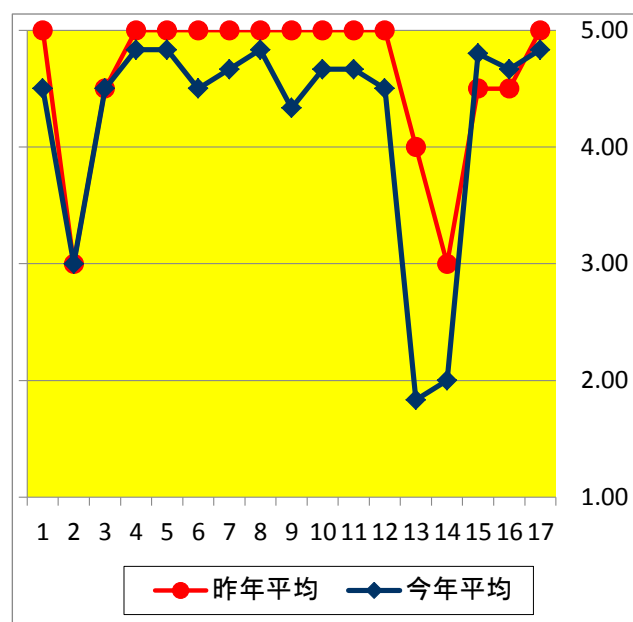
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生間では条文解釈に関する議論があまり行われず、受講生は解釈論を苦手としているようであった。そこで、受講生には必ず報告レジュメに条文を記載させ、その解釈適用について議論を行うよう誘導する。

科 目	ソリューション・イン・エキスパートイズ(三島クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋火1	
受講者数	6	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.83	5	5	4
5	5.00	4.83	5	5	4
6	5.00	4.50	5	5	3
7	5.00	4.67	5	5	3
8	5.00	4.83	5	5	4
9	5.00	4.33	5	5	3
10	5.00	4.67	5	5	3
11	5.00	4.67	5	5	3
12	5.00	4.50	5	5	3
13	4.00	1.83	1	5	1
14	3.00	2.00	1	5	1
15	4.50	4.80	5	5	4
16	4.50	4.67	5	5	3
17	5.00	4.83	5	5	4
回答者数	2	6			



受講生の傾向

今年度は本科目の受講生は6名と比較的多かった。また、企業法学習に関する目的意識も高く、どの学生も授業には熱心に取り組んでいたし、また、エキスパートイズとあってレベルの高い授業を行っても十分についてくることができていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は受講生が6名と多かったので、班を2つに分けて、1つの課題に対してそれぞれの班でディスカッションををしてもらい、意見をまとめ、代表者に発表してもらうという形式をとった。なるべく学生による議論の時間を多くとり、結論に至るプロセスを重視して、学生の議論・報告を聞くよう心掛けた。この結果、これまでのソリューションに比べて、学生の積極性が増したように感じた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

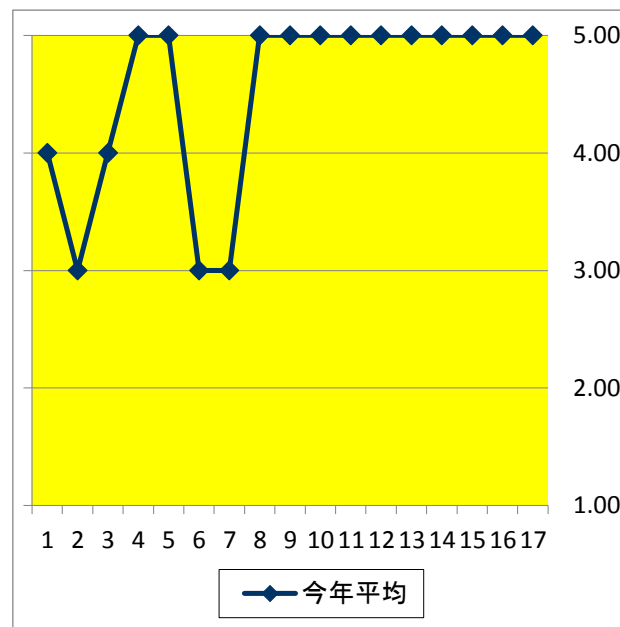
ソリューション・イン・エキスパートイズは、ソリューションの中でも2年秋学期という最後のソリューションとなり、受講生のキャリア設計等が受講目的として明確に反映されるようになる。受講生の受講目的やその背景にあるキャリア設計などを丁寧に聞き取り、それに合致した授業を行うよう心がけねばならない。今年度はクラス分けで対応したが、そのような対応も難しくなることもあるので、事前に学生と相談のうえ、方針を決めて授業を進めなければならない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生数がある程度存在することが前提となるが、今年度実施した班に分けての討論・報告方式は成功したように思うので、今後もこれを継続していきたい。ただ、班の中でも特に誰がというのではなく、それぞれの学生が活発に議論に加わるような環境づくりをしていく必要がある。

科 目	論文指導・修士論文(基礎)(柴クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋木5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	3.00	3	3	3
7	—	3.00	3	3	3
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

サンプルが1なので「傾向」は出せない。当該学生は、予習復習にもたっぷり時間をかけ(2時間以上)、出席率もかなりよい。また、本講義が本人に合っていたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

いずれ修士論文を書くという視点にたち、論文とはどういうものであるかを中心に、テーマの選定や方法論の説明をした。本人の希望通りに答えを出せないという、論文の苦しみも味わってもらった。後半は、テーマが絞れてきたので、説明の範囲もそれに合わせて行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

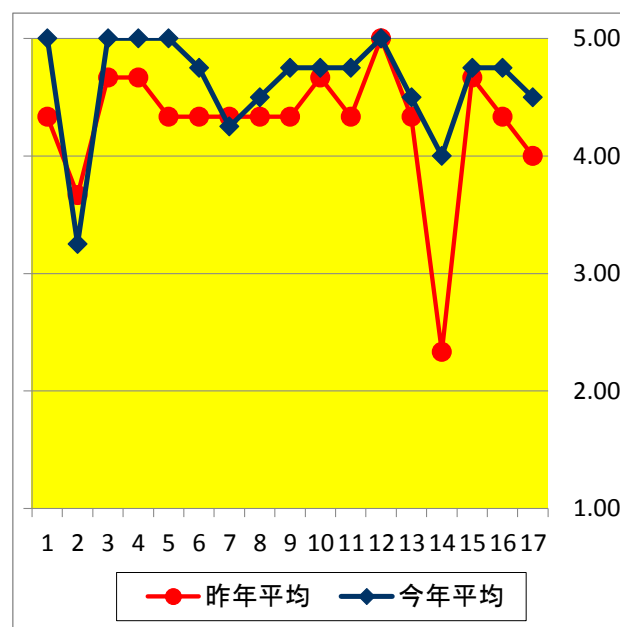
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本人が自力で研究に取り組めるように導くのが重要であるが、それは履修者の個性を踏まえなければならない。本年同様に、その点を考慮して、講義を行う。

科 目	論文指導・修士論文(基礎)(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋木5	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	5.00	5	5	5
2	3.67	3.25	3	4	3
3	4.67	5.00	5	5	5
4	4.67	5.00	5	5	5
5	4.33	5.00	5	5	5
6	4.33	4.75	5	5	4
7	4.33	4.25	5	5	3
8	4.33	4.50	5	5	3
9	4.33	4.75	5	5	4
10	4.67	4.75	5	5	4
11	4.33	4.75	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.33	4.50	4・5	5	4
14	2.33	4.00	5	5	2
15	4.67	4.75	5	5	4
16	4.33	4.75	5	5	4
17	4.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	4			



受講生の傾向

受講生4名のうち、2名が実務経験者で、残りが未経験者である。アンケート結果は前年度よりも望ましいものばかりである。この結果は、2名の実務経験者が主となって、講義レベルを引き上げてくれたことによる。また、未経験者の2名も、当初は上手くプレゼンを行うことができなかったが、実務経験者との議論を経て、数段のレベルアップが見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

発表レジメの模範を実務経験者に行わせることで、以後の報告スタイルを確定させるようにした。また、引用に関する意識の向上を目指すため、授業内では必ず出典の確認を口頭で行った。さらに、租税法論文に必要な事項を理解させるため、口頭ではなく、レジメを作成し、解説を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

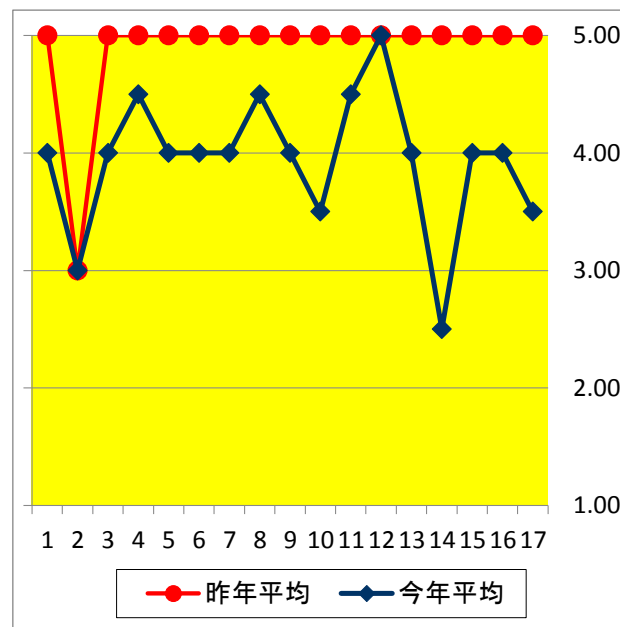
受講生には必ず発表レジメを作成させる。なお、レジメの記載には、必ず引用を付けさせる指導をする。また、本年度と同様、租税法論文の作成に必要な事項を毎回レジメを作成して講義内で説明する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

発表レジメの模範が受講生にとって非常に有益であることが確認できた。従って、この点については今後も継続して行うことにする。また、引用については繰り返し指導を行い、受講生の意識変革を促す。さらに、租税法論文に必要な諸事項については、本年度と同様にレジメを作成し、受講生のレベルアップに役立てたい。

科 目	論文指導・修士論文(実践)(中村クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋金5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.00	3・5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.00	3・5	5	3
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.00	3・5	5	3
6	5.00	4.00	3・5	5	3
7	5.00	4.00	3・5	5	3
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	5.00	4.00	3・5	5	3
10	5.00	3.50	3・4	4	3
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.00	3・5	5	3
14	5.00	2.50	2・3	3	2
15	5.00	4.00	3・5	5	3
16	5.00	4.00	3・5	5	3
17	5.00	3.50	3・4	4	3
回答者数	1	2			



受講生の傾向

2名とも真摯に取り組んでいたが、2名ともスケジュール管理が十分でなく、うち1名は修士論文の提出期限に間に合わない結果となった。また、いずれの報告レジュメにおいても、引用もれが目立った。なお、質問No.13及び14からわかる通り、前年度に比べて、2名とも学習時間が少なく、その結果が質問No.17の結果につながったと推測する。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生に報告レジュメを作成させる際、各回の報告目的や進捗状況、今後の予定を必ず記載させるようにした。また、報告レジュメの引用もれが全く改善されなかったため、最後まで繰り返し注意を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

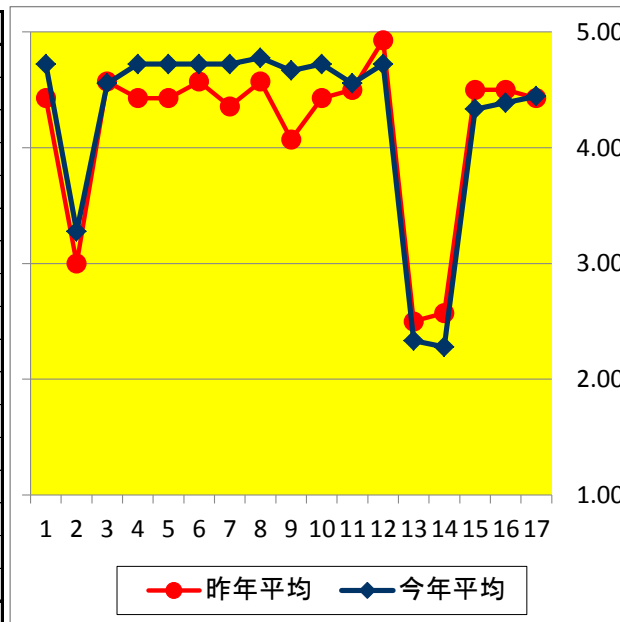
受講生には必ず発表レジュメを作成させる。なお、レジュメの記載には、必ず引用を付けさせる指導をする。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生に対して、修士論文完成までのスケジュールについて具体的な指示を出すことで、受講生自身に自覚を促す。また、報告レジュメの作成と引用もれの指摘については、今後も継続して行う。

科 目	特殊講義(経営と会計)			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	20	回答者数	18	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.72	5	5	4
2	3.00	3.28	3	5	3
3	4.57	4.56	5	5	3
4	4.43	4.72	5	5	4
5	4.43	4.72	5	5	4
6	4.57	4.72	5	5	4
7	4.36	4.72	5	5	4
8	4.57	4.78	5	5	4
9	4.07	4.67	5	5	3
10	4.43	4.72	5	5	3
11	4.50	4.56	5	5	4
12	4.93	4.72	5	5	3
13	2.50	2.33	2	5	1
14	2.57	2.28	2	5	1
15	4.50	4.33	5	5	3
16	4.50	4.39	5	5	3
17	4.43	4.44	5	5	3
回答者数	14	18			



受講生の傾向

受講登録20名全員が受講し、出席回数は15回7名、12～14回8名、9～11回5名と良好であった。毎回の授業では、自発的に質問する学生もいたが多くは指名すれば発言するといった状況であった。レポートテーマの事前発表については比較的前向きな姿勢も見られた。最終のレポートは、論理性や情報収集等の努力の面で個人差があり、少数名のレポートは秀逸であったが、全体として出来不出来にバラつきがあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業で双方向の対話を心がけたほかレポートテーマの事前発表で、発表者に質問する学生を予め指名するなど消極性や受身の姿勢改善の手立てを講じた。また、事例の歴史的・経済的背景をより簡潔に説明することで、経営と会計の関連性を分かりやすく理解してもらうことにも努めた。アンケート結果を見ると、それらの努力がある程度反映されているように思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

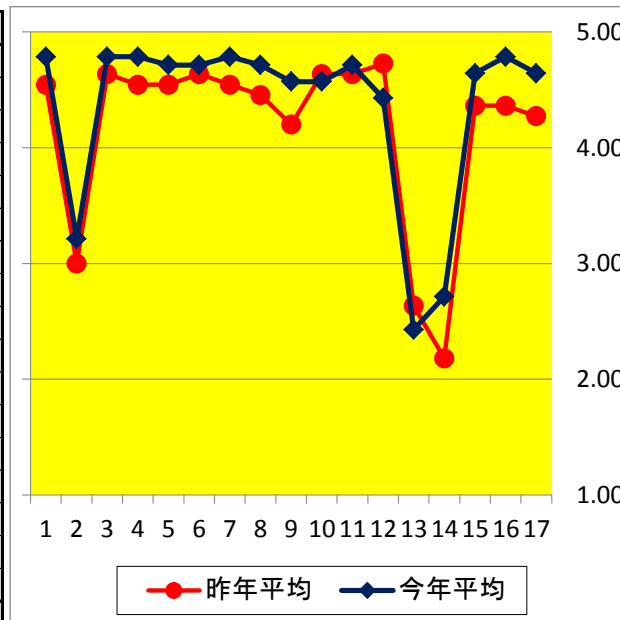
引き続き対話型の授業を心がけ、興味を持たせることで消極性や受身の姿勢を改善し、授業の効果を高めたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

該当なし

科 目	特殊講義(グローバル化と会計)			
配当年次	1	開講時限	秋木4	
受講者数	15	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.55	4.79	5	5	4
2	3.00	3.21	3	5	3
3	4.64	4.79	5	5	4
4	4.55	4.79	5	5	4
5	4.55	4.71	5	5	3
6	4.64	4.71	5	5	4
7	4.55	4.79	5	5	4
8	4.45	4.71	5	5	4
9	4.20	4.57	5	5	3
10	4.64	4.57	5	5	3
11	4.64	4.71	5	5	4
12	4.73	4.43	5	5	1
13	2.64	2.43	1・2・3	5	1
14	2.18	2.71	2	5	1
15	4.36	4.64	5	5	4
16	4.36	4.79	5	5	4
17	4.27	4.64	5	5	3
回答者数	11	14			



受講生の傾向

受講登録15名中1名は初回のみを受講で実質の受講者は14名であった。14名中、出席回数15回4名、12～14回7名、9～11回2名、10回未満が1名と概ね良好であった。毎回の授業では、指名すれば一部の学生を除きそれなりの質問があったほかグループ討議への参加やレポートテーマの事前発表についての意欲も感じられた。最終のレポートは論理性や情報収集等の努力の面で個人差は見られたがほぼ水準を満たしており、特に数名のレポートは秀逸であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業で双方向の対話を心がけたほか昨年に続きケーススタディ方式のグループ討議を入れ、さらにグローバル化の最前線の声を聞いてもらう目的で、カンボジアのマイクロファイナンス事業を立ち上げた関大OBをゲストスピーカーに招いた。アンケートの結果にそれらの効果が現れているように思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

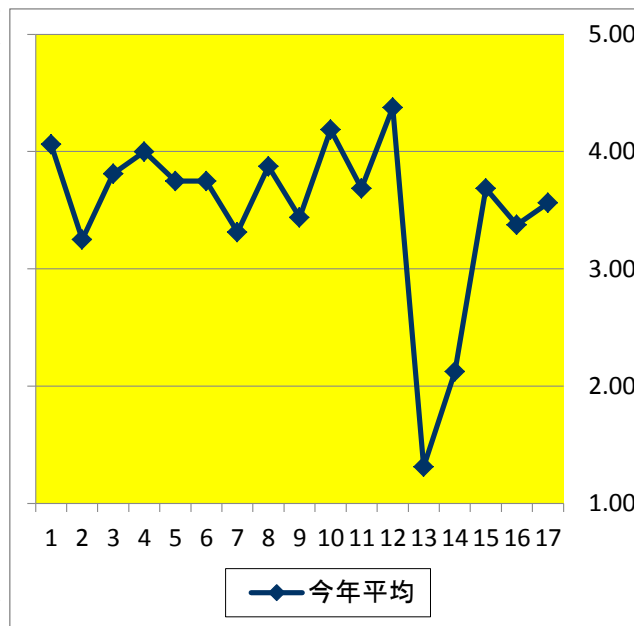
対話型の授業を心がけ、興味を持たせることで消極性や受身の姿勢を改善し、授業の効果を高めたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

該当なし

科 目	特殊講義(税務と会計)		
配当年次	1	開講時限	秋前月6～7
受講者数	18	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.06	4	5	2
2	—	3.25	3	4	2
3	—	3.81	4	5	1
4	—	4.00	4	5	3
5	—	3.75	4	5	2
6	—	3.75	4	4	3
7	—	3.31	4	4	1
8	—	3.88	4	5	3
9	—	3.44	3・4	5	1
10	—	4.19	4	5	3
11	—	3.69	4	5	1
12	—	4.38	5	5	3
13	—	1.31	1	3	1
14	—	2.13	2	4	1
15	—	3.69	4	5	3
16	—	3.38	4	5	1
17	—	3.56	4	4	2
回答者数	—	16			



受講生の傾向

本授業は、本研究科院生と社会人との共同授業であって、院生13名社会人5名の計18名による授業であった。院生および社会人ともに、出席状況もよく(社会人にとっては仕事終わりではあったが)、まじめにかつ熱心に授業に参加しており、議論や発言等も積極的に行われていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業は社会人と院生の共同授業ということもあって、税務および会計について、実務家の立場から理論に基づいた実務的な観点からの授業を行った。税務と会計実務について、それぞれ分量は多いが、バランスよく扱うことによって、全体として実務的感覚が身につくよう配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

社会人との共同授業ということで、本科目に関する受講生のそれぞれの理解度の違いが大きくあり、この点を配慮して授業運営を行う必要があると感じた。授業の最初のうちに学生の理解度を把握して、その理解度を前提としたレベル設定をしながら授業を行うことを心掛けたい。

科 目	特殊講義(労務と会計)		
配当年次	1	開講時限	秋前金6～7
受講者数	16	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.20	4	5	4
2	—	3.10	3	4	3
3	—	4.00	4	5	3
4	—	4.00	4	5	3
5	—	4.10	4	5	3
6	—	4.00	4	5	3
7	—	3.80	4	5	2
8	—	4.00	4	4	4
9	—	3.40	3	4	3
10	—	3.80	4	4	3
11	—	4.00	4	5	3
12	—	4.80	5	5	4
13	—	1.70	1	5	1
14	—	2.00	2	3	1
15	—	3.90	4	4	3
16	—	3.70	4	4	3
17	—	4.20	4	5	4
回答者数	—	10			



受講生の傾向

本授業は、本研究科院生と社会人との共同授業であって、院生7名社会人9名の計16名による授業であった。院生および社会人ともに、本授業の趣旨を明確に理解して受講しており、授業に対して積極的に参加していた。ただ、社会人にとっては仕事終わりでの受講と思われるが、遅刻して授業に参加する場面があった。全体的には、まじめにかつ熱心に授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本授業は労務と会計とを組み合わせるという授業で、会計を専門に学習する院生にとっても、また労務・人事を専門に扱っている社会人にとっても、満足を得られるような授業にすることを心掛けた。すなわち、労務と会計をそれぞれをリンクさせることで、新たな視点(会計から労務という視点と、労務から会計という視点)でそれらをとらえ、より深く理解し応用力が身につくよう配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

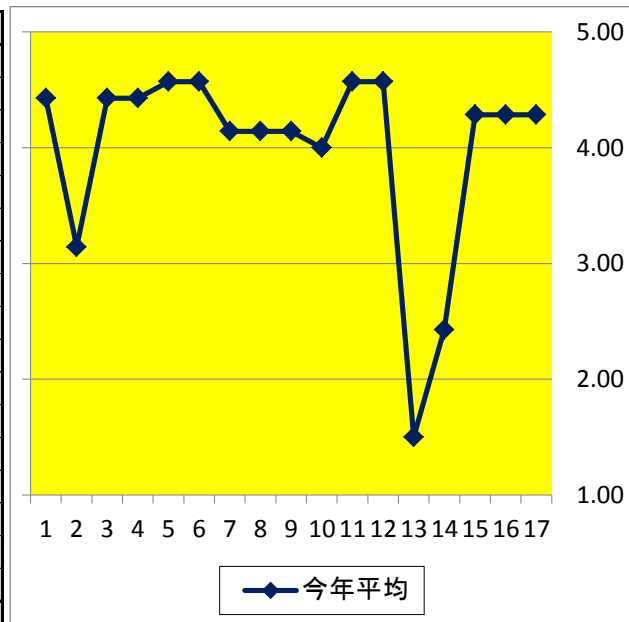
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の授業は社会人と院生の共同授業であり、やや社会人比率が高かった。このように異なる受講生の層がある中で、授業内容について実務教育と理論教育をどのようにバランスをとっていくか、ということに配慮して授業を行うようにしたい。

科 目	特殊講義(日本内部監査協会寄付講座 実践内部統制)		
配当年次	2	開講時限	秋後月67
受講者数	12	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.43	4	5	4
2	—	3.14	3	4	3
3	—	4.43	4	5	4
4	—	4.43	4	5	4
5	—	4.57	5	5	4
6	—	4.57	5	5	4
7	—	4.14	5	5	3
8	—	4.14	4	5	3
9	—	4.14	4	5	3
10	—	4.00	4	5	3
11	—	4.57	5	5	4
12	—	4.57	5	5	3
13	—	1.50	1	3	1
14	—	2.43	2	3	2
15	—	4.29	4・5	5	3
16	—	4.29	4・5	5	3
17	—	4.29	4・5	5	3
回答者数	—	7			



受講生の傾向

この授業は、本研究院院生と社会人との共同授業であるが、院生5名社会人7名の計12名による授業であった。それぞれにおいて本授業の趣旨を理解し、目的意識をもって受講しており、授業にもまじめにかつ熱心に取り組んでいた。あまり遅刻は見られなかったが、仕事の都合で遅刻する社会人受講生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業は本研究院院生と社会人の共同授業というこれまでで初めての試みであり、この授業の趣旨からなるべく実践的な観点から授業を行った。授業はクォーター制で1日に2コマ3時間という授業スタイルということもあり、極力一方的なレクチャーとならないよう、グループワーキングやディスカッションをバランスよく配置して、アクティブラーニングとなるよう心掛けた。グループワーキングなどは、研究院院生と社会人とが一緒にグループに入るようにして、それぞれの交流に配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

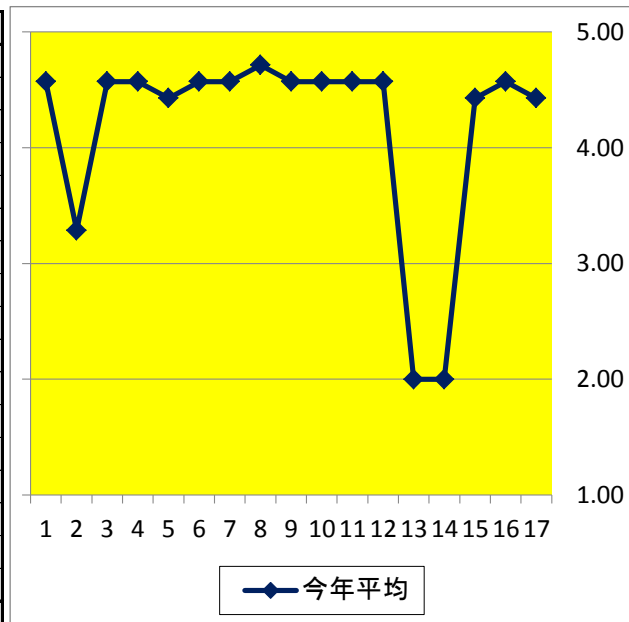
該当なし(今年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この授業は、本研究院院生と社会人の共同授業ということが大きな特徴であるので、教員から学ぶということのみならず、受講生同士の学び、すなわち院生が社会人の実務経験に触れ、社会人が院生から会計に関するアカデミックな考え方に触れることで、効果的に影響を受けあえるように配慮したい。

科 目	特殊講義(実践経営戦略)		
配当年次	2	開講時限	秋後金67
受講者数	9	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.57	5	5	3
2	—	3.29	3	5	3
3	—	4.57	5	5	3
4	—	4.57	5	5	3
5	—	4.43	5	5	3
6	—	4.57	5	5	4
7	—	4.57	5	5	4
8	—	4.71	5	5	4
9	—	4.57	5	5	4
10	—	4.57	5	5	4
11	—	4.57	5	5	3
12	—	4.57	5	5	4
13	—	2.00	2	3	1
14	—	2.00	2	3	1
15	—	4.43	4	5	4
16	—	4.57	5	5	4
17	—	4.43	4	5	4
回答者数	—	7			



受講生の傾向

この授業は、本研究科院生と社会人との共同授業ではあるが、院生9名社会人1名の計10名による授業で、院生比率が非常に高かった。しかし、本授業は社会人学び直しプログラムと共同運営されているもので、ほかに16名の社会人が一緒に授業に参加していたので、トータルで見ると社会人比率のほうが高くなる。多くの社会人が非常に積極的に授業に取り組んでいるのに対して、院生ははじめのうちは遠慮がちであったが、徐々に積極的に授業に参加するようになっていった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本授業は講義科目名にあるように、実践的な内容を扱うものであるから、理論をレクチャーすることよりも、実践的な問題についてケーススタディを用いて、アクティブラーニングとなるよう授業を行った。また、社会人と院生との共同授業であるので、グループワーキングにおいては、社会人と院生が積極的に交流し、それぞれが意見を交換し合い、お互いがいい刺激を受けるよう心掛けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(今年度新設科目)

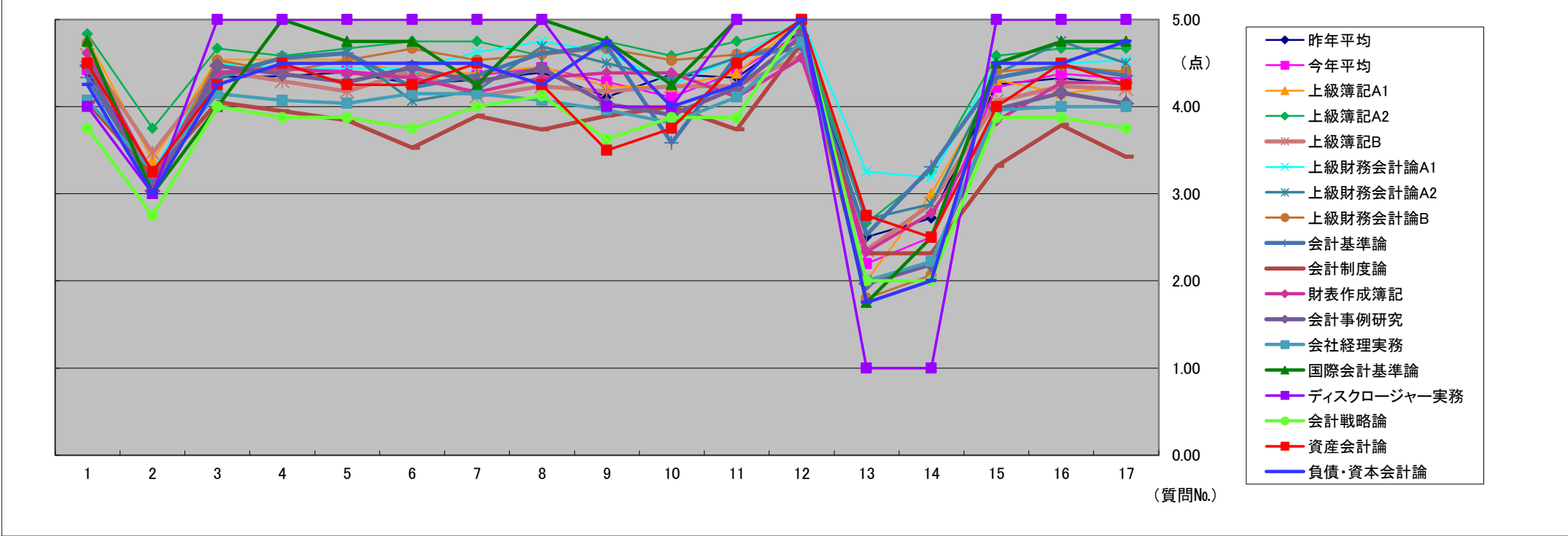
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本講義は社会人学び直しプログラムとの共同運営ということもあって、当該プログラムが持つ特性と本授業がうまくかみ合っていない部分があり、その意味で本研究科院生が少し戸惑う部分があったようである。今後はこの部分を根本的に解決していきたい。

Ⅱ－(3)．2016 年度授業評価アンケート(系平均)結果概要

系：財務会計
受講者数 306 回答者数 244

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記A1	上級簿記A2	上級簿記B	上級財務会計論A1	上級財務会計論A2	上級財務会計論B	会計基準論	会計制度論	財表作成簿記	会計事例研究	会社経理実務	国際会計基準論	ディスクロージャー実務	会計戦略論	資産会計論	負債・資本会計論
1	4.40	4.43	4.77	4.83	4.59	4.56	4.56	4.73	4.33	4.05	4.61	4.47	4.07	4.75	4.00	3.75	4.50	4.25
2	3.26	3.19	3.38	3.75	3.47	3.25	3.24	3.13	3.14	3.21	3.22	3.03	3.26	3.00	3.00	2.75	3.25	3.00
3	4.34	4.37	4.54	4.67	4.41	4.50	4.31	4.53	4.36	4.05	4.39	4.47	4.15	4.00	5.00	4.00	4.25	4.25
4	4.35	4.44	4.54	4.58	4.29	4.44	4.56	4.40	4.56	3.95	4.44	4.38	4.07	5.00	5.00	3.88	4.50	4.50
5	4.39	4.41	4.54	4.67	4.18	4.44	4.63	4.53	4.61	3.84	4.39	4.28	4.04	4.75	5.00	3.88	4.25	4.50
6	4.26	4.35	4.38	4.75	4.41	4.44	4.06	4.67	4.22	3.53	4.33	4.45	4.15	4.75	5.00	3.75	4.25	4.50
7	4.30	4.36	4.38	4.75	4.12	4.63	4.19	4.53	4.36	3.89	4.17	4.28	4.15	4.25	5.00	4.00	4.50	4.50
8	4.39	4.45	4.46	4.58	4.24	4.75	4.69	4.60	4.61	3.74	4.33	4.44	4.07	5.00	5.00	4.13	4.25	4.25
9	4.11	4.28	4.23	4.75	4.18	4.63	4.50	4.67	4.69	3.89	4.39	4.03	3.96	4.75	4.00	3.63	3.50	4.75
10	4.37	4.11	4.23	4.58	4.24	4.25	4.31	4.53	3.58	4.00	4.39	3.91	3.81	4.25	4.00	3.88	3.75	4.00
11	4.33	4.41	4.38	4.75	4.24	4.56	4.56	4.60	4.58	3.74	4.11	4.22	4.11	5.00	5.00	3.88	4.50	4.25
12	4.87	4.84	5.00	4.92	4.59	5.00	4.75	4.73	4.67	4.74	4.56	4.81	4.74	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	2.50	2.20	2.00	2.67	2.35	3.25	2.71	1.80	2.53	2.32	2.33	1.97	2.00	1.75	1.00	2.00	2.75	1.75
14	2.72	2.50	3.00	3.25	2.88	3.19	2.88	2.07	3.31	2.32	2.78	2.19	2.22	2.50	1.00	2.00	2.50	2.00
15	4.26	4.22	4.31	4.58	4.06	4.50	4.38	4.40	4.33	3.32	3.83	3.97	3.96	4.50	5.00	3.88	4.00	4.50
16	4.33	4.38	4.15	4.67	4.24	4.50	4.75	4.47	4.47	3.79	4.28	4.16	4.00	4.75	5.00	3.88	4.50	4.50
17	4.25	4.32	4.23	4.67	4.20	4.53	4.50	4.40	4.35	3.42	4.28	4.03	4.00	4.75	5.00	3.75	4.25	4.75
回答者数	182	244	13	13	17	16	17	15	36	19	18	32	27	4	1	8	4	4



受講生の傾向

いずれも科目も出席率が高い。また、予習と複数にかける時間は30分から1時間程度である。一部科目は0時間となっているが回答が1なので評価のしようがない。また概ね講義に対しては満足度も高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度指摘した傾向は今年度も見て取れる。会計制度論、会社経理実務、会計戦略論に対する評価が低い。作年度の評価を踏まえて担当者は工夫をしているはずであるが、低評価が続く場合にはその理由を検討する必要があるだろう。なお、国際会計基準論、ディスクロージャー実務、資産会計論、負債・資本会計論は回答数が少ないことから、代位邸的に判断できない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

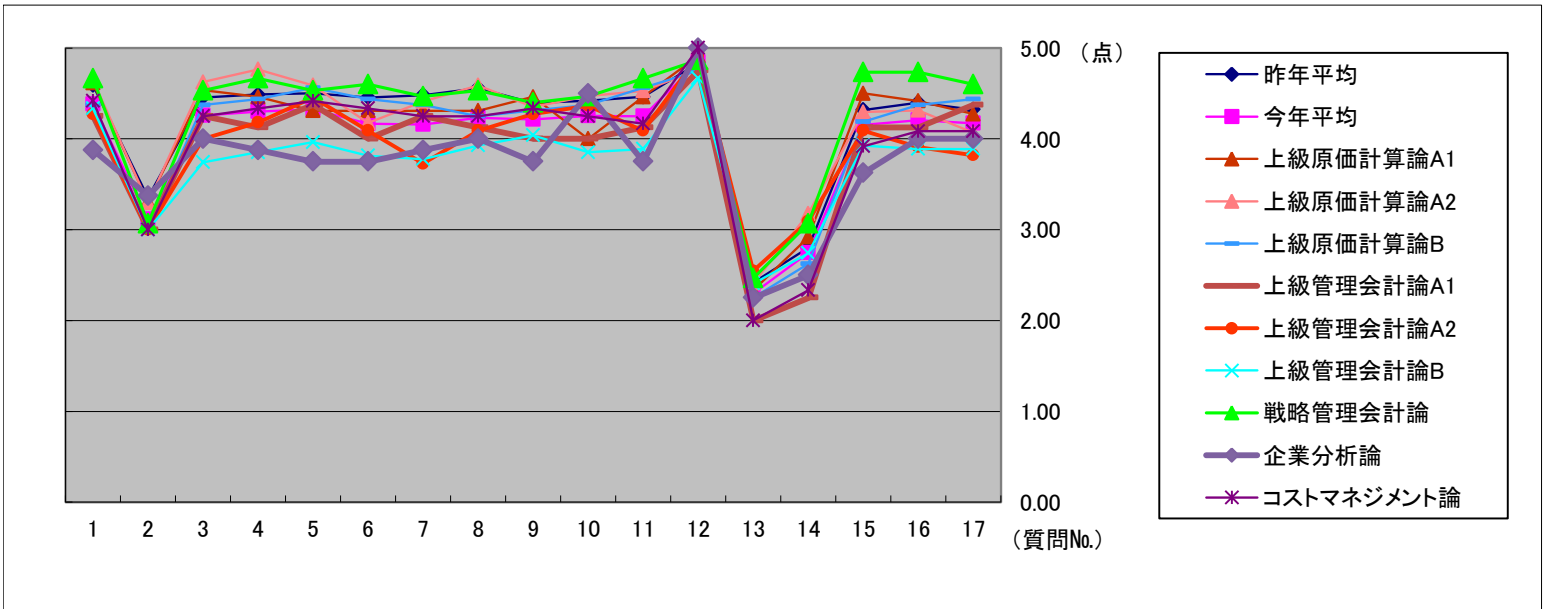
昨年度問題とされた会計事例研究に対する相対的に評価が上がっている。ただ、著しく上昇したとまでは言えない。半面、例年と比べて、会計制度論に対する評価が大きく下がっている。教員に変更はないし、講義方法に変更はないので、講義方法の適否を検討した方がよい。FD委員会でも検討の良例となろう。また、項目によっては低い評価が気になるその他の科目については、同一担当者の異なる科目で高い評価になっているので、これら科目で低評価になった理由はそれぞれの担当者が考察されれば良いと思われる。一方、国際会計基準論、会計戦略論、資産会計論、負債・資本会計論はいずれも回答数が5未満と少ないことから、受講者の人数と評価の関係を検討してみる価値がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

相対的に高い評価を得ている諸科目は現在の受講生の求めるところに合っているともいえるので、これまでの工夫を携行していくのが良い、一方、低い評価を得ている科目は現在の受講生にあわないことから工夫が求められる、現在の受講生と強調する理由は、同じ教授法であって高い評価を得ていたものが下がってきているので、教授法の不適合化が起きているかも知れない。いずれにしろ、担当者各位の工夫に期待する。

系： 管理会計
受講者数： 171 回答者数： 127

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論A1	上級原価計算論A2	上級原価計算論B	上級管理会計論A1	上級管理会計論A2	上級管理会計論B	戦略管理会計論	企業分析論	コストマネジメント論
1	4.59	4.38	4.62	4.65	4.38	4.25	4.27	4.33	4.67	3.88	4.42
2	3.36	3.12	3.31	3.29	3.00	3.00	3.00	3.00	3.07	3.38	3.00
3	4.45	4.26	4.54	4.63	4.38	4.25	4.00	3.74	4.53	4.00	4.25
4	4.49	4.30	4.46	4.76	4.44	4.13	4.18	3.85	4.67	3.88	4.33
5	4.50	4.33	4.31	4.59	4.56	4.38	4.45	3.96	4.53	3.75	4.42
6	4.46	4.17	4.31	4.18	4.44	4.00	4.09	3.81	4.60	3.75	4.33
7	4.48	4.16	4.31	4.41	4.38	4.25	3.73	3.78	4.47	3.88	4.25
8	4.56	4.23	4.31	4.59	4.25	4.13	4.09	3.93	4.53	4.00	4.25
9	4.40	4.21	4.46	4.35	4.31	4.00	4.27	4.04	4.40	3.75	4.33
10	4.42	4.25	4.00	4.47	4.38	4.00	4.36	3.85	4.47	4.50	4.25
11	4.46	4.25	4.46	4.53	4.56	4.13	4.09	3.89	4.67	3.75	4.17
12	4.83	4.85	4.92	4.76	4.75	4.75	4.91	4.67	4.87	5.00	5.00
13	2.42	2.30	2.33	2.41	2.25	2.00	2.55	2.41	2.47	2.25	2.00
14	2.80	2.74	2.92	3.18	2.63	2.25	3.09	2.74	3.07	2.50	2.33
15	4.32	4.16	4.50	4.29	4.19	4.13	4.09	3.93	4.73	3.63	3.92
16	4.40	4.20	4.42	4.31	4.38	4.13	3.91	3.89	4.73	4.00	4.08
17	4.32	4.17	4.27	4.07	4.44	4.38	3.82	3.89	4.60	4.00	4.08
回答者数	121	127	13	17	16	8	11	27	15	8	12



受講生の傾向

全体的な傾向として、出席状況は比較的良好であったと考えられる。その一方で、受講生の知識レベルは、以前にも増して多様化が進行している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生間の知識レベルの多様化の進行を受けて、基本的な内容と高度な内容を分けるなど、受講者別の理解を促進するように留意した。また、既に受講者からの評価が高い科目については、昨年度の取り組みを継続した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

科目および開講時期により、評点のばらつきが存在しているが、昨年度に引き続き本年度の評点も比較的良好であったと考えられる。そのため、今後も本年度の取り組みを継続して、適切な講義および演習の指導ができるように改善を進める予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

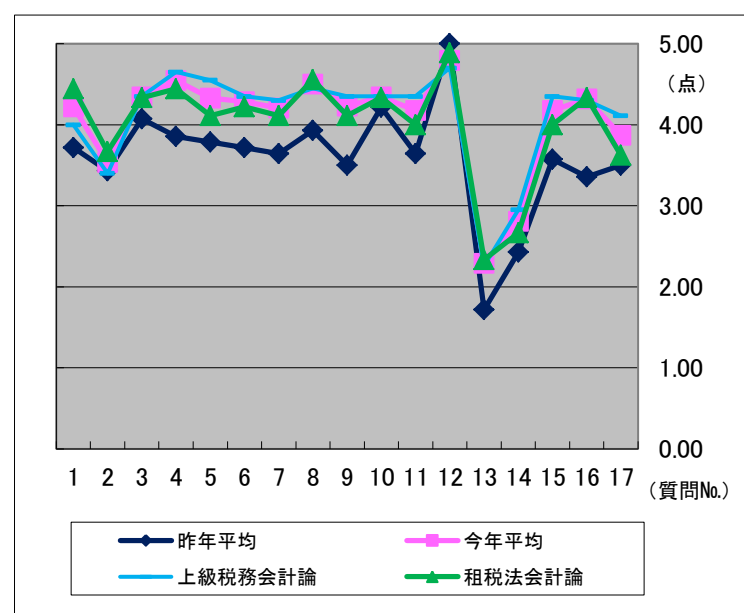
全体的な評点は、昨年度より低下したとはいえ、比較的良好であると考えられる。しかし、受講者の多様化の進行を受けて、受講者別の対応をよりいっそう進めることが必要であると考えられる。また、予習および復習の促進も必要であると考えられる。

系： 税務会計

受講者数： 32

回答者数： 29

質問No.	昨年平均	今年平均	上級税務会計論	租税法会計論
1	3.71	4.22	4.00	4.44
2	3.43	3.53	3.40	3.67
3	4.07	4.34	4.35	4.33
4	3.86	4.55	4.65	4.44
5	3.79	4.33	4.55	4.11
6	3.71	4.29	4.35	4.22
7	3.64	4.21	4.30	4.11
8	3.93	4.50	4.45	4.56
9	3.50	4.23	4.35	4.11
10	4.21	4.34	4.35	4.33
11	3.64	4.18	4.35	4.00
12	5.00	4.79	4.70	4.89
13	1.71	2.29	2.25	2.33
14	2.43	2.81	2.95	2.67
15	3.57	4.18	4.35	4.00
16	3.36	4.32	4.30	4.33
17	3.50	3.87	4.11	3.63
回答者数	14	29	20	9



受講生の傾向

今年度の受講生も昨年度と同様、税務会計の初学者が多かった。しかし、とても真面目に取り組んでいて、学習環境としては非常に良かったと思われる。今年度は昨年度に比べ、出席状況のみ若干悪かった(質問No.12)ものの、それ以外の項目はすべて良好であった。このアンケート結果は、前記の認識に合致しているといえよう。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

「上級税務会計論」と「租税法会計論」の連動をさせ、また、各科目において定期試験と中間試験を併用した。また、公認会計士試験の過去問とその解答過程をレジュメにふんだんに取り込むことで、受講生の学習効果の促進を図った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

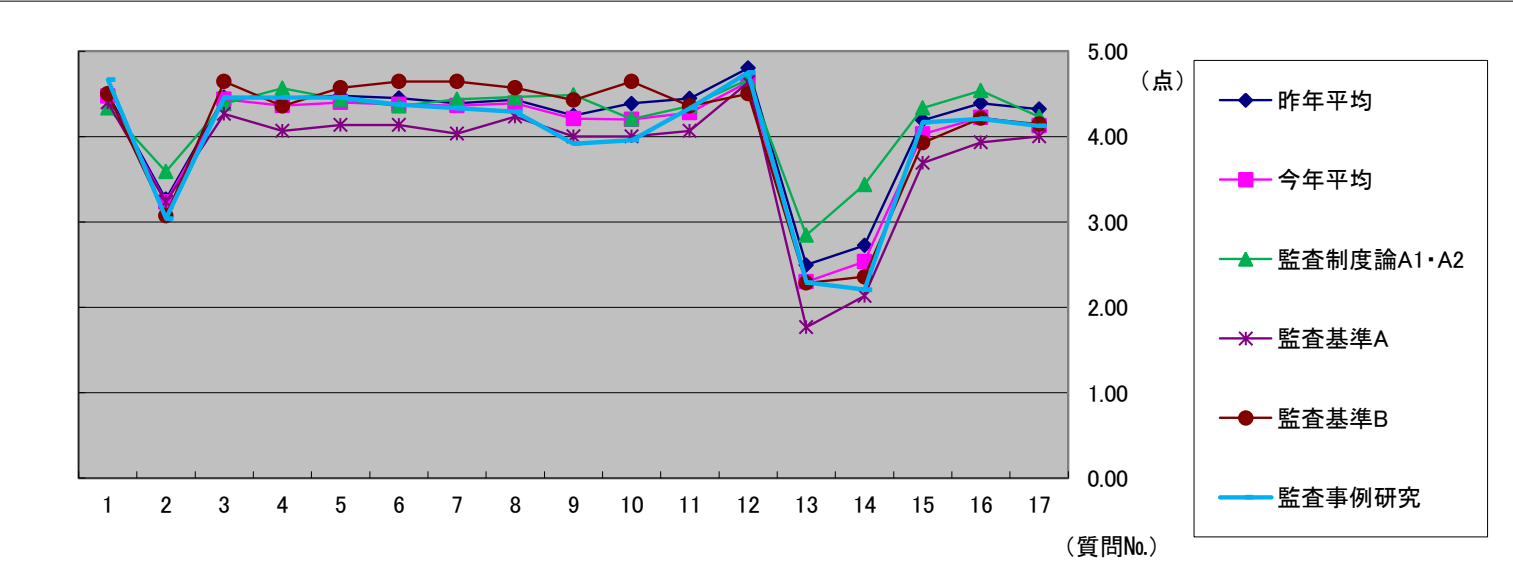
「上級税務会計論」と「租税法会計論」の連動、定期試験と中間試験の併用を継続する。また、各科目で取り扱う項目を公認会計士試験の主題頻度に応じたものに対応させる。また、受講生に税務会計の勉強時間を増やすよう誘導すべく、追加の小テストを租税法会計論においても実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「上級税務会計論」と「租税法会計論」を連動させる方法を継続する。但し、会計士試験において法人税法の対象範囲が拡大しているため、「租税法会計論」においても法人税法を一部取り込み、「上級税務会計論」における負担軽減を図る。

系： 監査
受講者数：138 回答者数： 107

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論 A1・A2	監査基準A	監査基準B	監査事例研究
1	4.50	4.48	4.33	4.40	4.50	4.67
2	3.26	3.23	3.59	3.23	3.07	3.04
3	4.46	4.44	4.38	4.27	4.64	4.46
4	4.46	4.36	4.56	4.07	4.36	4.46
5	4.48	4.40	4.44	4.13	4.57	4.46
6	4.45	4.38	4.36	4.13	4.64	4.38
7	4.39	4.36	4.44	4.03	4.64	4.33
8	4.43	4.39	4.46	4.23	4.57	4.29
9	4.24	4.21	4.49	4.00	4.43	3.92
10	4.39	4.20	4.21	4.00	4.64	3.96
11	4.45	4.28	4.36	4.07	4.36	4.33
12	4.80	4.64	4.67	4.63	4.50	4.75
13	2.50	2.30	2.85	1.77	2.29	2.29
14	2.72	2.53	3.44	2.13	2.36	2.21
15	4.19	4.03	4.33	3.69	3.93	4.17
16	4.39	4.22	4.54	3.93	4.21	4.21
17	4.32	4.12	4.23	4.00	4.14	4.13
回答者数	105	107	39	30	14	24



受講生の傾向

全ての監査系の科目において、受講生の出席状況（項目12）は、80～90%以上を確保しており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目（必修科目）以外でも、受講生の参加意欲は極めて高かったと評価できる。今学期は、発展科目である「監査報告論」が非常勤講師による開講、ならびに応用科目の「保証業務論」が不開講となったため、監査系の評価対象科目が少なくなっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義に際して必要な資料を用意・配布するとともに、学生のモラルを向上させるための措置を、全ての科目で講じており、これは2016年度版「出講の手引き」に沿った講義方式である。また監査系科目が単なる暗記で対応できないことを自覚させるため、暗記偏重とならないような思考力重視の課題による自宅学習を促している。また発展科目である「監査事例研究」ではケース・スタディ形式による学生のプレゼンテーションとディスカッションが組み込まれている。監査系全体としては、ほぼ去年並みの教育効果を達成していることが判る。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

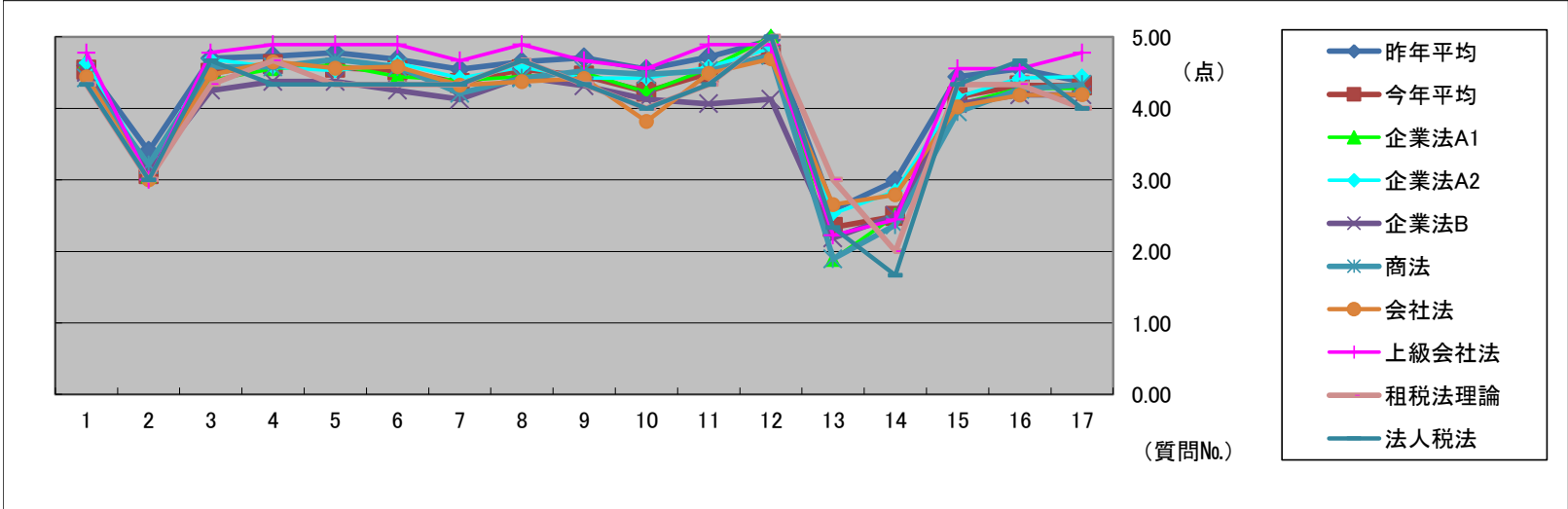
昨年度の複数開講の基本科目において、クラスごとの学生による評価の散つきが大きすぎたが、全体的にクラス間の散つきもなくなり安定した教育効果が達成できているように思われる。故に、次年度においても出席率向上の施策を維持し、小テストの実施・添削・返却に加えて、適宜質疑応答を加える形でのモラル向上策を各担当者で講じ続ける必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計大学院における教育の目標である単なる暗記教育ではなく、高度な思考力の涵養による会計専門職の育成が可能となるように、適時の課題付与による自発的学習への動機付けと、その結果の理解度に関する逐次確認を可能とする仕組みを、今学期に続き次年度も各担当者によって維持する必要がある。

系： 法律
受講者数： 152 回答者数： 130

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法A1	企業法A2	企業法B	商法	会社法	上級会社法	租税法理論	法人税法
1	4.59	4.54	4.67	4.63	4.50	4.42	4.44	4.78	4.33	4.33
2	3.40	3.08	3.06	3.16	3.13	3.21	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.70	4.50	4.39	4.68	4.25	4.58	4.47	4.78	4.33	4.67
4	4.73	4.61	4.56	4.58	4.38	4.58	4.65	4.89	4.67	4.33
5	4.78	4.57	4.61	4.53	4.38	4.68	4.56	4.89	4.33	4.33
6	4.69	4.53	4.44	4.63	4.25	4.58	4.58	4.89	4.33	4.33
7	4.54	4.35	4.39	4.42	4.13	4.21	4.33	4.67	4.33	4.33
8	4.65	4.54	4.44	4.58	4.44	4.42	4.37	4.89	4.67	4.67
9	4.71	4.45	4.50	4.42	4.31	4.53	4.42	4.67	4.33	4.33
10	4.54	4.23	4.22	4.42	4.13	4.47	3.81	4.56	4.00	4.00
11	4.72	4.49	4.56	4.58	4.06	4.53	4.49	4.89	4.33	4.33
12	4.96	4.75	5.00	4.84	4.13	4.74	4.69	4.89	5.00	5.00
13	2.58	2.34	1.89	2.53	2.19	1.89	2.65	2.22	3.00	2.33
14	2.99	2.49	2.50	2.84	2.50	2.37	2.79	2.44	2.00	1.67
15	4.44	4.16	4.06	4.16	4.06	3.95	4.02	4.56	4.33	4.33
16	4.55	4.32	4.28	4.42	4.19	4.26	4.19	4.56	4.33	4.67
17	4.37	4.32	4.28	4.44	4.19	4.33	4.19	4.78	4.00	4.00
回答者数	84	130	18	19	16	19	43	9	3	3



受講生の傾向

本年度は、入学者数も多かったということもあるが、それを配慮しても法律系科目の受講者数が大きく増加したのは望ましい。会計研究科の中にあつて、法律系科目の必要性・重要性が認識されてきたように思う。また、全体的に受講生の出席状況および受講態度もよく、授業には積極的に参加しているようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

個々の科目においてはそれぞれに授業に対する工夫・配慮があるが、法律系科目全体としては、全科目に共通する法学における考え方や文章・論文の書き方などが身につけられるよう配慮した。すなわち、企業法から税法に至るまで、法学には共通してその制度趣旨からその制度内容が成り立ち、その趣旨に応じて、適用・解釈されるという根本的な考え方があり、文章・論文を作成するうえでもこれらを踏まえる必要があるので、これを統一的に理解してもらうよう心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

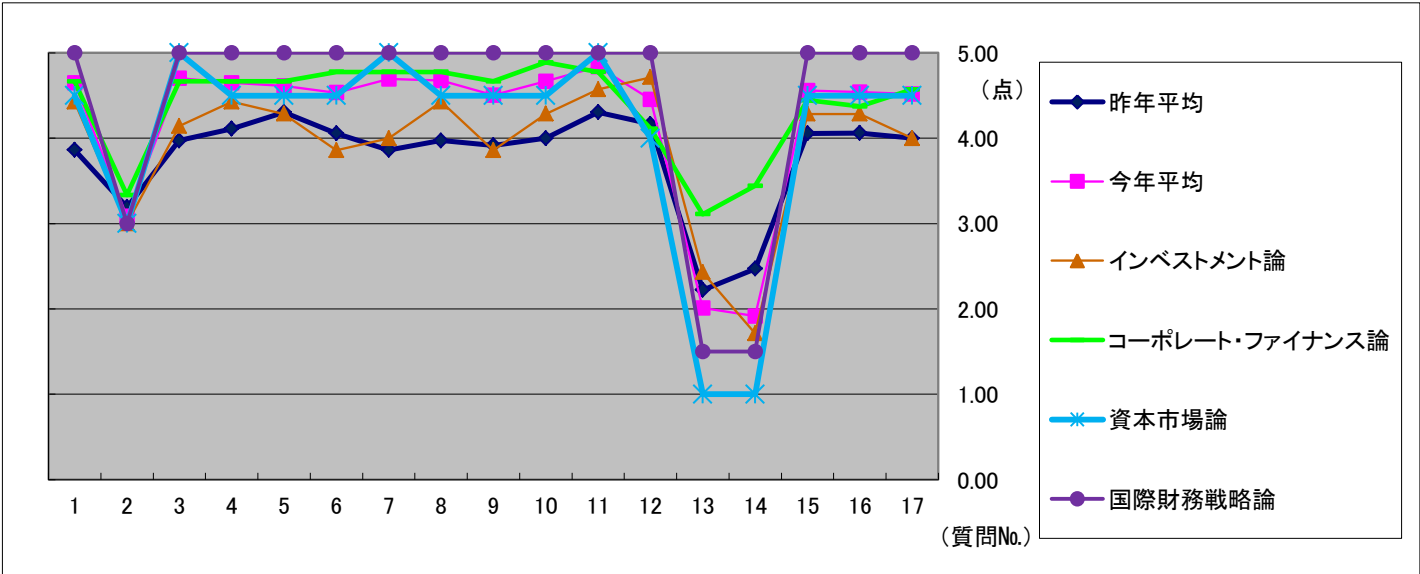
法学の論理の明確さは、理解のしやすさ、わかりやすさといった魅力につながるものであるので、またある程度まで学習を進めていくと、自らの論理的思考で法学学習を進めていくことができるようになるので、もっと法学学習の面白さを伝えていきたいと思う。さらに、個々の法律系科目は独立して存在するのではなく、それぞれがつながりの中で存在している（例えば、企業法と会社法）。その各科目のつながりの中でお互いの理解ができるようにし、そうすることによって、それぞれの科目の理解が深まっていくと思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計研究科の学生（特に1年生の春学期）には、法学に対してなじみがない、もしくは難しいといったイメージがあり、これを克服するよう心がけたい。特に学生には最初の段階で苦手意識をもたせないようにして、例えば、法全体の趣旨がわかれば法制度の内容はおのずとわかるなど、法学は理解するコツをおさえると難しくないということを早いうちに伝えるような授業にしたい。

系： ファイナンス
受講者数：24 回答者数： 20

質問No.	昨年平均	今年平均	インベストメント論	コーポレート・ファイナンス論	資本市場論	国際財務戦略論
1	3.86	4.65	4.43	4.67	4.50	5.00
2	3.19	3.08	3.00	3.33	3.00	3.00
3	3.97	4.70	4.14	4.67	5.00	5.00
4	4.11	4.65	4.43	4.67	4.50	5.00
5	4.31	4.61	4.29	4.67	4.50	5.00
6	4.06	4.53	3.86	4.78	4.50	5.00
7	3.86	4.69	4.00	4.78	5.00	5.00
8	3.97	4.68	4.43	4.78	4.50	5.00
9	3.92	4.51	3.86	4.67	4.50	5.00
10	4.00	4.67	4.29	4.89	4.50	5.00
11	4.31	4.84	4.57	4.78	5.00	5.00
12	4.17	4.46	4.71	4.11	4.00	5.00
13	2.22	2.01	2.43	3.11	1.00	1.50
14	2.47	1.91	1.71	3.44	1.00	1.50
15	4.06	4.56	4.29	4.44	4.50	5.00
16	4.06	4.54	4.29	4.38	4.50	5.00
17	4.00	4.52	4.00	4.57	4.50	5.00
回答者数	18	20	7	9	2	2



受講生の傾向

非常に熱心な学生と、そうでない学生との差が目立った。ファイナンスやCFO等を将来の目標としてとらえている学生は非常に熱心だったが、公認会計士、税理士、企業就職等の目標があり、それに少しでも役立てばと考える程度の学生もあり、関係がない分野で欠席したり、他の科目等の試験のために欠席する等、単位を取りに来ているだけと思われる学生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目の特徴を明確にするように授業を行った。さらに、会計専門職の新たな職業分野として「CFO」やその関連業務について言及するようにした。また、証券アナリスト協会のプライマリー・プライベートバンカー試験における単位免除を意識した内容とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

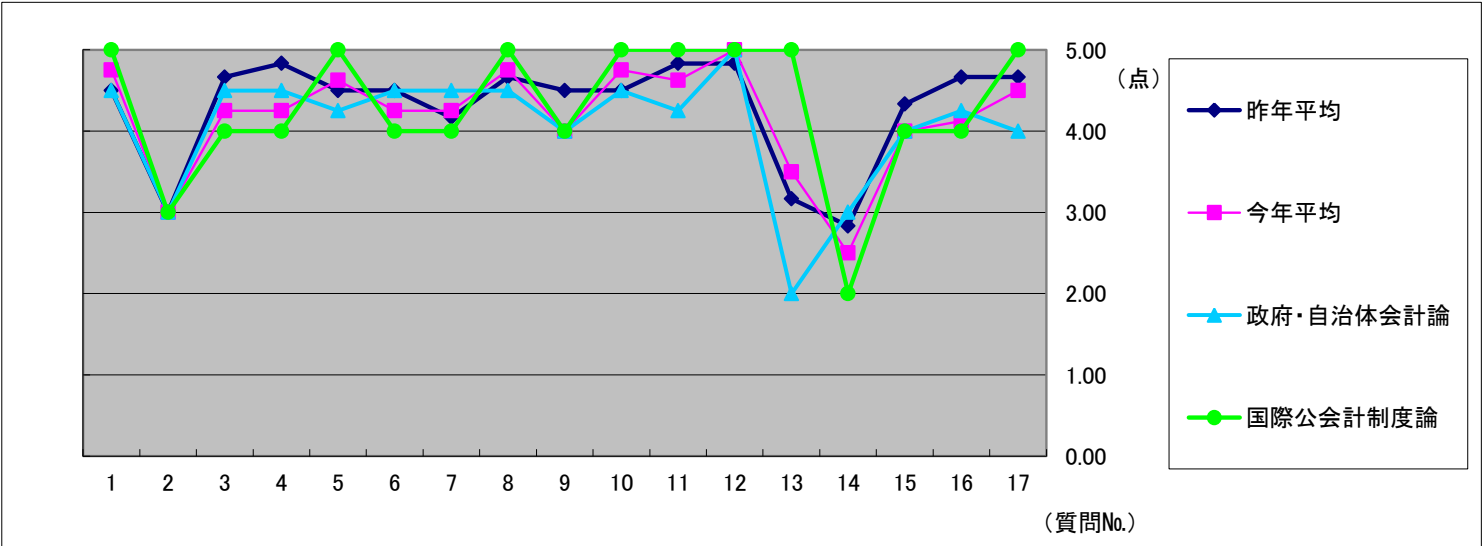
昨年度と同様、抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行うとともに、ファイナンス自体への高い興味やプライマリー・プライベートバンカー単位免除に向けて、将来のCFO養成のための授業を行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度と同様、抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行うとともに、ファイナンス自体への高い興味やプライマリー・プライベートバンカー単位免除に向けて、将来のCFO養成のための授業を行う。ただし、興味のない学生については、熱心な学生の足を引っ張ってしまう面もあり、その格差の克服が課題である。不熱心な学生は受講をやめてもらうようにするか、会計から見たときの周辺分野を気軽に受講できるようなプログラムも必要ではないかと考えた。

系：行政
受講者数：5 回答者数：5

質問No.	昨年平均	今年平均	政府・自治体会計論	国際公会計制度論
1	4.50	4.75	4.50	5.00
2	3.00	3.00	3.00	3.00
3	4.67	4.25	4.50	4.00
4	4.83	4.25	4.50	4.00
5	4.50	4.63	4.25	5.00
6	4.50	4.25	4.50	4.00
7	4.17	4.25	4.50	4.00
8	4.67	4.75	4.50	5.00
9	4.50	4.00	4.00	4.00
10	4.50	4.75	4.50	5.00
11	4.83	4.63	4.25	5.00
12	4.83	5.00	5.00	5.00
13	3.17	3.50	2.00	5.00
14	2.83	2.50	3.00	2.00
15	4.33	4.00	4.00	4.00
16	4.67	4.13	4.25	4.00
17	4.67	4.50	4.00	5.00
回答者数	5	5	4	1



受講生の傾向

回答者がいずれの科目も少数なので科目の傾向を記述するのは危険です。ただ、少数者に限定してみると、予習・復習の時間数は1時間から2時間程度、満足度は高い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

回答者がいずれの科目も少数なので科目の傾向を記述するのは危険です。ただ、少数者に限定してみると、講義に対する評価は高い。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

引き続き行政系に関心のある受講生（公務員志望等）や、公会計に関心のある受講生等、各人の関心に応じて、タイムリーな話題を提供し、考えさせ、発表する機会をより充実させる方針である。また1回で理解できないような複雑な内容については、予習・復習の指導を丁寧に行う予定である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

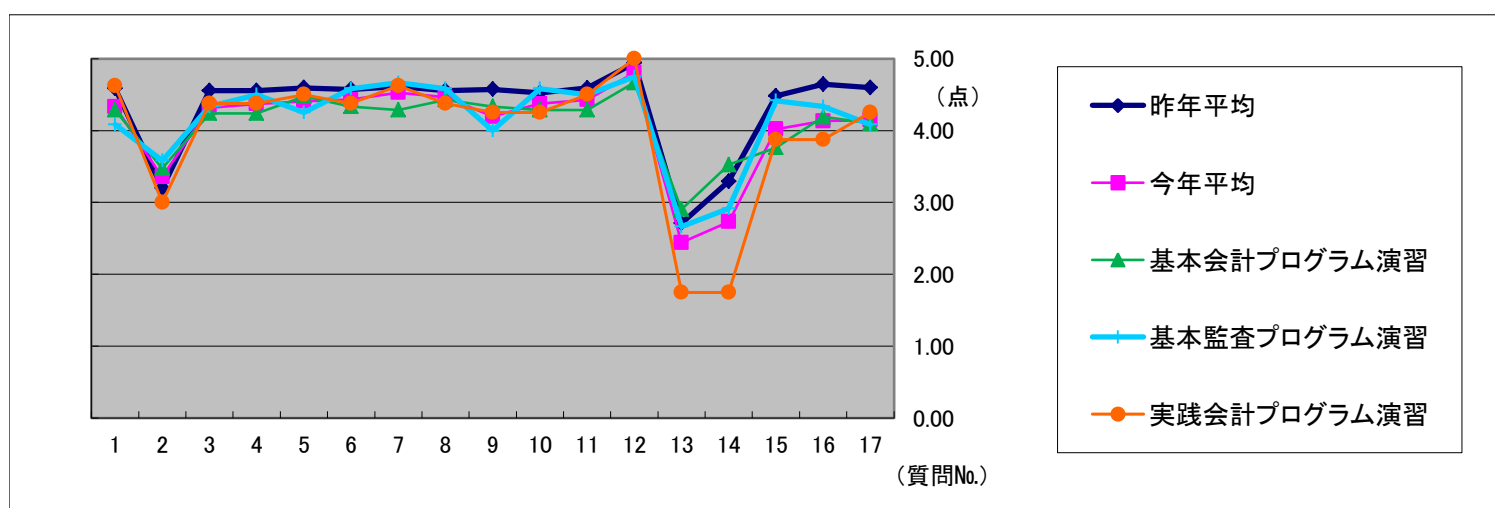
昨年度に示された対応を継続されるのが良いかも知れない。

系： 経済・IT

受講者数： 43

回答者数： 41

質問No.	昨年平均	今年平均	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習	実践会計プログラム演習
1	4.58	4.33	4.29	4.08	4.63
2	3.20	3.35	3.48	3.58	3.00
3	4.55	4.32	4.24	4.33	4.38
4	4.55	4.37	4.24	4.50	4.38
5	4.59	4.41	4.48	4.25	4.50
6	4.57	4.43	4.33	4.58	4.38
7	4.62	4.53	4.29	4.67	4.63
8	4.55	4.46	4.43	4.58	4.38
9	4.57	4.19	4.33	4.00	4.25
10	4.52	4.37	4.29	4.58	4.25
11	4.59	4.43	4.29	4.50	4.50
12	4.94	4.81	4.67	4.75	5.00
13	2.71	2.44	2.90	2.67	1.75
14	3.29	2.73	3.52	2.92	1.75
15	4.48	4.02	3.76	4.42	3.88
16	4.65	4.13	4.19	4.33	3.88
17	4.60	4.14	4.10	4.08	4.25
回答者数	35	41	21	12	8



受講生の傾向

概ね、すべての科目で受講生が欠席も少なく、真摯に受講していると思われる。アンケート結果からは、科目（配当年次・開講学期）によって、受講生の傾向が異なるように感じる。学習の進捗が影響しているのか、留学生の受講比率が影響しているかは、現在のところ不明である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各科目の講義内容や到達目標に合わせ、講義担当者が、講義の実施方法や講義内容の展開順序など調整している。また、講義（講義中の演習）に受講生が積極的に参加できるように、それぞれの科目で工夫して、参加を促した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受動的な受講姿勢の学生に、より積極的に受講できるような工夫を講じていくとともに、演習中の受講生の相互補助関係を重視し、共育的な環境を醸成し、活発な受講を促していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

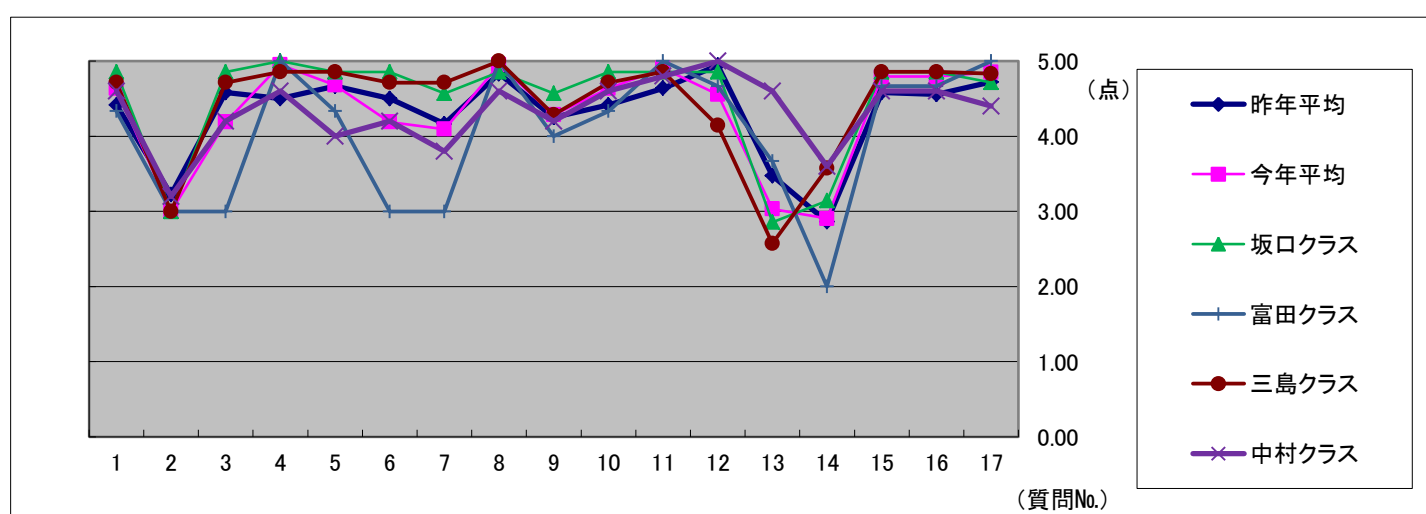
実践系の科目であることから、受講生が内容を理解するだけでなく、実務を意識して、講義に積極的に参加できるよう、講義資料や演習課題に工夫を講じるつもりである。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・アカデミック)

受講者数: 18

回答者数: 22

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	富田クラス	三島クラス	中村クラス
1	4.42	4.63	4.86	4.33	4.71	4.60
2	3.22	3.00	3.00	3.00	3.00	3.20
3	4.58	4.19	4.86	3.00	4.71	4.20
4	4.50	4.95	5.00	5.00	4.86	4.60
5	4.67	4.68	4.86	4.33	4.86	4.00
6	4.50	4.19	4.86	3.00	4.71	4.20
7	4.17	4.10	4.57	3.00	4.71	3.80
8	4.83	4.95	4.86	5.00	5.00	4.60
9	4.25	4.29	4.57	4.00	4.29	4.20
10	4.42	4.63	4.86	4.33	4.71	4.60
11	4.64	4.90	4.86	5.00	4.86	4.80
12	4.94	4.56	4.86	4.67	4.14	5.00
13	3.47	3.03	2.86	3.67	2.57	4.60
14	2.86	2.90	3.14	2.00	3.57	3.60
15	4.58	4.79	4.86	4.67	4.86	4.60
16	4.56	4.79	4.86	4.67	4.86	4.60
17	4.72	4.85	4.71	5.00	4.83	4.40
回答者数	19	22	7	3	7	5



受講生の傾向

平均値でみると、全体的に昨年よりもポイントが高い項目が多い。とくに、教員の熱意・努力(質問4)のポイントが大きく改善されており、それに伴うように、講義に対する満足度(質問11)、学習意欲の向上(質問15)、専門的知識の深まり(質問16)などのポイントも改善されている。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

特定のクラス(富田クラス)でポイントの低い項目が多く見受けられるが、指導方法や講義の進め方にもよるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学力に差のある受講生が複数入ってくることを前提に、演習の内容を工夫していく必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

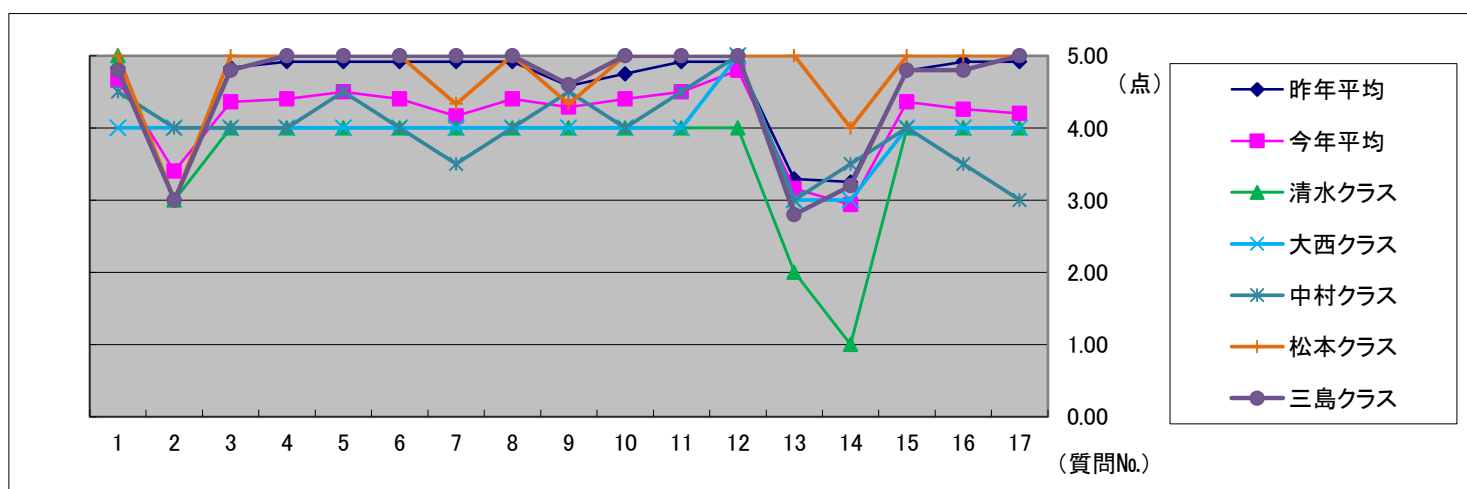
個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・プロフェッショナル)

受講者数: 12

回答者数: 12

質問No.	昨年平均	今年平均	清水クラス	大西クラス	中村クラス	松本クラス	三島クラス
1	4.83	4.66	5.00	4.00	4.50	5.00	4.80
2	3.00	3.40	3.00	4.00	4.00	3.00	3.00
3	4.83	4.36	4.00	4.00	4.00	5.00	4.80
4	4.92	4.40	4.00	4.00	4.00	5.00	5.00
5	4.92	4.50	4.00	4.00	4.50	5.00	5.00
6	4.92	4.40	4.00	4.00	4.00	5.00	5.00
7	4.92	4.17	4.00	4.00	3.50	4.33	5.00
8	4.92	4.40	4.00	4.00	4.00	5.00	5.00
9	4.58	4.29	4.00	4.00	4.50	4.33	4.60
10	4.75	4.40	4.00	4.00	4.00	5.00	5.00
11	4.92	4.50	4.00	4.00	4.50	5.00	5.00
12	4.92	4.80	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	3.29	3.16	2.00	3.00	3.00	5.00	2.80
14	3.25	2.94	1.00	3.00	3.50	4.00	3.20
15	4.79	4.36	4.00	4.00	4.00	5.00	4.80
16	4.92	4.26	4.00	4.00	3.50	5.00	4.80
17	4.92	4.20	4.00	4.00	3.00	5.00	5.00
回答者数	8	12	1	1	2	3	5



受講生の傾向

平均値でみると、全体的に昨年よりもポイントが低い項目が多い。しかしながら、昨年のポイントの多くがほぼ「5」であり、そのような状態は常にあることではない。平均値としていえば、今年のポイントの多くが「4」を超えており、教員ごとに専門分野や教育方針は異なるが、全体的に概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

特定のクラス(清水クラス)で予習復習の時間(質問13、14)がかなり低いポイントになっているが、指導方法や講義の進め方にもよるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。また、同クラスのサンプル数は1であり、その受講生個人の資質や学習意欲、勉強スタイルによるところが大きいことにも留意する必要がある。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

引き続き個別演習科目を多く設置し、受講生数を増やす努力を行う。それとともに、受講生のニーズに応じたきめ細かな指導を行いモチベーションを高める演習内容としていく必要がある。

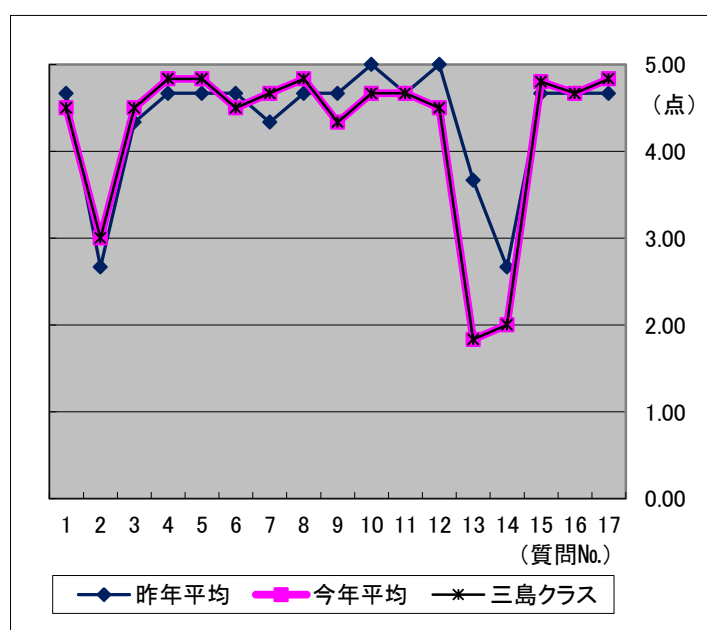
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

系:個別演習科目(ソリューション・イン・エキスパートイズ)
 受講者数: 7 回答者数: 6

質問No.	昨年平均	今年平均	宗岡 クラス	三島クラス
1	4.67	4.50	—	4.50
2	2.67	3.00	—	3.00
3	4.33	4.50	—	4.50
4	4.67	4.83	—	4.83
5	4.67	4.83	—	4.83
6	4.67	4.50	—	4.50
7	4.33	4.67	—	4.67
8	4.67	4.83	—	4.83
9	4.67	4.33	—	4.33
10	5.00	4.67	—	4.67
11	4.67	4.67	—	4.67
12	5.00	4.50	—	4.50
13	3.67	1.83	—	1.83
14	2.67	2.00	—	2.00
15	4.67	4.80	—	4.80
16	4.67	4.67	—	4.67
17	4.67	4.83	—	4.83
回答者数	12	6	—	6

※宗岡クラスは、諸事情により未実施



受講生の傾向

昨年のデータは7つのクラス(三島クラスを含む)の平均値であったが、今年は三島クラスのためのデータである。サンプル数が大きく異なる上に、平均値と絶対値(サンプル数1)を比較することは適当ではないが、全体的にみれば昨年と同様の傾向にあり、概ね受講生のニーズと合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年平均と比べると、今年の三島クラスでは予習復習の時間(質問13、14)が低いポイントになっており、とくに予習時間(質問13)のポイントの低下が著しいが、指導方法や講義の進め方にもよるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。詳細は担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生のニーズに応じた、またモチベーションを高めるような演習内容となるよう引き続き注力していく必要がある。またもう少し各クラスの参加者を増やしていく努力も必要。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

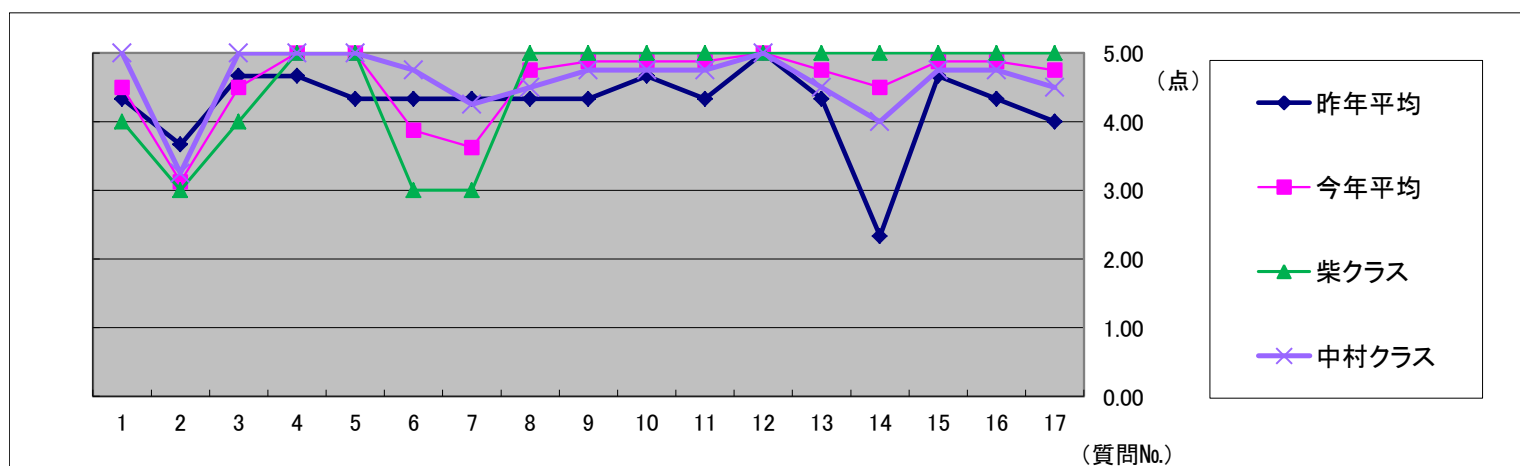
個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

系:個別演習科目(論文指導・修士論文(基礎))

受講者数: 5

回答者数: 5

質問No.	昨年平均	今年平均	柴クラス	中村クラス
1	4.33	4.50	4.00	5.00
2	3.67	3.13	3.00	3.25
3	4.67	4.50	4.00	5.00
4	4.67	5.00	5.00	5.00
5	4.33	5.00	5.00	5.00
6	4.33	3.88	3.00	4.75
7	4.33	3.63	3.00	4.25
8	4.33	4.75	5.00	4.50
9	4.33	4.88	5.00	4.75
10	4.67	4.88	5.00	4.75
11	4.33	4.88	5.00	4.75
12	5.00	5.00	5.00	5.00
13	4.33	4.75	5.00	4.50
14	2.33	4.50	5.00	4.00
15	4.67	4.88	5.00	4.75
16	4.33	4.88	5.00	4.75
17	4.00	4.75	5.00	4.50
回答者数	3	5	1	4



受講生の傾向

昨年のデータは中村クラスのみであったが、今年は柴クラスと中村クラスのデータである。絶対値(サンプル数1)と平均値を比較することは適当ではないが、全体的にみれば昨年よりもポイントが高い項目が多い。とくに、復習時間(質問14)のポイントが大きく改善されている。この科目の内容からして、復習は受講生自らが積極的に行うべきものであり、その意味では、質問14は受講生の修論執筆への意欲を伺わせるものであるといえる。今年は、受講生と教員の熱意・努力がうまく合致していたと考えてよい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2つのクラス(柴クラス、中村クラス)に共通して、教科書・配布資料の利用(質問6)とパソコン等機材の使用(質問7)のポイントが低くなっているが、指導方法や講義の進め方にもよるので、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。また、この科目は個別指導になることが多く、通常の一般的な講義とは異なることにも留意する必要がある。教員ごとに専門分野や教育方針は異なるので、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生に対して課題を与え、発表レジュメを作成すること、その中で出典等について明確にすること、それらを明瞭に発表すること等、指導を強化していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

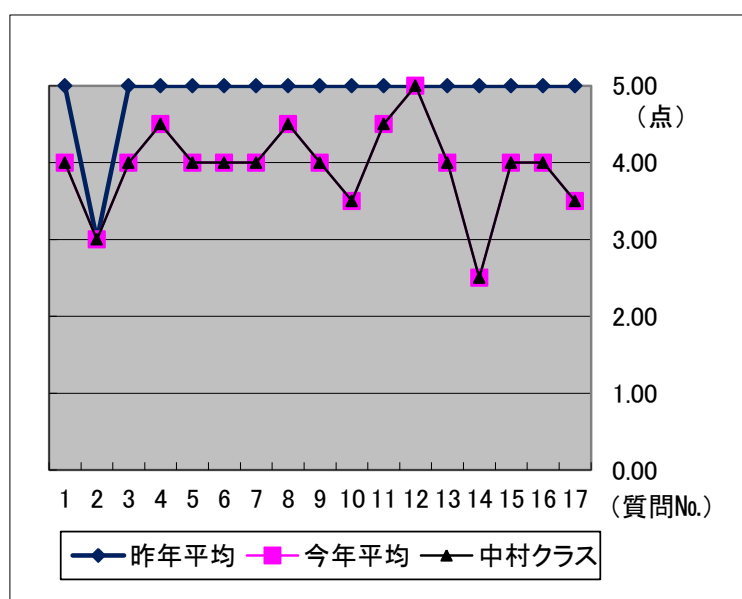
個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。なお、修士論文を執筆する上で、とくに出典の明示は極めて重要であり、各担当教員には厳格に指導していただきたい。

系:個別演習科目(論文指導・修士論文(実践))

受講者数: 2

回答者数: 2

質問No.	昨年平均	今年平均	中村クラス
1	5.00	4.00	4.00
2	3.00	3.00	3.00
3	5.00	4.00	4.00
4	5.00	4.50	4.50
5	5.00	4.00	4.00
6	5.00	4.00	4.00
7	5.00	4.00	4.00
8	5.00	4.50	4.50
9	5.00	4.00	4.00
10	5.00	3.50	3.50
11	5.00	4.50	4.50
12	5.00	5.00	5.00
13	5.00	4.00	4.00
14	5.00	2.50	2.50
15	5.00	4.00	4.00
16	5.00	4.00	4.00
17	5.00	3.50	3.50
回答者数	2	2	2



受講生の傾向

昨年のデータは2クラス(中村クラスを含む)であったが、今年は中村クラスのみデータである。平均値と絶対値(サンプル数1)を比較することは適当ではないが、全体的にみれば昨年よりもポイントが低い項目が多い。しかし、受講生の傾向としていえば、とくに注目すべきは、復習時間(質問14)のポイントが低いことである。そもそも、修士論文を執筆するのは受講生自身であり、復習は受講生自らが積極的に行うべきものである。その意味では、質問14は受講生の修論執筆への意欲を伺わせるものであるといえる。そのポイントが低いことから、全体的に受講生の積極性の低さが目立つ結果となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この科目は完全な個別指導であり、通常の一般的な講義とは異なる。昨年と比べてポイントが低いからといって、直ちに改善を要するか否かは慎重に判断する必要がある。また、受講生個人の資質や学習意欲、勉強スタイルによるところが大きいことにも留意する必要がある。詳細は担当教員の記述を参照されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

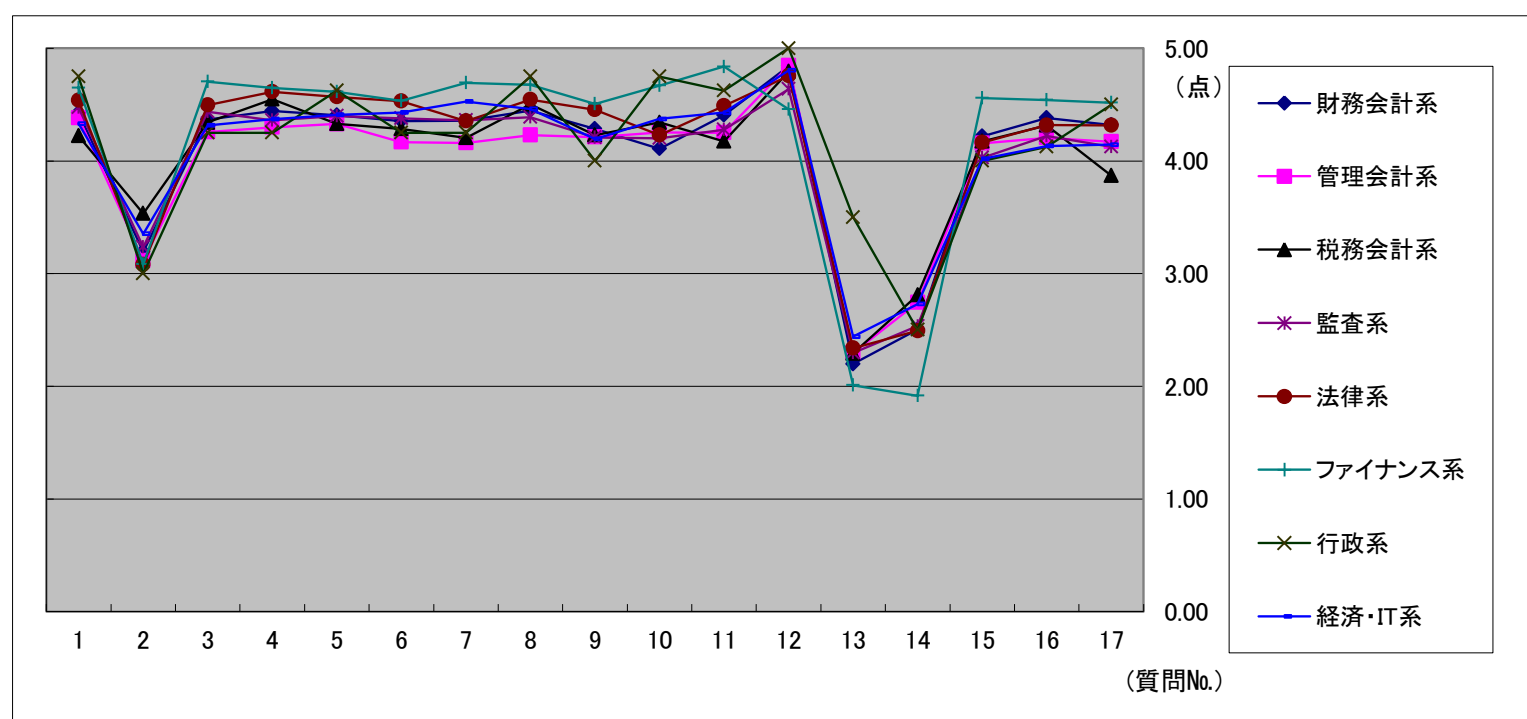
個人の関心に応じた指導を行い優れた資質を引き出すこと、および修士論文の完成に資するため、中間報告、最終報告を行わせ、他者のアドバイスを受ける機会を設ける等に配慮する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個別演習の到達目標はどのクラスでも同じであるが、教員ごとに専門分野や教育方針は異なる。また、受講生の学力やニーズも毎年同じではなく、個々人でも当然に異なりうる。その点に留意しながら、演習の内容や講義の進め方を工夫し、対応していただきたい。各クラスでなされた工夫と今後の対応について、詳細は各担当教員の記述を参照されたい。なお、修士論文を執筆する上で、とくに出典の明示は極めて重要であり、各担当教員には厳格に指導していただきたい。

系別平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	行政系	経済・IT系
1	4.43	4.38	4.22	4.48	4.54	—	4.65	4.75	4.33
2	3.19	3.12	3.53	3.23	3.08	—	3.08	3.00	3.35
3	4.37	4.26	4.34	4.44	4.50	—	4.70	4.25	4.32
4	4.44	4.30	4.55	4.36	4.61	—	4.65	4.25	4.37
5	4.41	4.33	4.33	4.40	4.57	—	4.61	4.63	4.41
6	4.35	4.17	4.29	4.38	4.53	—	4.53	4.25	4.43
7	4.36	4.16	4.21	4.36	4.35	—	4.69	4.25	4.53
8	4.45	4.23	4.50	4.39	4.54	—	4.68	4.75	4.46
9	4.28	4.21	4.23	4.21	4.45	—	4.51	4.00	4.19
10	4.11	4.25	4.34	4.20	4.23	—	4.67	4.75	4.37
11	4.41	4.25	4.18	4.28	4.49	—	4.84	4.63	4.43
12	4.84	4.85	4.79	4.64	4.75	—	4.46	5.00	4.81
13	2.20	2.30	2.29	2.30	2.34	—	2.01	3.50	2.44
14	2.50	2.74	2.81	2.53	2.49	—	1.91	2.50	2.73
15	4.22	4.16	4.18	4.03	4.16	—	4.56	4.00	4.02
16	4.38	4.20	4.32	4.22	4.32	—	4.54	4.13	4.13
17	4.32	4.17	3.87	4.12	4.32	—	4.52	4.50	4.14
回答者数	244	127	29	107	130	—	20	5	41



受講生の傾向

全体の系列の傾向として、受講生の出席状況は良く、また授業への参加意欲も高く、まじめに取り組んでいるようである。ただし、授業の予習・復習はあまり実施されていないようで、もっと取り組んでほしい。その他、授業の進め方や教員の授業の準備・学生対応などは、おおよそ高い評価を得ている。学生の授業に対する満足度は総じて高いといえる。

今後の対応

全体的に見て、学生の状況を把握し、理解度を深めるためには、学生の積極的な授業参加が必要であると認識されている。各系列によって、それぞれ授業や科目の特性に応じた工夫や対策が考えられており、これを実行することが重要となる。特に、同系列の科目間の評価の違いに着目した対策を検討したり、資格試験との関連する科目については、受講生のニーズに沿った内容や進行とすることなどが心がけられている。また、これは近年において見られることであるが、学生の能力が2極化しているという点は授業において注意しなければならず、高い能力を持った学生を満足させるとともに、能力の低い学生の理解をも図るという難しい工夫が必要となる。

Ⅲ. 2016 年度授業評価アンケートフォーム

2016 年度 関西大学「会計専門職大学院学生による授業評価」アンケート

会計専門職大学院 FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。

- ・アンケートの回答は、マークシートに記入してください。
- ・授業科目、クラス及び担任者を記入してください。
- ・このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

I. 授業の評価

II. 授業への取組み

I. 授業の評価

1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
2	この授業の進捗はどうでしたか。
5. かなり早い 4. 早い 3. ちょうどよい 2. 遅い 1. かなり遅い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
7	ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	

裏面につづく

Ⅱ. 授業への取組み

12	この授業への出席状況はどうでしたか。
----	--------------------

5. 90%以上 4. 70%以上 3. 50%以上 2. 30%以上 1. 30%未満

13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。
----	----------------------------

5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間

14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。
----	----------------------------

5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間

15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。
----	------------------------------

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。
----	---

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。
----	-----------------------------

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

—以上—

ご協力ありがとうございました。

IV. 講演会

2016 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2016 年 4 月 4 日(月)開催]

◇中央大学大学院フェロー／IFRS 財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「公認会計士と税理士の道に Challenge—国際会計人を目指す！」

■客員教授講演会（梅田キャンパス開設記念）

[2016 年 9 月 29 日(木)開催]

◇パナソニック株式会社特別顧問

大坪文雄氏(客員教授)

演題「エレクトロニクス産業を中心とした産業と経営の変遷」

■客員教授講演会

[2016 年 10 月 5 日(水)開催]

◇明治学院大学名誉教授、金融庁/企業会計審議会委員・監査部会長

脇田良一氏(客員教授)

演題「公認会計士監査の『品質』とは何か？」

■客員教授講演会

[2016 年 11 月 30 日(水)開催]

◇東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「第四次産業革命と日本経済」

■客員教授講演会

[2016 年 12 月 21 日(水)開催]

◇IFRS 財団アジアオセアニアオフィスアドバイザー、日本公認会計士協会顧問

島崎憲明氏(客員教授)

演題「企業の持続的成長と経理部長、CFO の果たすべき役割」

■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2017 年 3 月 21 日(火)開催]

◇あずさ監査法人大阪事務所長 公認会計士

後藤研了氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

藤沼亜起 客員教授講演会

中央大学大学院フェロー、IFRS財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長
公認会計士と税理士の道にChallenge-国際会計人を目指す！

会計専門職大学院では、平成28年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、中央大学大学院フェロー、IFRS財団・日本アラムナイ・ネットワーク会長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。

多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成28年4月4日（月）
13：30～15：00
- 場所：千里山キャンパス第2学舎
2号館4階 C403教室
- 演題：公認会計士と税理士の道にChallenge
—国際会計人を目指す！
- 対象：会計研究科新入生・在学生、
幅広い分野で活躍する会計プロ
の道に興味のある学部生
- 事前申込は不要です。

<会場案内図>



第2学舎2号館
4階 C403教室



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

関西大学梅田キャンパス
開設
—— & ——
授業開講 記念

この伝統を、超える未来を。

130
KANSAI
UNIVERSITY

エレクトロニクス産業を中心とした 産業と経営の変遷

関西大学梅田キャンパスの開設を記念して、パナソニック株式会社特別顧問の大坪文雄客員教授をお招きし、講演会を開催します。現役で活躍されている社会人をはじめとして、多数の方のご来聴をお待ちしております。

入 場
無 料

2016
9.29 [THU]
18:30-20:00

講師

関西大学客員教授
パナソニック株式会社特別顧問

大坪 文雄 氏

場所

関西大学 梅田キャンパス (8階 大ホール)
(阪急梅田駅徒歩5分、大阪市北区鶴野町1-5)

参加方法

聴講希望の方は、9/22までにメールタイトルに
「9/29講演会申込：氏名(フリガナ)」を記入のうえ、
as@ml.kandai.jpへご送付ください。

主催：関西大学 会計専門職大学院
共催：社会人学び直し大学院プログラム



脇田 良一 客員教授講演会

明治学院大学名誉教授、金融庁/企業会計審議会委員・監査部会長

～公認会計士監査の『品質』とは何か？～

会計専門職大学院では、明治学院大学名誉教授、金融庁/企業会計審議会委員・監査部会長の脇田良一客員教授をお招きし、講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■ 日時：平成 28 年 10 月 5 日（水）
14：40～16：10（4 時限目）

■ 場所：千里山キャンパス第 2 学舎
2 号館 3 階 C301 教室

■ 演題：公認会計士監査の『品質』
とは何か？

■ 聴講自由・事前申込は不要です。



第2学舎2号館
3 階 C301 教室
＜14 時 30 分開場予定＞



講師 脇田良一 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

関西大学会計専門職大学院
電話 06-6368-1121（代表）
Mail：kaikai@ml.kandai.jp

竹中平蔵 客員教授講演会

東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授

～第四次産業革命と日本経済～

会計専門職大学院では、東洋大学教授、慶応義塾大学名誉教授の竹中平蔵客員教授をお招きし、講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 28 年 11 月 30 日（水）
16：20～17：50（5 時限目）
- 場所：千里山キャンパス
第 2 学舎 BIG ホール 100
- 演題：第四次産業革命と日本経済
- **聴講自由・事前申込は不要**です。

<会場案内図>



講師 竹中平蔵 氏

関西大学客員教授

<お問合せ先>

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail : kaikei@ml.kandai.jp

元住友商事株式会社副社長

島崎 憲明 客員教授講演会

IFRS財団アジアオセアニアオフィスアドバイザー、日本公認会計士協会顧問

企業の持続的成長と経理部長、CFOの果たすべき役割

会計専門職大学院では、IFRS 財団アジアオセアニアオフィスアドバイザー、日本公認会計士協会顧問の島崎憲明客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

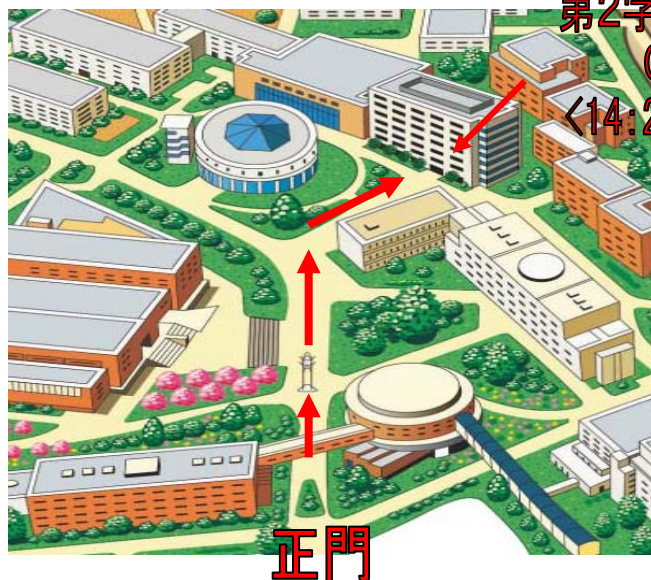
■ 日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）
14：40～16：10（4 時限目）

■ 場所：千里山キャンパス第 2 学舎
2 号館 3 階 C301 教室

■ 演題：企業の持続的成長と経理部長、
CFO の果たすべき役割

■ **聴講自由・事前申込は不要**です。

第2学舎2号館3階
C301教室
＜14:20開場予定＞



講師 島崎憲明 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

関西大学会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail : kaikai@ml.kandai.jp

後藤研了 客員教授講演会

あずさ監査法人大阪事務所長 公認会計士

～監査を取り巻く環境変化と求められる人材～

会計専門職大学院では、2017 年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、あずさ監査法人 大阪事務所長の後藤研了客員教授をお招きし、講演会を開催します。

公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 29 年 3 月 21 日（火）
15：10～16：40
- 場所：千里山キャンパス第 2 学舎
2 号館 5 階 C507 教室
- 演題：監査を取り巻く環境変化と
求められる人材
- 対象：会計研究科入学予定者・在学生
公認会計士を目指す学部生
- **事前申込は不要**です。

<会場案内図>



第2学舎2号館
5階 C507教室



講師 後藤研了 氏
関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121（代表）
E-Mail kaikei@ml.kandai.jp

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248